大正十四年七月

地質調査所特別報告　第二號

關東地震調査報告

第二

關東地震調査報告

地質調査所特別報告　第二號（大正十三年十月）

關東地震調査報告　第二

目次

千葉縣安房郡地震調査報文……一頁
千葉縣上總下總地震調査報文……五五頁
千葉市附近地震調査報文……一七一頁

千葉縣安房郡地震調査報文

千葉縣安房郡地震調査報文

目次

一　家屋ノ倒潰……一頁
二　倒潰方向……八頁
三　地裂……九頁
四　土地ノ崩壞……一一頁
五　井水……一一頁
六　瓦斯ノ噴出……一二頁
七　海嘯……一二頁
八　鳴動……一二頁
九　土地ノ隆起……一三頁
十　各町村ノ震災……一四頁
(一)北條町……一四頁
(二)館山町……二〇頁

(三)西岬村……二三頁
(四)神戸村……二四頁
(五)富崎村……二五頁
(六)長尾村……二七頁
(七)豐房村……二八頁
(八)館野村……二九頁
(九)九重村……三〇頁
(一〇)稻都村……三〇頁
(一一)那古町……三一頁
(一二)船形町……三二頁
(一三)八束村……三四頁
(一四)富浦村……三五頁
(一五)岩井村……三六頁
(一六)勝山町……三七頁
(一七)保田町……三八頁
(一八)佐久間村……四〇頁
(一九)平群村……四一頁

(二〇)瀧田村……四一頁
(二一)國府村……四二頁
(二二)白濱村……四三頁
(二三)七浦村……四四頁
(二四)千倉町……四五頁
(二五)健田村……四七頁
(二六)千歳村……四七頁
(二七)豐田村……四八頁
(二八)丸　村……四九頁
(二九)北三原村……五〇頁
(三〇)南三原村……五〇頁
(三一)和田町……五一頁
(三二)江見村……五二頁
(三三)太海村……五二頁
(三四)大山村……五三頁
(三五)鴨川町……五四頁

千葉縣安房郡地震調査報文

農商務技師　門倉三能

一、家屋ノ倒潰

家屋ノ地盤ヲナスハ冲積層第三紀層及是等ノ地層上ニ於ケル盛土ニシテ被害ハ冲積層及之ニ盛土セル地盤ニハ激甚ニシテ第三紀層ニ盛土セル地盤ニハ比較的少ク第三紀層ノ地盤ニハ殆ントナシ(第一版)

第三紀層ハ其頒布安房郡ノ大部ヲ占ムル丘陵地及山地ヲ構成シ主ニ頁岩ヨリ成リ砂岩及鬣岩ヲ挾ミ層向略東西ニシテ北方二十度乃至七十五度ニ傾斜ス、冲積層ハ主ニ砂ヨリ成リ礫及粘土ヲ挾ミテ水平ニ累疊シ海岸及河岸ノ狹長ナル平地ヲ構成スル地層ニシテ其面積狹少ナルニモ拘ハラス概シテ各町村ノ諸部落ハ本層ノ地域ニ集團セルヲ以テ被害モ亦タ多シ

安房郡各町村ニ於ケル震災狀況ハ第一表ニ之ヲ示シ就中住家ノ被害戸數ヲ全潰、半潰、燒失及流失ニ分チ各總戸數ニ對スル百分比ヲ算出シ其合計ヲ總被害戸數ノ百分比トシテ示セハ第二表ノ如シ

更ニ第一表及第二表ニ據リテ各町村ニ於ケル住家被害ノ順位ヲ夫々全潰戸數百分比ト總被害

戸數百分比トニ就キ其順位ヲ示セハ第二表ノ下段ノ如シ

家屋ノ倒潰ハ北條、那古、九重ノ冲積平地ニ於テ最モ甚シク那古町ノ九割六分七厘、館野村ノ九割四分七厘、北條町ノ九割二分九厘、九重村ノ八割七厘、國府村ノ七割九分、稻都村ノ六割六分ハ全潰セリ、北條町ノ西ニ接セル館山町ノ約七割ノ全潰竝ニ那古町ノ西ニ接セル船形町ノ約七割ノ全潰ニ止リシハ夫々其一部ノ第三紀砂岩上ニアリシニヨル、船形町ノ北ニ接セル富浦村ハ海岸ノ廣キ冲積平地ニアリテ地盤脆弱ナレハ其七割二分二厘ハ全潰セリ、東方太平洋岸ノ丸山川及瀬戸川流域ノ稍廣キ冲積平地ニ於テモ全潰家屋夥シク健田村ノ七割九分、千歳村ノ七割五分、豐田村ノ六割八分、南三原村ノ六割六分五厘ハ全潰シ殊ニ千倉町ノ如キハ其南半部第三紀頁岩上ニアリシヲ以テ僅ニ三割六分五厘ノ全潰ニ止レリ、以上ノ如ク全潰戸數六割以上ニテ總被害戸數七割以上ナル町村ハ那古、館野、北條、九重、健田、國府、千歳、富浦、館山、豐田、南三原、稻都、船形等ニシテ本郡南部ニ於テ館山灣ヨリ太平洋ニ至ル東西ノ低地帶ニアリテ被害最モ著シキ地域ナリトス

館山及千倉以南ノ地ニ於テハ全潰家屋ハ遙ニ少ク七浦村、白濱村、長尾村、富崎村及西岬村ハ多ク第三紀砂岩或ハ頁岩上ニアリテ地盤良好ナレハ被害特ニ輕微ニテ西岬村ハ一割三分五厘、長尾村ハ一割八厘、七浦村ハ三分一厘、富崎村ハ二分六厘、白濱村ハ一厘ノ全潰ニ止リ豐房村及神戸村ハ第三紀層ヨリ成レル山丘ノ麓又ハ其間ニアリテ地盤稍良好ナルモ前者ハ北方館山町、南方神戸村ニ接セル冲積地ニ被害多ク四割四分六厘ノ全潰アリ、後者ハ平砂浦ニ連ナル冲積地ニ被害多ク三割五分二厘ノ全潰アリ、南三原ヨリ北東太平洋沿岸ニハ被害急ニ少ク和田町ノ三分、江見村ノ一割六分四厘、太海村ノ一分五厘及鴨川町ノ二分五厘ハ全潰セリ、是レ概シテ家屋ノ第三紀

頁岩上ニアリシニヨルナルヘキモ北ニ至ルニ從ヒ次第ニ地震ノ微弱トナリシ結果ナルヘシ

富浦以北ノ東京灣沿岸ニハ第三紀頁岩又ハ砂岩ノ頗布廣ク冲積地狹少ニシテ全潰戸數ハ四割以下トナリ富浦ノ北ナル岩井村ハ三割七分五厘、勝山町ハ一割八分一厘、保田町ハ二割三分三厘ナリ、而カモ勝山町ノ被害少キハ第三紀砂岩ニ圍繞セラレ其一部ハ同岩上ニアリテ地盤ノ良好ナリシニ因レルモノナラン、要スルニ富浦ヨリ北ニ至ルニ從ヒ全潰家屋ノ數次第ニ減少シテ地震モ亦漸次弱カリシ結果ナルヘシ

富浦及南三原以北ノ第三紀層ヨリ成レル山地ニ於テハ河岸ノ冲積地極メテ狹少ニシテ被害少ク全潰家屋ハ八束村ノ二割一分七厘、瀧田村ノ二割一分七厘、丸村ノ二割二分、北三原村ノ六分六厘ヲ多シトス、北方ノ平群村、佐久間村、大山村等ニ至レハ殆ント被害ナシ

家屋倒潰ノ狀態ヲ見ルニ二階建ハ概ネ階下室ノミ全潰シテ折壓マリ其上ニ階上室墜落シテ恰モ平家建ノ如キ奇觀ヲ呈スルコト多シ、土臺石ノ移動ハ冲積層又ハ其上ノ盛土ヲ地盤トセル全潰家屋ニ於テ普通ニ起リシ現象ニシテ全潰戸數一割八分以上ノ町村卽チ那古町ヨリ順次勝山町ニ至ル七町十五箇村ニ亙リテ之ヲ觀察セリ、然レトモ震動ノ激甚ナリシト思惟セラルヽ那古町、館野村、北條町、九重村、健田村、國府村、千歲村等ニ於テハ冲積層或ハ其上ノ盛土ヲ地盤トセル全潰、半潰竝ニ略完全ナル家屋トテモ殆ント皆土臺石ハ原位置ヨリ多少內外側ニ移動セルモノヽ如シ

柱ノ土臺附ケノ箇處ニ於ケル下枘ノ拔ケタルコト及平家建屋根ノ小屋組ノ破壞セシコトハ激シキ上下動ニヨリテ倒潰セシヲ示シ是等ノ現象ハ被害ノ最モ甚シキ北條、千歲間ノ低地帶ニア

ル左記ノ町村ニ於テ之ヲ觀察セリ

北條町ノ北條西半部、八幡及湊、館山町ノ館山東半部、館野村ノ國分及廣瀨、九重村ノ二子、三島及園、那古町ノ那古及正木、船形町ノ船形東部及川名、富浦村ノ原岡、國府村ノ府中及番場、稻都村ノ池ノ内及御庄、健田村ノ瀨戸及大貫、千歳村ノ安馬谷(古川)、新田及三島、豐田村ノ新田、南三原村ノ大原

第一表　震災狀況調査表　(大正十二年九月十九日安房郡役所調査)

町村／區別	總戸數	全潰戸數	半潰戸數	燒失戸數	流失戸數	被害百分比	死亡數	負傷數	官衙倒潰 全潰	官衙倒潰 半潰	學校倒潰 全潰	學校倒潰 半潰	役場倒潰 全潰	役場倒潰 半潰
北條	一、六一六	一、五〇二	四七	一八		〇・九六	二三〇	一、〇四二	四	一	三		一	
館山	一、六七八	一、一二八	三八二	六二		〇・九三	一一六	一五二	三		二			
西岬	七九三	一〇七	一四六		一	〇・三二	一〇	一二	一		二			
神戸	五六三	一九七	八一	一		〇・四九	一一	五			一		一	
富崎	五八〇	一五	一九		六三	〇・一六	一	六						
長尾	六五四	七一	二三			〇・一四	二	三〇			二			
豐房	七二二	三二二	二〇四			〇・七二	三一	一〇			三			
館野	五〇七	四七八	一一	二		〇・九六	五〇	二八			一		一	
九重	四六二	三七二	六〇	一		〇・九三	二〇	四〇	二		一		一	
稻都	三二〇	二〇九	五一	一		〇・八二	二八	二六			一		一	
那古	九〇〇	八七〇	一八			〇・九八	一一五	三〇〇	一		一		一	
船形	一、一七八	六一五	一三九	三四〇		〇・九三	一二三	二九〇	一		一		一	
八束	三四〇	七一	四七	一		〇・三五	八	九			一			一

富浦	九六〇	六九〇	一五五	三		〇・八八	一〇一	一七二	一		一			
岩井	八六五	三二五	九〇			〇・四七	三九	六九	二			一		
勝山	九八六	一七九	一二六			〇・三〇	三五	七四	一					
保田	一、一三〇	二六四	六五			〇・二九	六〇	二六〇	二		一	一		
佐久間	四七九	四				〇・〇〇	三	二						
平群	七一一	三	三			〇・〇〇								
瀧田	四五六	九九	一二			〇・二四	二	九			一			
國府	三八一	三〇〇	六一			〇・九五	三五	六一			一		一	
白濱	九六二	一	一			〇・〇〇	一		一					
七浦	五七二	一八	五			〇・〇四	一	一〇				一		
千倉	一、三七八	五〇三	一九五	一		〇・五〇	三六	七八			二			
健田	五四〇	四二七	九〇			〇・九五	二〇	一五	一		一		一	
千歳	七一三	五三八	六四	一		〇・八四	三六	一五			一			
豐田	五六三	三八一	三七	一		〇・七四	三一	五二			一		一	
丸	七六五	一六五	三六			〇・二七	六	一〇			一		一	
北三原	四〇八	三二七	一二			〇・〇九					一			
南三原	四九五	三三八	五七			〇・七六	三	八六	四		二		一	
和田	七二八	三三	三三			〇・〇七	一	六四						
江見	五四八	九〇	七〇			〇・二九	三	一七			一			
太海	五一三	八	一八			〇・〇五								
曾呂	四七五	八	三七			〇・〇九								一
大山	五七三	一二	一四			〇・〇四								
吉尾	六三一	一八	三七			〇・〇八								
主基	五一七	一九	三七			〇・一〇		[illegible]				一		

第二表　住家被害百分比表

町村區別	總戸數	全潰戸數	半潰戸數	燒失戸數	流失戸數	被害數百分比	死亡數	負傷數	官衙倒潰 全潰	官衙倒潰 半潰	學校倒潰 全潰	學校倒潰 半潰	役場倒潰 全潰	役場倒潰 半潰
○田原	四六八	四五	四三			〇・一八								
鴨川	一、三六〇	三四	七〇			〇・〇七		二						
○西條	三六五	一三	四五			〇・一四								
○東條	六七一	一				〇・〇〇								
○天津	一、三九二													
○湊	六一六													
計	三一、五三一	一〇、四八八	二、六四一	四三二	六四		一、二〇六	二、九四九	二四	一	三三	四	一三	一

備考　町村名ノ上ニ〇印アルハ小倉技師ノ踏査區域ナリトス

町村區別	全潰戸數	全潰順位	半潰戸數	燒失戸數	流失戸數	計	總被害順位
北條町	九二・九	三	二・九	一・一		九六・九	二
館山町	六七・二	九	二二・七	三・七		九三・六	七
西岬村	一三・九	二四	一・九		アリ	三二・五	一九
神戸村	三五・二	一七	一四・四	アリ		四九・六	一六
富崎村	二・六	二・九	三・三		一一・〇	一六・九	二五
長尾村	一〇・八	二五	三・五			一四・三	二六
豐房村	四四・六	一四	二八・二			七二・八	一四
館野村	九四・七	二	二・二	アリ		九六・七	三
九重村	八〇・七	四	一二・九	アリ		九三・六	六

稲都村	六六・〇	一二	一六・〇	アリ		八二・〇	一二
那古町	九六・七	一	二・〇			九八・七	一
船形町	五三・〇	一三	一一・八	二八・八		九三・六	八
八束村	二一・七	二〇	一四・〇	アリ		三五・二	一八
富浦村	七二・二	八	一六・一	アリ		八八・三	九
岩井村	三七・五	一五	一〇・四			四七・九	一七
勝山町	一八・一	二二	一二・七			三〇・八	二〇
保田町	二三・三	一八	五・七			二九・〇	二一
佐久間村	〇・八	三三				〇・八	三三
平群村	〇・四	三四	〇・四			〇・八	三四
瀧田村	二一・七	二一	二・六			二四・三	二四
國府村	七九・〇	六	一六・〇			九五・〇	五
白濱村	〇・一	三五	〇・一			〇・二	三五
七浦村	三・一	二七	〇・九			四・〇	三二
千倉町	三六・五	一六	一四・二	アリ		五〇・七	一五
健田村	七九・〇	五	一六・六			九五・六	四
千歳村	七五・五	七	九・〇	アリ		八四・五	一〇
豐田村	六八・〇	一〇	六・五	アリ		七四・五	一三
丸村	二二・〇	一九	五・〇			二七・〇	三三
北三原村	六・六	二六	二・九			九・五	二七
南三原村	六六・五	一一	一一・五			七八・〇	一二
和田町	三・〇	二八	四・五			七・五	二九
江見村	一六・四	二三	一二・八			二九・二	二二
太海村	一・五	三二	三・五			五・〇	三〇

町村區別	全潰戸數	全潰順位	半潰戸數	焼失戸數	流失戸數	計	總被害順位
大山村	一九	三一	二四			四三	三一
鴨川町	二五	三〇	五一			七六	二八

二、倒潰方向

各町村ニ於ケル家屋及墓碑ノ倒潰方向竝ニ墓碑ノ廻轉方向ハ第三表ニ示セルカ如クニシテ家屋及墓碑ハ最モ多ク南或ハ南東ニ倒レ次ニ北或ハ北西ニ倒レタリ、墓碑ノ廻轉方向ハ一般ニ右廻リ十度乃至七十度ニシテ北條町、館山町、館野村、那古町、船形町、千倉町等ニ於ケル六七十度ニ達セルモノヲ最大トシ和田町ニ於ケル十度ナルモノヲ最小トス、茲ニ注意スヘキハ鴨川町ノ前原ニ於テ九月一日正午ノ大地震ヨリモ同二日正午ノ大地震ノ強烈ナリシコトニシテ第一日ニハ家屋ハ單ニ傾斜セシニ止リ第二日目ニ至リ全潰シ而カモ其方面ハ附近ノ太海村、江見村、和田町等トハ相異リテ東或ハ西ニ倒レ墓碑ノ如キモ亦東或ハ西ニ倒レテ左廻轉ヲ示セリ

第三表　倒潰方向一覽表

町村	家屋潰倒方向	墓碑ノ倒潰方向	廻轉方向	町村	家屋倒潰方向	墓碑ノ倒潰方向	廻轉方向
北條町	南東或ハ東	南東、東或ハ西	右廻リ四十五度乃至七十度	長尾村	南	南	
館山町	南	南或ハ北	右廻リ三十度乃至七十度	豐房村	南或ハ南東	南東或ハ北西	
西岬村	南			館野村	東或ハ南東	東或ハ西	右廻リ三十度乃至六十度
神戸村	南			九重村	南東或ハ東		
富崎村	南或ハ北	南或ハ北		稻都村	南東或ハ北西		

那古町	南	南	右廻リ五六十度	千倉町	南西或ハ南	南	右廻リ四十度乃至七十度
船形町	南	南	右廻リ四十五度乃至六十度	健田村	北西或ハ東		
八東村	南			千歳村	南西或ハ北東	東或ハ西	
富浦村	南			豐田村	南或ハ北		
岩井村	南	南	右廻リ三十度内外	丸村	南東	南東	
勝山町	南或ハ北	南或ハ北	右廻リ三十度内外	北三原村	南東		
保田町	南或ハ北	南或ハ北	右廻リ十八度乃至三十度	南三原村	南西或ハ北東		
佐久間村	北			和田町	南或ハ北	南或ハ北	右廻リ十度乃至十五度
平群村	南			江見村	南或ハ北	南或ハ北	右廻リ十八度内外
瀧田村	北			太海村	南或ハ北		
國府村	南或ハ北	南或ハ北	右廻リ十五度乃至三十度	大山村	南		
白濱村		北々西		鴨川町	東或ハ西	東或ハ西	
七浦村	北々西						

三、地裂

地裂ハ冲積地及盛土ニ多ク第三紀層ヲ切斷セルモノヽ存スルヲ見ス、北條、館山、那古ノ冲積平地ニ於テハ夥多ノ地裂ヲ生シ就中海岸ニ並行セル南北ノ延長一里餘、東西ノ幅七尺乃至三十三尺、深サ三尺乃至十三尺ナルモノ最モ著シ、其他ノ地裂ハ之ニ比スレハ小ニシテ其延長方向ヲ概觀スルニ河岸ニ沿ヒテ並走セル地裂ヲ除キテ東西及南北ノ地裂群アルカ如ク而カモ南北ノ地裂ハ主トシテ海岸ニ近ク發達シ海岸ヲ遠カルニ從ヒ漸次東西ノ地裂發達セリ、又國府村延命寺附近ニハ著シキ地裂二條アリテ大震當時乾燥セシ稻田ニ生シ東西ノ延長五町乃至十町ニ亙リ其

南側ノ稻田ノ落下セルコト四尺五寸或ハ五尺ニ及ヘル處アリ、是等ノ地域ヨリ東海岸ニ斷續シテ南三原村、千歲村、健田村等ニ至ル地裂モ亦悉ク軟弱ナル冲積地ノミヲ通過シ而カモ第三紀層ニ接スレハ多クハ其方向ヲ轉シ或ハ數條ニ分岐シテ消滅スルカ如シ、此外安房郡ニハ大ナル平地ナク特ニ著シキ地裂ナシ

大震當時地裂ノ處々ヨリ震動ノ繼續セル間多量ノ冷水ト共ニ砂或ハ泥土ヲ噴出シ噴水ノ高サハ一尺乃至四尺ニ及ヘリ、是レ大震ノ際地層振盪セラレ壓縮スルト共ニ地下ノ水、砂、泥土等ヲ噴出セシナルヘク地裂ノ深サハ噴水ノ寒冷ナリシト北條及那古ニ於テ深サ十尺乃至十五尺ノ井底ヨリ多量ノ砂或ハ泥土ヲ噴出セシトニ徵シテ恐ラク地下十尺乃至十數尺ニアル最上位ノ帶水層ニ達セルナラント思惟ス、左ニ各地ニ於ケル地裂及井底ヨリノ噴出物ヲ表示スヘシ

町村	地裂ノ噴出物	井底ノ噴出物
北條町	水砂泥土	砂
館山町	水砂	砂
那古町	水砂泥土	砂泥土
國府村	水砂	砂
豐田村	水	砂

町村	地裂ノ噴出物	井底ノ噴出物
南三原村	水砂	砂
千歲村	水砂	砂泥土
岩井村	水砂	ナシ
保田町	ナシ	泥土砂
長尾村	ナシ	鹽水

地裂ヨリ噴出セシ砂及泥土ハ地裂ノ窪處ニ沿ヒ一面ニ堆積シテ厚サ二分乃至三寸ノ薄層ヲナスコト多キモ單ニ噴出セル儘圓形ヲナシテ堆積シテ所謂噴砂孔(Sand-Crater)ヲ生スルコトアリ、噴砂孔ハ徑五寸內外ヨリ五尺ニ達スルモノアリテ其中心ニハ漏斗狀ノ噴水孔ヲ有シ噴水孔ノ

上緣ハ徑三分乃至四寸ノ圓形或ハ楕圓形ヲ呈セリ

四、土地ノ崩壞

土地ノ崩壞ハ一般ニ山丘ノ急斜面又ハ從來存在セシ崩壞箇處ニ發生シ第三紀層ト表土トノ境界ヨリ又ハ其分解シタルモノヽ崩落セルヲ多シトシ殊ニ第三紀砂岩又ハ頁岩ノ絕壁ノ崩壞セシハ海或ハ廣キ平地ニ突出セル岬或ハ山丘ノ尖端ニ於テ岩石ヲ裸出セル處ニ激甚ナリ、是レ地震動ヲ受クルト共ニ所謂緣邊振動(Marginal Vibration)ヲ發生シ崩落ヲ來セルモノナリ、卽チ那古ノ平地ニ突出セル那古山ノ崖崩ハ高サ四十米、幅三十米ニ亙リ第三紀砂岩ノ墜落セルモノニシテ住家二戸ヲ全ク埋沒シ尙十戸ヲ大半埋沒シテ卽死者三名ヲ出セリ、又東京灣ニ突出セル大房岬ノ崖崩ハ岬ノ尖端ニアル第三紀砂岩及頁岩ノ互層ノ崩壞ニシテ幅二百米、高サ三十米ニ及ヘリ

五、井水

井水ハ大震ノ際一般ニ混濁シ急ニ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ、此外地震動ノ激甚ナリシ町村ニ於テハ冲積地ノ井底ヨリ砂或ハ泥土ヲ噴出シ井內ヲ埋メ使用ニ堪ヘサルニ至ラシメタリ、卽チ北條町、館山町、國府村、豐田村、南三原村等ニテハ砂ヲ、那古町、千歲村、保田町等ニテハ砂及泥土ヲ井底ヨリ噴出シタリ、海岸ニ近キ長尾村ノ砂取及根本附近ニテハ鹽水ヲ井底ヨリ噴出シタリ

冲積地ノ帶水層ハ一般ニ砂礫ヨリ成リ各粒子間ニハ多クノ空隙アリテ此處ニ湧出スヘキ水ヲ

含メリ、此ノ如キ帶水層ハ大ナル地震動ノ爲メニ激シキ振盪ヲ受クレハ其層厚ノ膨縮ヲ生シ易ク或ル局部ハ壓縮セラレテ本層中ノ水、砂、泥土等ヲ井底又ハ地裂ヨリ噴出セシメテ其層厚ヲ減シ他ノ局部ハ之ニ反シテ其層厚ノ膨大ヲ來スモノナリ、從ヒテ概シテ井ノ附近ニ地裂ノ多キコト竝ニ地裂又ハ陷落地帶ニハ必ス之ニ竝走セル隆起帶アルコトハ自ラ肯定シ得ヘシ

六、瓦斯ノ噴出

保田町市井原字臺ケ崎ニ於ケル保田川上流ノ河底ヨリハ從來微量ノ瓦斯ヲ噴出セシニ大震後急ニ其噴出量ヲ增大セリ

七、海嘯

海嘯ノ襲來ハ海岸全般ニ亙ラスシテ寧ロ小局部ナル西岬村洲ノ崎及富崎村相ノ濱ニ起リシノミ、洲ノ崎ノ海嘯ハ高サ約二十尺ニシテ洲ノ崎燈臺下ニ於ケル海岸ノ住家一戸ヲ流失セシメタリ、相ノ濱ノ海嘯ハ大地震後二十分頃襲來シ高サ十五尺乃至二十尺ト稱セラレ海岸ノ住家六十三戸、漁船二十九隻ヲ流失セシメ死者一名負傷者六名ヲ出セリ

八、鳴動

九月一日正午以後十月上旬迄豫メ地震ノ前ニ大砲ノ如キ鳴動ヲ聞クコト多ク其方向ハ北部ノ地ニテハ南西、北條町附近ニテハ西、最南ノ地ニテハ西微北ニシテ相模灘ノ方位ヲ指示セルヲ知

ル、想フニ鳴動ハ海底ニ於ケル地層ノ急激ナル運動卽チ落下及衝上或ハ陷落等ノ結果生セシナルヘク其大ナル音響ヲ聞キテ後須臾ニシテ地震動ヲ感スルハ鳴動ノ發源地點ヲ稍遠カリ而カモ比較的近距離ニアルヲ意味スルモノナリ

九、土地ノ隆起

土地ノ隆起ハ南西端ノ神戸村及富崎村ノ約八尺ヲ最高トシ之ヨリ北ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ太平洋沿岸ノ鴨川町ニテハ三尺トナリ、東京灣沿岸ノ北條町及船形町ニテハ約六尺、勝山町及保田町ニテハ約五尺トナレリ、此ノ如キ土地隆起ノ結果海水急ニ減退シテ海岸砂濱ノ新ニ增加セルアリ、或ハ新島ヲ生シ或ハ漁港ノ干潟ト化セルアリ、之ヲ表示セハ左ノ如シ

町村	土地ノ隆起	砂濱ノ增加	備考
北條町	六尺	幅一町乃至一町半	—
館山町	六尺	幅一町乃至一町半	鷹ノ島、沖ノ島間ニ新島ヲ生ス
西岬村	六尺	幅一町	—
神戸村	八尺	幅六十五間	—
富崎村	八尺	幅一町	相ノ濱、布良漁港干潟トナル
長尾村	七尺	—	御神根島ニ徒涉シ得
白濱村	野島崎六尺乙潛四尺五寸乃至五尺	—	乙濱漁港干潟トナル
七浦村	五尺	幅十五間	—
千倉町	四尺	幅四十間	—
千歳村	四尺	幅四十間	—
南三原村	四尺	幅三十間	—
和田町	四尺	—	和田漁港干潟トナル
江見村	三尺	—	—
太海村	三尺	—	—
鴨川町	三尺	幅十七間	—
那古町	六尺	幅一町半	—
船形町	六尺	幅一町乃至一町半	港内ニハ干潟トナレル部分アリ
富浦村	六尺	幅四十間	—
岩井村	五尺	幅三十間	小浦灣ノ漁船避難地ハ干潟トナレリ
勝山町	五尺	—	岩井袋ノ漁船避難地ハ干潟トナレリ
保田町	五尺	幅三十間	—

十、各町村ノ震災

(一) 北條町

北條町ト館山町トハ互ニ連續セル一大市街ヲナシ鋸浦灣ニ臨ミ汐入川ヲ以テ兩町ノ境トナス、北條町ハ東西二十六町、南北三十町、館山町ハ東西一里二町、南北三十町五十間ニシテ行政區劃トシテ北條町ニハ北條、八幡、湊、新宿、長須賀、上野原及高井、館山町ニテハ館山、上眞倉、下眞倉、沼、柏崎、宮城、笠名及大賀アリ

家屋ノ倒潰　家屋ハ北條、新宿及八幡ニハ瓦葺、湊、長須賀、上野原及高井ニハ藁葺多シ、總戸數千六百十六戸中全潰千五百二戸(九割二分九厘)半潰四十七戸(二分九厘)、燒失十八戸(一分一厘)ニテ計九割六分九厘ノ被害アリ、地盤ハ汐入川ヨリ平久里川ニ亙レル廣濶ナル冲積層ニシテ北條ノ西半部、八幡及湊ノ海岸地帶ニテハ全ク砂ノミヨリ成リ北條ノ東半部、新宿、長須賀、上野原及高井ニテハ砂及粘土ヨリ成ル、本町全般ヲ通シテ倒潰並ニ燒失ヲ免レテ殘存セル家屋ハ僅ニ四十九戸ニ過キスシテ其多クハ「トタン」葺或ハ藁葺ニ屬シ就中北條ニ於ケル殘存建築物ノ主ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

房州銀行ハ鐵筋「コンクリート」ノ二階建ニシテ毫モ破損セル箇處ナク之ニ附屬セル木造家屋一棟モ亦基礎工事ノ堅固ナリシ爲メカ倒潰ヲ免レタリ

成瀬寫眞館ハ「トタン」葺陸屋根ノ洋風木造二階建ニシテ內外ノ壁ハ木摺ノ上ニ漆喰ヲ塗リタルモノナリ、被害トシテハ壁面ニ多少ノ龜裂ヲ生シ又壁ノ漆喰ノ落剝セル箇處アリ、殊ニ土臺附近ノ漆喰塗ノ破損並ニ龜裂著シトス

北條食堂ハ「トタン」葺陸屋根ノ洋風木造平家建ニシテ外部ハ南京下見張、內部ハ眞壁ナリ、壁ノ外ニ被害ハ殆ントナシ

北條稅務署ハ瓦葺木造平家建ニシテ外部ハ下見板張若クハ漆喰塗、內部ハ眞壁ナリ又漆喰塗ノ外部及眞壁ニハ龜裂ヲ生セリ

大內丑之介氏ノ別莊ハ赤瓦ノ文化住宅ニ屬スル木造二階建ニシテ外部及內部共ニ鐵網張ノ上ニ關東州產ノ「ドロマイト」粉末ヲ原料トセル所謂「ドロマイト」漆喰ヲ塗リタルモノニシテ土臺石ニハ房州石ヲ使用セリ、屋根ハ急勾配ニテ土居土ナシニ葺ケル引掛棧瓦ナレハ少シモ落チス、「ドロマイト」漆喰壁ハ土臺附近ニ於テノミ龜裂ヲ生シ土臺石ハ一部破壞シ或ハ原位置ヨリ外側ニ向ヒ移動セルモノアリ

高島屋呉服店ノ別莊ハ大內別莊ニ近クアリテ赤瓦葺洋風ノ木造二階建ニシテ外部ハ南京下見張、內部ハ木摺漆喰壁ヨリ成リ土臺石ニハ房州石ヲ使用セリ、屋根ハ五寸勾配ニテ土居土ナシニ葺ケル引掛棧瓦ナレハ殆ント落チス、煉瓦造ノ煙突倒潰セシ爲內部ノ壁ハ甚シク破損ス、土臺石ハ原位置ヨリ內外側ニ向ヒ移動セルモノアリ、此外該附近ニハ板葺洋風ノ木造平屋建一戶完全ニ殘存シ土臺石スラ毫モ移動セサルカ如シ

本町ニ於ケル官衙、學校、病院、銀行等ハ殆ント全潰シ其名ヲ擧クレハ安房郡役所、北條區裁判所、北

條警察署、千葉縣米穀檢査所北條支所、北條町役場、北條停車場、縣立安房中學校、郡立安房高等女學校、北條小學校、私立安房女學校、私立九皐學館、私立安房幼稚園、私立北條文庫、北條及館山組合傳染病院、北條病院、安房銀行、九十八銀行北條支店等ナリ、北條郵便局ノミハ半潰ノ程度ニ止マレリ、此外神社十三社及寺院七箇寺ハ悉ク全潰セリ

燒失區域ハ汐入川東岸ニテ潮留橋ヨリ孫橋ニ通スル道路ノ西側一帶ノ家屋、海岸通ノ久太樓附近及其東方少距ノ貴家醫院附近ノ三箇處ニシテ久太樓及貴家醫院ハ全潰ト同時ニ出火シ共ニ其土臺石ノ如キハ原位置ヨリ內外側ニ移動セルヲ認メタリ、汐入川東岸ニハ大ナル地裂ヲ生シテ家屋ハ悉ク全潰シ土臺石ノ如キハ著シク移動セルヲ認メラルヽニヨリ恐ラク全潰ト同時ニ出火セシナラント想像ス、從ヒテ此燒失戸數ハ全潰戸數中ニ編入スヘキモノナリ

倒潰方向　家屋ハ南東及東ニ倒レシモノ多ク西ニ倒レシモノモ亦少カラス、八幡ノ八幡神社ニ於ケル花崗岩ノ奉納獅子一對ハ臺石ヨリ落下シテ東方約四尺ノ處ニ在リ、北條北町ノ不動院ノ墓ハ多ク南東ニ倒レ、北條仲町ノ法性寺ノ墓ハ東或ハ西ニ倒レタリ、而シテ墓石ニ於ケル廻轉方向ハ右廻リニシテ四十五度乃至七十度ヲ示セリ

地裂　海岸ノ陷落地帶ハ南北一里十町ニ亙リ各地點ニ於ケル東西ノ幅竝ニ深サ及噴出物ヲ示セハ左ノ如シ

館山水產學校ノ北西隅ハ該地帶ノ南端ナリ

館山測候所ノ東裏　幅三十三尺　深サ十三尺　水及砂ヲ噴出ス

北條棧橋ノ鏡浦亭　幅十尺　深サ六尺　水砂及泥土ヲ噴出ス

町設休憩所ノ東裏　幅十尺乃至十六尺　深サ十三尺　水砂及泥土ヲ噴出シ池トナレリ

早稲田大學水泳部ノ海岸幅十二尺深サ八尺　水及砂ヲ噴出ス

第一高等學校水泳部ノ海岸幅七尺深サ五尺　水及砂ヲ噴出ス

開成中學校水泳部ノ海岸幅七尺　深サ五尺　水砂及泥土ヲ噴出ス

湊養魚場「カネタ」小屋幅七尺　深サ三尺　水及泥土噴出ス

平久里川口ハ該地帶ノ北端ナリ

此海岸陷落地帶ノ東側ニハ約一里ノ間連續シテ之ニ竝走セル地裂ノ一群アリテ其數最モ多キハ八條ニ達シ幅五寸乃至二尺、深サ七寸乃至三尺ニテ一般ニ多量ノ水、砂及泥土ヲ噴出シ其噴水ノ高サハ南部ニ於テ低ク北部ニ至ルニ從ヒ漸次高キカ如シ、北條棧橋及早稲田大學水泳部附近ニテハ一二尺ニシテ湊海岸ノ鈴木長藏氏ノ宅地ニテハ四尺ニ及ヘリ、尚此地裂ノ一部ト認ムヘキ龜甲形ヲナセル地裂ハ北條棧橋通ノ路上ニアリ

此外夥多ノ地裂ヲ生セシモ其延長方向ヲ概觀スレハ河岸ニ沿ヒテ竝走セル地裂ヲ除キテ東西及南北ノ地裂群アルカ如ク而カモ南北ノ地裂ハ主トシテ海岸ニ發達シ海岸ヲ遠カルニ從ヒ漸次東西ノ地裂發達セリ、左ニ主ナル地裂ヲ列擧スヘシ

潮留橋ノ地裂ハ汐入川東岸ニ沿ヒ潮留橋ヨリ孫橋及要橋ヲ經テ小原製油所附近ニ至ルモノニテ幅五寸內外ヨリ一尺八寸ニ達シ深サ二尺以下ナリ、要橋及孫橋附近ニテハ多量ノ水ヲ噴出セリ

境橋ノ地裂ハ汐入川支流ノ北岸ニ沿ヒ新宿裏ヨリ境橋ヲ經テ孫橋附近ニ至ルモノニテ境橋ニ

於ケルモノハ幅七寸乃至一尺アリ、其北側ノ土地ハ約三尺落下セリ

孫橋ノ地裂ハ孫橋ヨリ木村屋ニ至ル縣道上ニアリテ北東ヨリ南西ニ延長シ幅八寸乃至一尺五寸、深サ一尺二寸以下ニテ局部ニハ龜甲形ヲナセル地裂アリ

北條海岸通ノ地裂ハ久太樓ヨリ福住ニ至ル路上ニアル數條ノ地裂群ニシテ幅一尺乃至二尺三寸、深サ二尺五寸以下ナリ、福住附近ニテハ多量ノ水及砂ヲ噴出セリ

北條停車場通ノ地裂ハ略東西ニ走レル二條ノ地裂ニシテ道路ノ南北兩側ニアリ、北側ノ地裂ハ町設案內所ヨリ丸太運送店ニ至ル間ノ地盤ニ生シ以テ其上ノ家屋ヲ倒潰セシメタリ、南側ノ地裂ハ北條食堂ノ北隣ヨリ停車場ノ南端ニ至ル間ノ地盤ニ生シ以テ其上ノ家屋ヲ倒潰セシメタリ、共ニ其幅五寸以下、深サ一尺以內ナルカ如シ

三軒町ノ地裂ハ鐵道踏切ヨリ縣道ニ至ル路上ニアル東西ノ地裂ニシテ幅二寸乃至一尺、深サ八寸以內ナリ

八幡ノ濱田屋前縣道ノ地裂ハ濱田屋ヨリ八幡神社入口ニ至ル間ニ生セシ南北ノ地裂群ニシテ幅一寸乃至五寸、深サ五寸以內ナリ

湊橋ノ地裂ハ平久里川ノ兩岸ニ沿ヒ並走セルモノニシテ幅一尺五寸內外、深サ二尺以內ナリ、湊橋ノ北半部ハ墜落シタリ、此地裂ノ爲メニ平久里川鐵橋ノ南北兩側ノ土地ハ約六尺陷落セリ

上野原縣道ノ地裂ハ用水路ニ沿ヘル縣道上ニアリテ東西ニ走リ幅五分乃至五寸、深サ八寸以內ニテ東方國分ニ於ケル地裂ニ連續セルモノナリ

地裂、陷落地帶及乾燥セル田畑ニ屢水ト共ニ噴出セシ砂或ハ泥土ハ單ニ窪處ニ沿ヒ堆積シテ厚

サ二分乃至三寸ノ薄層ヲナスコト多キモ稀ニ噴出セル儘圓形ヲナシテ堆積シ其中心ニ漏斗狀ノ噴出孔ヲ存スルコトアリテ噴出孔ノ上緣ハ圓形或ハ楕圓形ヲナスモノナリ、北條海岸通福住ノ南東約一町、道路ノ南側ナル畑地ニハ大小幾多ノ圓形ヲ呈セル砂ノ堆積存在シ其最モ大ナルモノハ圓ノ直徑三尺四寸ニシテ噴出孔ノ上緣ハ長徑四寸、短徑二寸五分ノ楕圓形ヲナシ噴出孔ノ深サ五寸アリ、又湊養魚場「カネタ」小屋ノ陷落地帶ニハ大小數個ノ圓形ヲ呈セル泥土ノ堆積存在シ其最モ大ナルモノハ圓ノ直徑五尺ニシテ噴出孔ノ上緣ハ直徑四寸ノ圓形ヲナシ噴出孔ノ深サハ三寸アリ

井水　一般ニ濁リ減水シテ稀ニ一時斷水セルモノアリ、井底ヨリ多量ノ砂ヲ噴出セシ地域ハ北條ノ濱通、八幡及湊ナルカ如ク三軒町濱小松ノ小原喜助氏ノ井ハ深サ八尺ナリシニ砂ヲ地並迄噴出シ、安房中學校前ノ三好英吉氏ノ井ハ深サ十三尺ナリシニ砂ヲ地並以下二尺ノ處迄噴出シ、湊ノ開成中學校水泳部附近ノ井ハ深サ十尺ナリシニ砂ヲ殆ント地並迄噴出シテ井內ヲ埋メ以テ斷水セラルヽニ至レリ

鳴動　北條ニテハ鳴動ハ常ニ西方海中ヨリ來リ九月一日正午ノ大地震以後同月三日迄ノ間ハ平均十分毎ニ大砲ノ如キ鳴動ヲ地震ノ前ニ聞キ同月四日以後ニハ鳴動ヲ豫メ伴フ南北動ノ地震ト鳴動ヲ伴ハサル東西動ノ地震ト交互ニ起レルカ如ク同月二十六日午後五時十五分及同五時二十分ノ兩地震ノ前ニモ西方海中ヨリ大砲ノ如キ鳴動來レリ

土地ノ隆起　北條ノ海岸砂濱ハ幅約一町乃至一町半帶狀ヲナシテ新ニ增加シ海水ノ減退ハ北條棧橋尖端ニ於テ之ヲ測定セシニ約六尺ナリ

(二) 館山町

家屋ノ倒潰　家屋ハ館山及柏崎ニハ瓦葺、上眞倉、下眞倉、沼、宮城、笠名及大賀ニハ藁葺多シ、總戸數千六百七十八戸中全潰千百二十八戸(六割七分二厘)、半潰三百八十二戸(二割二分七厘)、燒失六十二戸(三分七厘)ニテ計九割三分六厘ノ被害アリ、尙被害戸數ヲ各大字別ニ示セハ左ノ如シ

大字名	全潰	半潰	燒失	大字名	全潰	半潰	燒失
館山	四四二戸	一五八戸	六二戸	宮城	一四七戸	三三戸	〇戸
上眞倉	八七	四六	〇	笠名	五三	二四	〇
下眞倉	八〇	一五	〇	大賀	二六	八	〇
沼	一七三	四〇	〇	計	一一二八	三八二	六二
柏崎	一二〇	五八	〇				

冲積層ノ砂及粘土ヲ地盤トセル館山ノ大部、上眞倉、下眞倉、沼、柏崎ノ大部及宮城ノ一部ハ北條町ニ於ケルカ如ク家屋激シク倒潰シテ殆ント全滅セリ、第三紀砂岩ヲ地盤トセル館山ノ城山、北下公園及町役場附近、柏崎ノ館山西公園及國司神社附近、宮城ノ大部、笠名、大賀等ハ被害輕微ニシテ家屋ハ半潰シ或ハ傾斜シ或ハ略完全ニ建テル狀態ニテ土臺石ノ如キハ原位置ヨリ移動セルモノ少ク偶全潰セル家屋ハ砂岩上ニ厚ク盛土セル地盤ニアルカ如シ、然レトモ鷹ノ島ニ於ケル水產講習所實驗場ハ直接第三紀砂岩上ニ建設セラレシニ拘ラス全潰シテ土臺石ハ原位置ヨリ內外側ニ移動セリ

本町ニ於ケル官衙、學校、病院、銀行等ハ主トシテ地盤ノ脆弱ナル館山及柏崎ニアリテ館山郵便局、館山測候所、税關監視所、北部館山小學校、館山病院、鈴木病院、安房銀行支店、古川銀行支店、房州銀行支店、館山劇場、館山鐵工所、長谷川造船所等ハ皆全潰シ汽船扱所ハ完全ニ、安房水産學校及海岸「ホテル」ハ各其一部倒潰セルノミニテ略完全ニ殘リ館山棧橋ハ中央ニテ二ツニ破壞セリ、館山町役場及南部館山小學校ハ共ニ地盤堅固ナル砂岩上ニアリテ略完全ニ殘リ此外神社ハ總數二十社中十三社全潰シ寺院ハ總數三十三悉ク全潰セリ

燒失區域ハ館山地内第一區、第二區及第三區ニアリ、第一區ノ五十五戸及第二區ノ三戸ノ燒失家屋ハ相隣接シテ一地帶ヲナシ汐入川及館山棧橋通ノ間ニテ安房銀行支店ノ西方ニ位シ其附近ニハ小ナル地裂數多アリ且土臺石ノ如キハ激シク原位置ヨリ移動セルモノアルヲ以テ恐ラク全潰後出火セシモノナラン、第三區ノ四戸ノ燒失家屋ハ松岡旅館附近ニテ明カニ全潰後出火セシモノナリ從テ是等ノ燒失戸數ハ寧ロ全潰戸數中ニ編入スヘキモノナリ

倒潰方向　家屋ハ多ク南ニ倒レ稀ニ北ニ倒レシモノアリ、上眞倉ノ本蓮寺、妙臺寺、先光寺等ノ墓ハ皆南或ハ北ニ倒レ右廻轉四十度乃至七十度ヲ示セリ、柏崎ノ總持院ノ墓ハ多ク南ニ倒レ稀ニ北ニ倒レシモノアリテ右廻轉五六十度ヲ示セリ、大賀ノ長泉寺ノ墓ハ殆ント南ニ倒レ右廻轉三十度乃至五十度ヲ示セリ

地裂　館山測候所東裏ノ陷落地ハ北條海岸ノ陷落地帶ノ南端ナルコトハ既ニ之ヲ記載セシヲ以テ茲ニ省略ス、本町ハ北條町ニ比シ冲積地ノ面積小ナレハ從テ地裂モ亦極メテ少ク就中主ナル地裂ヲ擧クレハ左ノ如シ

館山棧橋通ノ地裂ハ海岸ヨリ鈴木商店ニ至ル間ノ道路ヲ横斷シテ北東ヨリ南西ニ並走セル二十餘條ノ地裂群ニシテ夫々幅五寸以下、深サ三寸乃至七寸アリ、殊ニ海岸ニ近キ地裂ヨリハ多量ノ水ヲ噴出セリ

館山病院附近ノ地裂ハ富崎縣道ヲ横斷シテ略東西ニ並走セル五六條ノ地裂群ニシテ夫々幅三寸以下深サ五寸內外ナルモ延長約二町ニ及ヘルモノアリ

柏崎ノ地裂ハ房州銀行支店前ノ道路ニ之ニ沿ヒテ略東西ニ並走セル二條及鈴木病院ト國司神社トノ間ノ道路ニ之ヲ横斷シテ略東西ニ並走セル四條ノ小地裂群ニシテ夫々延長約一町、幅三寸以下、深サ五寸以內ナリ

大賀ノ地裂ハ字中田ノ道路上ニアリテ南北ノモノ三條及東西ノモノ一條ヨリ成リ延長三十間乃至二町、幅五寸乃至二尺、深サ二尺以內ニテ一部分陷落四尺ニ及ヘル處アリ

井水　一般ニ濁リ減水シ館山棧橋附近ノ井底ヨリハ砂ヲ多少噴出セリ、海岸「ホテル」ノ東南東少距ノ地ニ著藥泉ト稱スル鹹質冷泉アリテ東京市芝區烏森町秋山平吉氏ノ所有ニ係リ從來地表以上約三尺噴出セシニ九月一日正午ノ大地震後急ニ斷水シテ湧出セサルニ至レリ

鳴動　西方海中ヨリ來リ北條町ニ於ケルト同樣ナリ

土地ノ隆起　館山ノ海岸砂濱ハ幅約一町乃至一町半帶狀ヲナシテ新ニ增加シ海水ノ減退ハ北條海岸ニ於ケルカ如ク約六尺ナリ、鷹ノ島ハ約七尺隆起シ干潮時ニハ西ノ濱及柏崎ヨリ徒涉シ得ヘク其間砂濱ト化シテ全ク陸續キトナレリ、其西ナル沖ノ島ハ約八尺隆起シ兩島ノ間ニテ寧ロ沖ノ島ニ近ク新ニ三島出現シ其中東ナル大小ノ二島ハ從來中根ト稱セシ磯ニシテ北ニアル

大島ハ徑約一町ニテ水上ニ現ハルヽコト三尺乃至四尺、南ニアル小島ハ徑約三十間ニテ水上ニ現ハルヽコト約二尺ナリ、又西ナル大島ハ從來「ポーポー」ト稱セシ磯ニシテ徑約一町三十間ニテ水上ニ現ハルヽコト二尺乃至三尺ナリ、大賀ヨリ沖ノ島ニハ從來小舟ニテ往復セシニ地震後海水減退ノ結果目下干潮時ニハ大賀海岸ヨリ沖ノ島ニ向ヒ其半途迄狹長ナル砂濱現ハレ殘餘ノ半途ハ水深三尺內外トナリタレハ徒涉容易ナリ、鷹ノ島、中根及「ポーポー」ノ新島、竝ニ沖ノ島ハ共ニ同一ナル第三紀砂岩ヨリ成リ砂岩ハ屢薄キ蠻岩ヲ挾ミ層理發達シ層向略東西ニシテ北二十度乃至二十五度ニ傾斜ス

(三) 西岬村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數七百九十三戸中全潰百七戸(一割三分五厘)半潰百四十六戸(一割九分)ニテ計三割二分五厘ノ倒潰アリ、外ニ流失家屋一戸アリ、本村ノ諸部落ハ第三紀頁岩或ハ砂岩ノ上ニアルモノ多クシテ被害少シ就中甚シキハ館山町ニ接續セル北海岸ノ見物、鹽見、香等ナリトス

倒潰方向　家屋ハ南ニ倒レシモノ多シ

地裂　見物、鹽見、波左間及坂田ノ沖積地或ハ道路ニ小ナル地裂數多アリ

土地ノ崩壞　洲ノ崎及坂田間ノ道路ニ沿ヘル山崩ハ第三紀頁岩及表土ノ崩落セルモノニシテ幅五間、高サ七間アリ

井水　濁リ減少スルモノ多シ

海嘯　本村ノ南及北ノ海岸ニハ毫モ海嘯ナキニ拘ラス西端ノ洲ノ崎ニノミ局部的ニ海嘯襲來シ洲ノ崎燈臺下ニ於ケル海岸ノ住家一戸ヲ流失セシメタリ、海嘯ノ波ノ高サハ約二十尺ナリト稱セラル、洲ノ崎燈臺ハ第三紀頁岩上ニアリテ小破シ點燈スル能ハス、又住家ハ大ナル破損ヲナセリ

鳴動　西方海中ヨリ來リ音響ノ强サ最モ大ニシテ東京下町ニ於ケル家屋破壞ノ爆音ヲ川口町或ハ蕨町ニテ聞ケルカ如クニ感セラレタリ

土地ノ隆起　見物ノ海岸砂濱ハ幅約一町帶狀ヲナシテ增加シ海水ノ減退ハ約六尺ナリ、洲ノ崎海岸ノ岩盤ハ新ニ現ハレ其岩崖ニ附著ノ儘斃死セシ貝類ニヨリ海水ノ減退ハ約六尺以上ナルヲ認メタリ

(四) 神戸村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數五百六十三戸中全潰百九十八戸(但シ全潰後燒失セシ一戸ヲ含ミ三割五分二厘)、半潰八十一戸(一割四分四厘)ニテ計四割九分六厘ノ倒潰アリ被害ハ冲積地ニ激シク下藤原及洲ノ宮ハ全滅シ、茂名及佐野ハ各七割、犬石ハ六割、大神宮ハ四割、龍岡及中里ハ各三割、布沼ハ一割ノ倒潰ヲ算セリ

倒潰方向　家屋ハ南ニ倒レシモノ多シ

地裂　洲ノ宮附近ノ地裂ハ幅二尺乃至五尺ニ及ヘルモノアリテ約五尺ノ陷沒ヲナセルアリ、長キモノハ約八町ニ亙レルアリ、其他小ナル地裂數多アリ、茂原ノ村道、下藤原ノ縣道、蒲生ノ縣道等

ニ地裂多シ

土地ノ崩壞　上藤原ノ切割ニハ第三紀頁岩上ノ表土ノミ切割内十間位ニ崩落セリ

井水　白濁シ多ク減水シ稀ニ斷水セルアリ

鳴動　西微北ノ西岬方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　平砂浦ノ砂濱ハ幅約六十五間新ニ增加シ磯ノ小島トナレルモノニ就キ海水ノ減退ヲ見ルニ約八尺以上ナルヘシ

(五) 富崎村

家屋ノ倒潰　本村ハ布良及相ノ濱ヨリ成レル小村ニシテ第三紀頁岩上ニアルヲ以テ總戸數五百八十戸中全潰十五戸(二分六厘)半潰十九戸(三分三厘)ニテ計五分九厘ノ倒潰ニ過キサリシニ相ノ濱ニノミ海嘯襲來シテ住家六十三戸(一割一分)ヲ倒潰或ハ流失セシメタリ、故ニ地震及海嘯ニヨル總被害ハ一割六分九厘トナル、布良測候所ハ布良ノ南方ニテ富崎村ト長尾村トノ境界ナル海岸ノ山上ニアリテ住家ニ小破損ヲナセリ

倒潰方向　家屋及蓮壽院ノ墓ハ南或ハ北ニ倒レシモノ多シ、地裂ハナク山崩ハ布良測候所ノ下ニ僅ニ第三紀頁岩ノ小崩壞アリシノミナリトス

井水　稍濁リシノミニテ增減ナシ

海嘯　本村役場附近ノ高處ニ於テ海嘯襲來ノ實況ヲ目擊セシ本村助役石井新藏及村會議員小谷喜錄兩氏ノ談ニ據レハ九月一日午前十一時五十八分最初ノ大地震起リ五分後第二回ノ地震

ト同時ニ海水ハ急ニ減退シテ相ノ濱及布良ノ濱ノ岩盤遙カ沖合迄露出シ平砂浦ノ砂濱ハ幅約四町ノ間干潟トナル、更ニ約十五分後ニ起リシ第三回ノ地震ト同時ニ相ノ濱ニ海嘯襲來セリ、海嘯ハ波ノ高サ十五尺乃至二十尺ト稱セラレ從來ノ海岸線ヨリ陸地ニ向ヒ約二町ノ範圍ニ浸入セシモ布良ノ濱ト相ノ濱トノ間ニ南西ニ突出セル第三紀蠻岩(頁岩中ニ挾在ス)ヨリ成ル防波堤ノ存スルアリテ海嘯ノ勢ヲ減殺シ尙激浪ノ之ヲ乘越スコト數尺ニ及ヒシカ被害ヲ蒙ルニ至ラサリシナリ

海嘯ノ襲來狀況ハ最初役場ノ北々西ナル西岬村字根本ノ沖合ニ巨大ナル白波起リ其消失スルヤ否ヤ高キ「ウネリ」トナリテ平砂浦ニ沿ヒ南々東ニ進ミ相ノ濱ニ至リ布良ノ防波堤ニ衝突シテ此處ニ大ナル渦卷ヲ生シ爲メニ海岸ノ住家六十三戸ヲ破壞シテ其中唯一戸ヲ全ク流失セシメ殘リノ六十二戸ハ原位置附近或ハ陸上幅約二町ノ範圍內ニ之ヲ殘留シ此際流失セシ漁船二十九隻、死者(病老爺)一名及負傷者六名ヲ出シ而カモ流失物ハ悉ク平砂浦ニ漂著セリ

最初ノ海嘯後五分ニシテ第二回ノ海嘯襲來シ其浪ノ高サ約十尺ト稱セラル、其後海浪ハ間斷ナク從來ノ海岸ヨリ沖ニ向ヒ約一町ノ間ヲ往來シツヽ當日ノ夜ニ入リ九月二日ノ朝ニ至リ海岸ハ幅約一町ノ間新ニ岩盤ノ露出セル干潟トナリ又頁岩ノ層理面ニ沿ヘル深キ彎入部ヲ充塡セシ砂ハ海嘯ノ爲メニ洗去ラレテ茲ニ深キ淵ヲ構成セリ

海嘯襲來ノ範圍ハ西岬村字根本ノ西方少距ノ伊戸及川名ニ於テ毫モ海嘯ノ襲來ナキヲ以テ見レハ相ノ濱竝ニ平砂浦一帶ナルカ如シ

鳴動　地震ニヨル鳴動ハ北西ノ西岬村字川名及洲ノ崎方向ヨリ來ル

土地ノ隆起　前述ノ如ク地震後海水急ニ減退シテ干潮時ニハ相ノ濱及布良ノ濱ハ殆ント干潟トナリ漁港タルノ價値ナキニ至レリ、布良ノ防波堤ニ於テ之ニ附著シ斃死セシ貝類ノ最上部ト滿潮時ノ海水面トノ垂直距離約八尺以上ナルヲ認メタリ

相ノ濱漁業組合ノ所藏ニ係レル昔ノ地圖ニ據レハ現在ノ縣道直下ナル山麓ヨリ渚ニ至ル海岸ノ居住地帶ハ元祿十六年ノ大地震前ニハ海中ニアリテ漁船ノ往來繁キ小港灣ナリシカ元祿地震後急ニ著シク土地隆起シテ長大ナル砂濱ヲ生シ爾來此新ナル砂濱ニ家屋ヲ建築シテ居住スルニ至レリ、然ルニ近年海水漸次砂濱ニ浸入(卽チ土地ノ低下ヲ意味ス)セシカハ從ヒテ居住地帶モ亦漸次後退シツヽアリシナリ、偶今回ノ大地震ニテ急ニ再ヒ土地隆起シ海嘯ハ元祿地震前ノ渚卽チ山麓附近迄浸入セリ

(六) 長尾村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數六百五十四戸中全潰七十一戸(一割八厘)、半潰二十三戸(三分五厘)ニテ計一割四分三厘ノ倒潰アリ、被害ハ冲積地ニアル根本、砂取及横渚ニ多ク第三紀頁岩上ニアル本郷及蠻岩ヲ薄ク被覆セル冲積地ニアル瀧口ニハ殆ントナシ、就中倒潰家屋ノ多キハ根本ナリトス

倒潰方向　一般ニ家屋ハ南ニ倒レシモノ多シ根本ノ海福寺ニ於ケル墓ハ多ク南ニ倒レ稀ニ北ニ倒レシモノアリ

地裂　根本、砂取及横渚ニ數條ノ地裂アリテ大ナルモノハ幅一尺八寸、深サ二尺、延長五町アリ

土地ノ崩壞　根本字早崎(布良測候所ノ東少距ノ地)ノ崖崩ハ第三紀頁岩ノ崩壞ニシテ縣道約十間ヲ埋沒セリ

井水　本郷附近ニテハ白濁シ斷水セルモノ少カラス、砂取及根本附近ニテハ濁リテ一般ニ減水シ稀ニ鹽水ヲ噴出セルモノアリ

鳴動　北西ノ西岬方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　根本海岸ノ孤島ナル御神根島ハ海藻ノ採取地ニシテ從來川口ヨリ小舟ニテ往復セシニ地震後急ニ約七尺海水減退セシヲ以テ干潮時ニハ全ク徒涉シ得ルニ至レリ

(七) 豐房村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺及瓦葺相半シ總戸數七百二十二戸中全潰三百二十二戸(四割四分六厘)、半潰二百四戸(二割八分二厘)ニテ計七割二分八厘ノ倒潰アリ、被害ハ局部ニ限ラレ館山町ニ接續セル冲積地ニアル大戸ノ全潰三十戸、半潰五戸及西長田ノ全潰三十四戸、半潰三十一戸ト神戸村ニ接續セル冲積地ニアル神餘下ノ全潰八十九戸、半潰四十戸トヲ著シトス、西長田、神餘間ノ峠ナル切割ニ於ケル吉田晶ノ住家ハ第三紀頁岩上ニアリテ九月一日ノ大地震當時激シキ動搖ヲナセシモ棚ノ上ノ瓶類スラ落下セサリシト云フ

倒潰方向　家屋ハ大戸及西長田ニテハ南或ハ南東ニ倒レシモノ多ク大圓寺ノ墓ハ南東或ハ北西ニ倒レタリ

神餘下ノ家屋ハ多ク南ニ倒レタリ

地裂　大戸及神餘下ノ冲積地ニ小ナル地裂數多アリ

井水　一般ニ濁リ一時減水セシモ漸次增シテ恢復セルカ如シ

鳴動　西長田ニテハ西方ヨリ來リ、神餘下ニテハ西微北ノ西岬方面ヨリ來ル

(八) 館野村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺ノ外瓦葺少カラス、總戸數五百七戸中全潰四百八十戸(但シ全潰後燒失セシ二戸ヲ含ミ九割四分七厘)、半潰十一戸(二分二厘)ニテ計九割六分九厘ノ倒潰アリ、被害ハ冲積地ニ限ラレ國分、稻、腰越、萱野、廣瀨等ノ部落ハ全滅シ第三紀砂岩上或ハ之ニ接セル冲積地ニアル安布里及大網ニ於テ被害稍輕微ナリトス

倒潰方向　家屋ハ東或ハ南東ニ倒レシモノ多シ、國分ノ國分寺ニ於ケル墓ハ多ク東或ハ西ニ倒レ右廻轉三十度乃至六十度ヲ示セリ

地裂　北條町及國分間ノ縣道ニ於ケル地裂ハ東西十三町、幅一寸乃至二尺、深サ二尺以內ナリ、國分ノ北方縣道ノ地裂ハ東西五町、幅五厘乃至五分、深サ八寸以內ナリ、稻ノ縣道附近ニハ東西ニ走レル地裂數多アリ

土地ノ崩壞　稻ノ城山ニ於ケル山崩ハ第三紀頁岩ヲ挾メル砂岩ノ崩落セルモノニシテ東西約十五間裂開シ高サ六間落下セリ

井水　濁リ減水セリ

鳴動　西方北條町方面ヨリ來ル

(九) 九重村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數四百六十二戸中全潰三百七十三戸(但シ全潰後燒失セシ一戸ヲ含ミ八割七厘)半潰六十戸(一割二分九厘)ニテ計九割三分六厘ノ倒潰アリ、本村ノ主ナル部落ハ冲積地ニアリテ被害多ク二子、三島、園、大井、江田、安東、水岡等ハ殆ント全滅セリ

倒潰方向　家屋ハ南東或ハ東ニ倒レシモノ多シ

地裂　二子ニ於ケル九重驛附近ニ東西ノ地裂數條アリテ深サ二尺陷沒セル箇處アリ、大井ニハ小ナル地裂數多アリ、安東及水岡ニハ道路或ハ稻田ニ數多ノ地裂アリ大ナルモノハ延長約十町幅一尺內外、深サ三尺ニ達スルモノアリ

土地ノ崩壞　房總街道ノ大井ノ切割ハ砂岩ノ傾斜面北方三十五度ニ沿ヒテ其南壁ノ崩落セルモノニシテ幅十五間、高サ三間ニ亙レリ

井水　一般ニ濁リテ減少シ二子ニ於ケル掘拔井ハ一時斷水シ後恢復セリ

鳴動　西方ノ北條町方面ヨリ來ル

(一〇) 稻都村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數三百二十戸中全潰二百十戸(但シ全潰後燒失セシモノ一戸ヲ含ミ六割六分)半潰五十一戸(一割六分)ニテ計八割二分ノ倒潰アリ、本村ノ諸部落ハ第三紀砂岩或ハ頁岩ヨリ成レル丘陵地ノ麓ニ接近セル冲積地ニアリテ池ノ內及御庄ハ殆ント全滅シ山名

ハ八割五分、中區ハ七割ノ倒潰アリ

倒潰方向　家屋ハ南東或ハ北西ニ倒レシモノ多ク第四版第三圖ハ御庄ニ於ケル渡邊正一ノ厩舍ノ北西ニ倒レシヲ示シ椎ノ土臺、房州石ノ土臺下及柱ノ枘ノ全ク分離セルモノアリ

地裂　池ノ内、御庄、根廻、深井等ノ道路或ハ宅地或ハ稻田ニ數多ノ地裂アリ就中池ノ内及御庄ノ道路ニ沿ヒ略東西ニ走レルモノハ其南側約五尺陷落セリ

井水　濁リ水量ノ增加セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　南西ノ北條町方面ヨリ來ル

（一一）那古町

家屋ノ倒潰　家屋ハ那古ニ瓦葺、正木、龜原、小原及稻原ニ藁葺多シ、總戸數九百戸中全潰八百七十戸（九割六分七厘）、半潰十八戸（二分）ニテ計九割八分七厘ノ倒潰アリ、廣キ冲積砂地ニアル那古、正木及龜原ハ全滅シ第三紀層ノ丘陵地ノ間ナル狹キ冲積砂地ニアル小原及稻原ノ如キモ亦殆ント全滅セリ、而カモ完全ナル建築物トシテ殘存セルハ那古ニ於ケル安房銀行支店ニシテ鐵筋「コンクリート」構造ノ二階建ナリトス、有名ナル那古觀音ハ那古ノ北端ナル第三紀砂岩ノ丘陵卽チ俗ニ那古山ト稱スルモノヽ山腹ニアリテ本堂ハ南方ニ約十五度傾斜シ山門及鐘樓ハ倒潰シ僅ニ五重塔ノミ完全ナリ

倒潰方向　家屋ハ南ニ倒レシモノ多シ、那古寺ノ墓ハ南ニ多ク倒レ又北ニ倒レシモノアリテ右廻轉五六十度ヲ示セリ

地裂　那古ノ縣道筋ニハ地裂多ク東西或ハ南北ニ走リ延長一町乃至三町、幅一尺五寸以下、深サ一尺以内ニテ概ネ多量ノ水ヲ噴出セリ、同縣道西裏ノ稻田及海岸砂地ニアル二條ノ地裂ハ延長約四町乃至十町、幅一尺以下、深サ一尺五寸以内ニテ共ニ多量ノ水及泥砂ヲ噴出セリ、其他正木及龜原ニハ小ナル地裂數條アリ

土地ノ崩壞　那古山ノ崖崩ハ那古觀音ノ西裏縣道筋ニアリ、崖ハ第三紀砂岩ヨリ成リ砂岩ニハ層理發達シ且之ニ垂直ナル方向ニ剝離スル性アリ、九月一日ノ大地震ノ際高サ四十米、幅三十米ノ崖崩落シテ縣道筋ノ住家二戸ヲ全ク埋沒シ尙十戸ヲ大半埋沒シテ卽死者三名ヲ出セリ、其後九月二日正午ノ地震、九月二十六日午後五時十五分及同五時二十分ノ地震ノ時ニモ崖ノ一部崩落シタリ那古山ノ裂開ハ那古觀音ノ登口東側ヨリ起リ山ノ南側中腹ニ沿ヒ約六百米東方ニ連續シ裂開ノ幅ハ約三尺以下ニシテ山ノ傾斜ニ向ヒ稍落下セルカ如シ、此裂開ハ第三紀砂岩ト表土トノ境界面ニ生セシモノニシテ境界面ニ沿ヒテ薄キ粘土質物アリ

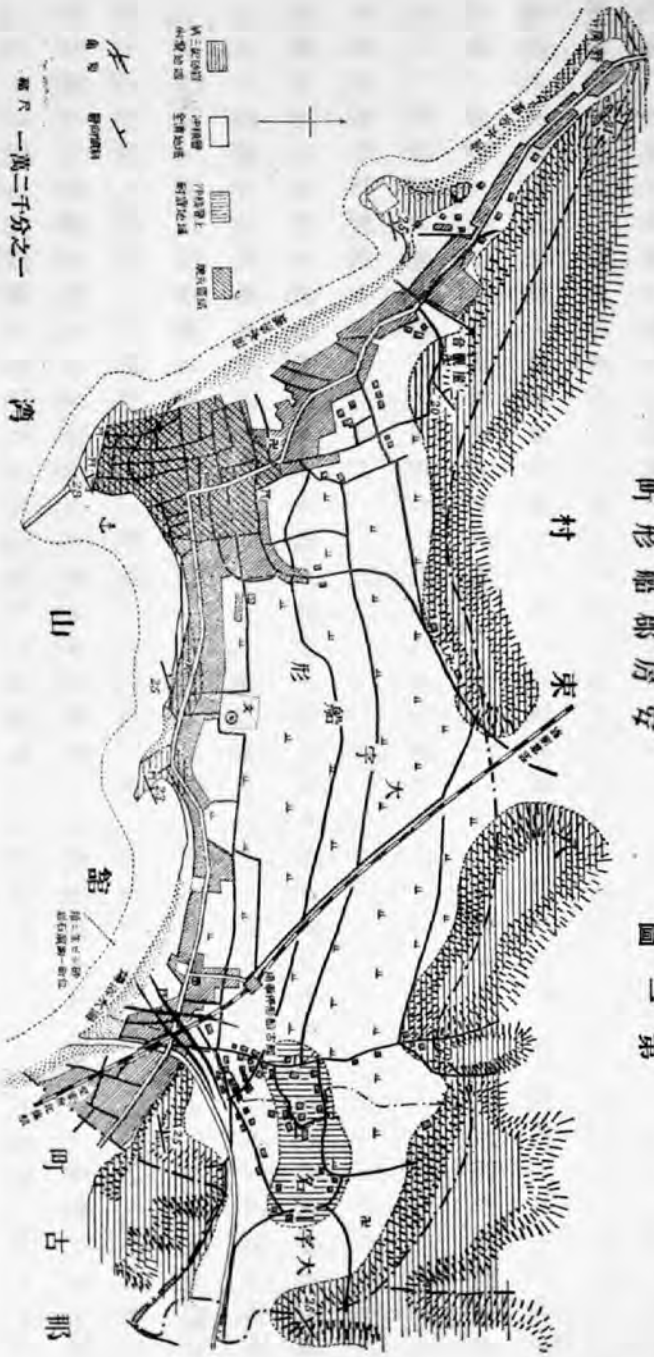
井水　一般ニ白濁シ減水ス、井底ヨリ那古ニテハ多量ノ泥砂ヲ、龜原ニテハ多量ノ砂ヲ噴出セリ

鳴動　那古ニテハ鳴動ハ常ニ南西ノ海中ヨリ來リ九月二十六日午後五時十五分及同五時二十分ノ兩地震ノ前ニモ南西ノ海中ヨリ大砲ノ如キ音響來レリ

土地ノ隆起　那古ノ海岸砂濱ハ幅約一町半帶狀ヲナシテ新ニ增加シ土地ノ隆起ハ約六尺ナルカ如シ

（一二）船形町

家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺及藁葺相半シ總戸數千百七十八戸中全潰六百二十五戸(五割三分)半潰百三十九戸(一割一分八厘)、燒失三百四十戸(二割八分八厘)ニテ計九割三分六厘ノ被害アリ、冲積砂地ニアル川名及船形ノ大部ハ全滅セルモ船形町役場ノ南方海岸及崖觀音ノ西方海岸ニ於ケル第三紀砂岩上ノ藁葺家屋ハ辛ウシテ倒潰ヲ免レタリ、燒失區域ハ船形港附近ノ三百四十戸ニシテ最モ繁盛ナル市街地ナリ、其燒失前ニ於ケル家屋ノ倒潰狀況ニ就キテ町民ノ談話ヲモ綜合シテ考察スルニ船形港海岸ノ家屋十數戸ハ第三紀砂岩上ニアリテ倒潰セサリシカ如ク其土臺石



第一圖　町形船部房安

ノ如キハ概ネ原位置ニ殘留セリ、其他ノ三百二十餘戸ハ全潰若クハ半潰ノ狀態ニアリシカ如ク其地盤ハ冲積砂地或ハ之ニ盛土セルモノニシテ多クノ土臺石ハ原位置ヨリ移動セルヲ認メタリ

崖ノ觀音ハ第三紀砂岩ノ丘陵地ノ中腹ニアリテ家根ハ全部崖下ニ飛去リ柱、四壁及土臺ノミ殘存シテ稍南方ニ傾斜セリ

倒潰方向　家屋ハ南ニ倒レシモノ多シ、芝堂ノ墓ハ南ニ多ク倒レ北ニ倒レシモノ少クシテ右廻轉四十五度乃至六十度ヲ示セリ

地裂　那古町ニ近キ新町ノ川畔ニ小ナル地裂二條アリ

土地ノ崩壞　船形町、富浦村間ノ縣道筋ニテ兩町村ノ境界ニ近キ野房ニハ東西十米、高サ三米ノ崖崩アリテ第三紀砂岩及表土崩落シ砂岩ハ層理發達シ且之ニ垂直ニ剝離スルノ性アリ

井水　一般ニ白濁シ減水セリ

鳴動　西方大房冲ニ於ケル横瀨ノ磯ヨリ來ル

土地ノ隆起　船形ノ海岸砂濱ハ幅一町乃至一町半帶狀ヲナシテ新ニ增加シ船形港ニ於ケル海水ノ減退ハ約六尺ニシテ目下干潮時ニ港内ニハ干潟トナル處多シ

(一三)　八束村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數三百四十戸中全潰七十二戸(但シ全潰後燒失セシ一戸ヲ含ミ二割一分二厘)半潰四十七戸(一割四分)ニテ計三割五分二厘ノ倒潰アリ、被害ハ岡本川沿岸ノ冲

積地ニ多ク深名ノ八十一戸中五十七戸、福澤ノ六十一戸中二十九戸、青木ノ三十七戸中二十五戸、宮本ノ四十五戸中九戸、大津ノ五十四戸中十一戸、手取ノ十二戸中十戸、居倉ノ十四戸中四戸、丹生ノ二十八戸中十六戸ノ全潰アリ

倒潰方向　家屋ハ處ニヨリ種々ナル方向ニ倒レシモ概シテ南ニ倒レシモノ多キカ如シ

地裂　大津、手取、丹生等ニハ小ナル地裂アリ

土地ノ崩壞　大津字横道ノ山崩ハ居倉ノ東ニ位シ約五段歩ノ山ノ表土及第三紀頁岩ノ一部相共ニ崩落シテ稻田一段歩、畑五畝及住家竝ニ非住家四棟ヲ埋沒セリ、丹生字栗津ケ谷ノ崖崩ハ第三紀砂岩ト頁岩トノ境界ニ沿ヒ主ニ頁岩ノ崩落セルモノニシテ長サ二十間ニ亙レリ

井水　濁リ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ、又稀ニ斷水セルアリ

鳴動　南西ノ船形町方面ヨリ來ル

(一四) 富浦村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數九百六十戸中全潰六百九十三戸(但シ全潰後燒失セルモノ三戸ヲ含ミ七割二分二厘)半潰百五十五戸(一割六分一厘)ニテ計八割八分三厘ノ倒潰アリ、被害ハ海岸砂地ノ部落ナル多田良、原岡及南無谷ニ於テ甚シク各八割ノ全潰ヲ算シ、第三紀頁岩或ハ砂岩上ノ砂地ノ部落ナル豐岡ニテハ輕微ナリ

倒潰方向　家屋ハ南方ニ倒レシモノ多シ

地裂　多田良及南無谷ニ各三條ノ地裂アリテ縣道ヲ横斷シ東西ニ走リ延長四町以下ニシテ幅

一尺以下、深サ二尺以内ナリ

土地ノ崩壞　大房岬ノ崖崩ハ岬ノ尖端海ニ面シテ二箇處アリ、共ニ第三紀砂岩及頁岩互層ノ崩壞セルモノニシテ幅二百米乃至三百米、高サ三十米ニ亙レリ、豐岡ノ鼻ノ崖崩ハ第三紀頁岩ノ海ニ向ヒ崩壞セルモノニシテ幅五十米、高サ二十米アリ、縣道筋ノ石川浦隧道ノ北口及小濱隧道ノ北口ニハ第三紀頁岩上ノ表土崩落シテ各十米内外ノ間道路ヲ埋沒セリ

房總鐵道ノ南無谷隧道ハ第三紀頁岩ヲ掘鑿セルモノニシテ延長二千四百二十八呎八吋アリ、其北口ヨリ六十呎ノ間ニハ上下左右ニ龜裂アリ、北口ヨリ十三鎖五十節ノ處ニハ頁岩及土砂ノ大崩落アリ、南口ヨリ八百九十六呎ノ處ニハ土砂及頁岩ノ大崩落アリ、南口ヨリ約五十呎ノ間ニハ大龜裂アリ

井水　白濁シ水量ノ增減著シカラス

鳴動　西南西ノ大房岬方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　原岡及南無谷ノ海岸砂濱ハ帶狀ヲナシテ幅約四十間ヲ增加シ逢島ノ如キハ干潮時ニハ陸地ト連絡シ徒涉シ得ヘシ、現時ノ滿潮面ハ地震前ノ干潮面以下一尺乃至一尺五寸ナレハ海水面ノ低下卽チ土地ノ隆起ハ約六尺ナリ

(一五)　岩井村

家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺及藁葺相半シ總戸數八百六十五戸中全潰三百二十五戸(三割七分五厘)、半潰九十戸(一割四厘)ニテ計四割七分九厘ノ倒潰アリ、被害ハ冲積地ニアル部落ニ甚シク久枝百

五十戸中百戸、市部ノ百戸中四十七戸、竹内ノ三十三戸中二十二戸、高崎ノ二百三十戸中百十戸、小浦ノ七十五戸中七十戸、宮谷ノ三十五戸中十戸ノ全潰アリ、市部地内ニ於テモ岩井驛前ヨリ岩井村役場ニ至ル間ハ第三紀砂岩上ニアル住家ナレハ少シモ倒潰セス、第三紀頁岩上ニアル部落卽チ合戸、二部及檢儀谷ニハ僅ニ住家ノ半潰ヲ見シノミ

倒潰方向　家屋及福集院ノ墓ハ多ク南方ニ倒レ又北ニ倒レシモノ少カラス、墓ノ廻轉方向ハ右廻リ三十度內外ナリ

地裂　高崎ノ縣道ヲ橫斷シテ東西ニ走レル二條ノ地裂アリ幅五寸以下ニシテ水ヲ噴出セリ、岩井驛構內ニハ深サ約七寸陷落セシ小區域アリ、市部ノ東方約四町ヲ距ル濕潤ナル畑地ニ砂及水ヲ噴出シタリ

土地ノ崩壞　房總鐵道ノ小浦隧道ハ第三紀砂岩ヲ掘鑿セルモノニテ延長六百十一呎アリ、其北口ヨリ二十呎ノ間ニハ側面及上部ニ大龜裂アリ、南口ヨリ三十呎ノ間ニハ周圍ニ龜裂三條アリ

井水　白濁シ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　南西ノ南無谷方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　小浦ノ灣ハ從來漁船ノ避難地トシテ知ラレシカ地震後急ニ海水五尺以上減退セシヲ以テ現ニ干潮時ニハ殆ント干潟トナル、高崎及久枝ノ海岸砂濱ハ帶狀ヲナシテ幅約三十間ヲ增加セリ、從テ土地ノ隆起ハ約五尺ト見做シ得ヘシ

（一六）勝山町

家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺多ク總戸數九百八十六戸中全潰百七十九戸(一割八分一厘)半潰百二十六戸(一割二分七厘)ニテ計三割八厘ノ倒潰アリ、被害ハ海岸ニ近キ冲積地ニアル加知山ノ町區、田町及龍島ニ於テ激シク皆全滅セシモ加知山ノ仁濱ノミ第三紀頁岩上ニアレハ約五割ノ全潰ヲ見タリ、又宮ケ谷ニハ多少ノ被害アリ、第三紀頁岩上或ハ之ニ接近セル冲積地ニアル大門、和見、田子、市部瀬及岩井袋ニハ殆ント被害ナシ

倒潰方向　家屋ハ南或ハ北ニ倒レシモノ多シ、妙曲寺ノ墓モ亦南或ハ北ニ倒レ右廻轉三十度内外ヲ示セリ

地裂　殆ントナシ

土地ノ崩壞　龍島ノ東方淺間山ノ崖崩ハ第三紀頁岩ノ崩落セシモノニシテ幅百五十米、高サ十五米アリ

井水　白濁シ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　南西ノ海中ヨリ來ル

土地ノ隆起　岩井袋ノ灣ハ從來發動船ノ避難地ナリシニ地震後急ニ海水五尺以上減退シテ水深淺クナリ發動船ノ假泊ヲ許サヽルニ至レリ、加知山港モ淺クナリ海岸ニ頁岩ヨリ成レル遠淺ヲ生セリ、從テ土地ノ隆起ハ約五尺ナルヘシ

(一七)保田町

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺及瓦葺相半シ總戸數一千百三十戸中全潰二百六十四戸(二割三分三厘)、半潰六十五戸(五分七厘)ニテ計二割九分ノ倒潰アリ、被害ハ海岸及保田川沿岸ノ冲積地ニ限ラレ人口稠密セル本郷ハ殆ント全滅ニ近ク、元名ニハ四戸、大帷子ニハ三十戸、吉濱ニハ五戸、大六ニハ一戸ノ全潰家屋アリ、第三紀頁岩上或ハ之ニ接近セル冲積地ニアル江月、小保田、市井原及横根ニハ被害ナシ

倒潰方向　家屋ハ南或ハ北ニ倒レシモノ多シ、崇德院及大行寺ノ墓ハ南或ハ北ニ倒レ右廻轉十八度乃至三十度ヲ示セリ

地裂　本郷字保田ノ縣道及保田驛通ニアル地裂ハ東西ニ走リ幅三寸以下、深サ一尺以内ナリ、房總鐵道ノ被害甚シク保田川橋梁ノ第一號橋脚ハ桁受石下目地切レ北方ニ一吋ノ間隙ヲ生ス、又同橋梁ノ築堤ハ四呎乃至五呎沈下セリ、小磯川橋梁ノ北方橋臺砂利留中央ヨリ稍左方ニテ折損シテ七吋後退セリ、鋸山隧道ハ第三紀砂岩ヲ掘鑿セルモノニシテ延長四千百六呎アリ、其北口ヨリ三百呎ノ處ニ長サ二十六呎ノ大龜裂アリテ側壁落下ス、北口ヨリ四百呎ノ處ニ左側壁及上部ニ龜裂アリ、北口ヨリ六百呎ノ處ニ側壁及上部ニ大龜裂アリ

土地ノ崩壞　明鐘崎以南ノ隧道ノ北口ニ二箇處砂岩及表土ノ崩落シテ縣道ヲ十米乃至十五米ノ間埋沒セルモノアリ

井水　白濁シ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ、本郷ニテハ井底ヨリ泥砂ヲ噴出シ斷水セシモノアリ

瓦斯ノ發生　市井原字臺ヶ崎千二百二十六番地川名兵治ノ住家ノ南方縣道傍ヲ流ル、保田川

上流ノ河底ヨリ瓦斯ヲ著シク發生セリ、此瓦斯ハ今ヨリ八十年前ニ僅ニ發生シ極メテ微量ナリシニ今回ノ大地震ト共ニ噴出量ヲ急ニ增加シ之ヲ石油鑵ニ集メ點火シテ街燈用トナシ得ルニ至レリ

鳴動　南西ノ海中ヨリ來ル

土地ノ隆起　吉濱ノ縣道西側ノ築堤ニ就キテ漁夫ノ談ヲ聞キシニ現時ノ滿潮面ハ地震前ノ干潮面以下一尺餘ナレハ海水面ノ低下ハ約五尺ナルカ如シ、本鄕ノ海岸砂濱ハ幅約三十間ヲ增加セリ、又速力海里標トシテ知ラルヽ島ノ基底ハ現ニ滿潮時ニモ約五尺海水面上ニアリ、從テ土地ノ隆起ハ約五尺ナリト稱シ得ヘシ

(一八) 佐久間村

家屋ノ倒潰　本村ノ各部落ハ第三紀頁岩ノ山麓或ハ之ニ近キ冲積地ニアリテ地盤良好ナレハ被害殆ントナシ、唯稍廣キ冲積地ニアル佐久間下區ニ於テノミ住家ノ全潰四戸及非住家ノ全潰三棟、半潰二十棟アリ、一般ニハ瓦葺家屋ノ瓦落チ又土藏ノ壁ノ破損甚シク石垣ノ倒潰アリシニ過キス

倒潰方向　家屋及石垣ノ北ニ倒レシモノ多シ

地裂　佐久間下區ノ冲積地ニノミ小ナル地裂アリ

井水　一般ニ濁ラスシテ增水シ泉水ノミハ白濁セリ

鳴動　南西ノ天魔臺方面ヨリ來ル

(一九) 平群村

家屋ノ倒潰　本村ハ平久里川上流ノ山地ニ位シ其地盤ハ第三紀頁岩及砂岩ヨリ成リ被害極メテ少ク住家ノ全潰三戸、半潰三戸及非住家ノ全潰三棟、半潰百三十五棟アリ、而カモ住家ノ倒潰セシハ平久里中及平久里下ノ兩部落ニ於テ河岸ノ冲積地ニアリシモノナリ

倒潰方向　家屋ハ南ニ倒レシモノ多シ、九月一日ノ大地震ノ際ニ南北ノ水平動ノミ激シク上下動ヲ感セス、九月二日ヨリ以後ノ地震ニハ鳶メ鳴動ヲ聞ケリト云フ

地裂　川上ニ於ケル道路附近ニ細長ナル地裂アリ

土地ノ崩壞　平久里下ノ崖崩ハ從來アリシ砂岩ノ崖ノ崩壞セシモノニシテ河流ノ彎曲部ニ位ス

井水　濁リ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　南々西ノ北條町方面ヨリ來ル

(二〇) 瀧田村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數四百五十六戸中全潰九十九戸(二割一分七厘)、半潰十二戸(二分六厘)ニテ計二割四分三厘ノ倒潰アリ、被害ハ平久里川沿岸ノ冲積地ニ多ク下堀及千代ハ殆ント全滅シ上堀ニハ七割、三坂ニハ五割ノ倒潰アリ、下瀧田及上瀧田ニ於ケル被害ハ半潰ノ程度ナリトス

倒潰方向　家屋ハ北方ニ倒レシモノ多シ

地裂　下堀ノ縣道ニハ略南北ニ走レル地裂河岸ニ現ハレ幅五寸以下ニテ長サ約五町ニ及ヘルモノナリ

井水　濁リ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　西南西ノ船形町方面ヨリ來ル

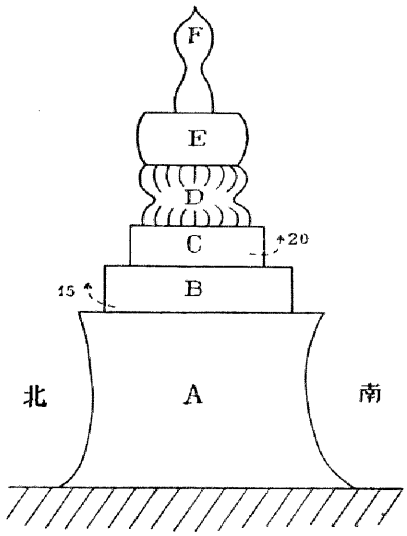
(二一)　國府村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數三百八十一戸中全潰三百戸(七割九分)、半潰六十一戸(一割六分)ニシテ辛ウシテ倒潰ヲ免レタルハ二十戸ナレハ九割五分ノ倒潰トナル、冲積地ニアル府中、宇戸、番場、不斗入、谷、市場等ノ部落ハ全滅シ第三紀頁岩上或ハ之ニ接近セル冲積地ニアル大學口、出下、海老敷等ノ部落ハ五割ノ倒潰アリ

倒潰方向　家屋ハ南或ハ北ニ倒レシモノ多シ、延命寺ハ第三紀頁岩上ニアリテ壯麗ナル山門ハ北ニ倒レ其墓碑ハ悉ク南或ハ北ニ倒レ右廻轉十五度乃至三十度ヲ示セリ、同寺ノ法華供養塔(第二圖參照)ニ就キテ見ルニ最上部ノFハ南方ニ、E及Dハ北方ニ落下ス、最下底ノAハ原位置ヲ保チ其上ノBハ右ニ十五度廻轉セルニ反シテCハ左ニ二十度廻轉セル位置ニアリ

地裂　谷(ヤツ)ノ智田淺吉宅地ヨリ番場ノ神作寅松宅地迄東西十町ニ亙レル地裂ハ當時乾燥セル稻田ニ現出シ最大ナル部ニ於テ幅四間ノ陷落帶ヲナシ其底ヨリノ高サ北壁ハ五尺、南壁ハ五寸ナレハ全體トシテ南方ノ落下セルコト四尺五寸ナリ、其東端、ハ谷ニ至リ第三紀頁岩上ニアル表土

第二圖



ノミノ地裂トシテ終ル、西端ハ番場ヨリ更ニ西走シテ府中ノ縣道ニ終ル

市場ノ北方峰岸山麓ヨリ宇戸字小橋迄東西五町ニ亙レル地裂ハ當時乾燥セル稻田ニ現出シ南方ニ落下スルコト五尺ナリ、此外不斗入、明石、根方等ニ小地裂數多アリ、一般ニ地裂ヨリ多少ノ水ヲ噴出シ稀ニ砂ヲモ混セルコトアリ

井水　一般ニ濁リ府中、番場及不斗入ニテハ井底ヨリ砂ヲ噴出セリ

鳴動　南西ノ北條町方面ヨリ來ル

(二二) 白濱村

家屋ノ倒潰　本村ノ諸部落ハ第三紀頁岩或ハ砂岩ノ上及是等ノ岩石ヲ薄ク被覆セル冲積砂地ノ上ニアリテ總戸數九百六十二戸中全潰一戸、半潰一戸ニテ瓦スラ多ク落チサリキ、唯本村ニ於ケル被害ノ著シキハ乙濱漁港ノ干潟トナレルコト及有名ナル野島崎燈臺ノ倒潰ナリトス

倒潰方向　原ノ杖珠院ニ於ケル墓碑ハ北々西ニ倒レシモノ多シ、野島崎燈臺ハ第三紀蠻岩上ニ建チ高サ百十三尺八寸五分、正八角形ノ基底四十八坪五合三勺ヲ有スル煉瓦造ニシテ明治二年二月十四日佛人監督ノ下ニ起工シ同年十二月二十一日竣工シ大正十二年九月一日正午ノ大地

震ノ際全部北々西ニ倒レシモ人畜ニハ死傷ナク霧笛臺、火藥庫及住家ハ破損ノ儘現存セリ

地裂及土地ノ崩壞ハ共ニナシ

井水　白濁シ水量ハ海岸ノモノハ減シ其他ハ增セルカ如シ

鳴動　西微北ヨリ來ル

土地ノ隆起　乙濱ノ漁港ハ深サ干潮時三尺ニシテ滿潮時七尺五寸ノ計劃ニテ築港シ略完成ニ近ツキ既ニ干潮面以下二尺トナシ置キタルニ大地震ノ際急ニ海水四尺五寸乃至五尺減退セシ爲現今干潮時ニハ全ク干潟トナリ漁港タルノ用ヲ爲サヽルニ至レリ

本村ノ海岸ニハ砂濱少ク概ネ第三紀頁岩或ハ蠻岩露出シ是等ノ岩石ヨリ成レル數多ノ磯及小島ニハ貝類ノ棲息スルコト夥シカリシニ大地震後急激ナル海水減退ノ結果磯ハ島トナリ小島ハ陸ニ連續シテ貝類ノ之ニ附著セル儘水面上ニ出テ斃レシモノ無數ナリ、巡回ノ際野島崎ノ海ニ臨メル岩崖ニ於テ斃死セシ貝類ノ最上部ト滿潮時ノ海水面トノ垂直距離約六尺ナルヲ認メタリ

(二三) 七浦村

家屋ノ倒潰　本村ノ諸部落ハ第三紀頁岩上ニアリテ總戸數五百七十二戸全潰十八戸(三分一厘)、半潰五戸(九厘)ニテ計四分ノ倒潰アリ、被害ハ瓦ヲ落シ石垣ノ破損セシ程度ノモノ多シ

倒潰方向　家屋ハ北々西ニ倒レシモノ多シ

地裂及土地ノ崩壞ハ共ニナシ

井水　稍濁リ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　西微北ヨリ來ル

土地ノ隆起　海岸ノ岩盤ハ幅十五間ノ帶狀ヲナシテ新ニ露ハレ磯ハ悉ク小島トナル、白間津海岸ノ岩崖ニ於テ之ニ附著シ斃死セシ貝類ノ最上部ト滿潮時ノ海水面トノ垂直距離約五尺ナルヲ認メタリ

(二四) 千倉町

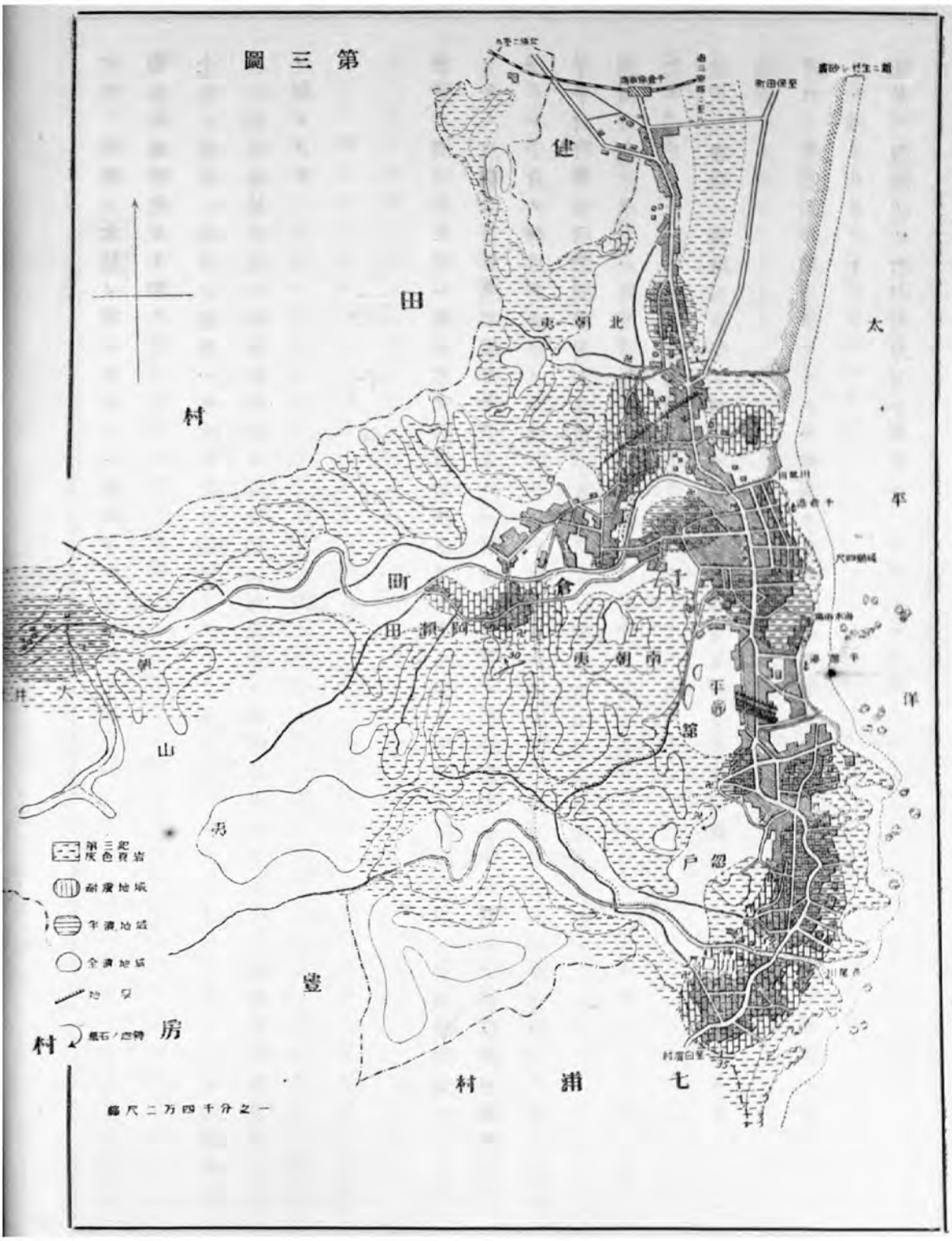
家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺多ク總戸數千三百七十八戸中全潰五百四戸(但シ全潰後燒失セシ一戸ヲ含ミ三割六分五厘)、半潰百九十五戸(一割四分二厘)ニテ計五割七厘ノ倒潰アリ、被害ハ冲積地ニ限ラレ千倉ノ縣道筋、寺庭ノ縣道筋及谷ハ殆ント全滅シ第三紀頁岩上ニアル寺庭ノ一部、千倉海岸、千倉町役場附近、岡瀨田、大井倉、平館、忽戸、川口等ニハ倒潰家屋稀ナリトス

倒潰方向　家屋ハ南西或ハ南ニ倒レシモノ多シ、平館ノ能藏院ニ於ケル墓ハ南ニ多ク倒レ稀ニ北ニ倒レシモノアリテ右廻轉四十度乃至七十度ヲ示セリ

地裂　寺庭ノ縣道及平館ノ縣道ヲ横斷シテ略東西ニ走ル地裂數條アルモ幅七寸以下深サ一尺以內ナリ

井水　平館、忽戸及川口ノモノハ稍濁リシノミニテ增減ナシ、其他ハ一般ニ濁リ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　西微北ノ館山町方面ヨリ來ル


第三圖
田
村
町
倉
十
健
北
東
朝
太
平
洋
大
山
平
館
戸
忍
豊
房
村
七
浦
村
第三紀
灰色頁岩
耐震地域
半濡地域
全濡地域
地
滑
縮尺二万四千分之一

土地ノ隆起　千倉ノ海水浴場附近ノ砂濱ハ幅約四十間、帶狀ヲナシテ新ニ增加シ、海岸ノ岩盤ハ新ニ露ハレ磯ハ小島トナリ其斃死セシ貝類ニヨリ海水ノ減退ハ約四尺ナルヲ認メタリ

(二五) 健田村

家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺及藁葺相半シ總戸數五百四十戸中全潰四百二十七戸(七割九分)、半潰九十戸(一割六分六厘)ニテ計九割五分六厘ノ倒潰アリ、被害ハ瀬戸川沿岸ノ冲積地ニ於テ著シク瀬戸、大貫、宇田及川戸ノ諸部落ハ全滅セリ

倒潰方向　家屋ハ北西或ハ東ニ倒レシモノ多シ

地裂　一反田ノ縣道ニハ東西ニ走レル小ナル地裂五町連續ス、大貫及川戸ニハ道路ニ沿ヒ或ハ近ク長サ十五間ノ地裂アリ

土地ノ崩壞　小松ノ隧道口ノ第三紀砂岩ノ切割崩壞シテ道路ヲ埋沒セリ

井水　白濁シ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　西方館山町方面ヨリ來ル

(二六) 千歲村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數七百十二戸中全潰五百三十九戸(但シ全潰後燒失セシ一戸ヲ含ミ七割五分五厘)、半潰六十四戸(九分)ニテ計八割四分五厘ノ倒潰アリ、冲積地ニアル安馬谷(古川)、新田、大沼、下道、三島、仲原及北組ハ悉ク全滅シ、第三紀頁岩上ニアル元田及川合ハ被害少ク瓦ノ

落チタル家屋或ハ傾斜セル家屋多キ程度ニ止マレリ

倒潰方向　家屋ハ南西或ハ北東ニ倒レシモノ多シ、北組ノ金剛院ノ山門ハ東ニ倒レ其墓碑ハ東或ハ西ニ多ク倒レタリ

地裂　安馬谷ニハ道路ニ沿ヒ東西ノ地裂數條アリテ水ヲ噴出シタリ、下道ヨリ和田迄東西約五町ノ間稻田中ニ幅四尺ノ地裂アリテ北側約五尺落下シ多量ノ水及砂ヲ噴出シ目下堀トナリテ流水アリ、仲原及北組間ノ道路ヲ横斷シテ東西ニ走ル地裂數條アリ、北組ヨリ元田迄北東ヨリ南西ニ約三町ノ間幅五六尺ノ地裂アリ、三島ニハ約一町ノ間道路ノ陷落セル處アリ、峰山ノ表土ニハ東西ノ地裂二條アリ

井水　安馬谷ニテハ濁リ泡立ツコト甚シク井底ヨリ砂及泥土ヲ噴出シ河水モ亦濁リ泡立チタリ、三島ノ遠藤松二郎ノ井戸ハ井底ヨリ多量ノ砂ヲ噴出セリ、一般ニ水量ハ減シタルモ時ニ增セルモノアリ

鳴動　西方北條町方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　海岸ノ砂濱ハ幅約四十間帶狀ヲナシテ新ニ露ハレ元田海岸ノ岩崖ニ就キテ見ルニ海水ノ減退ハ千倉町ニ於ケル如ク約四尺ナラン

(二七) 豐田村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數五百六十二戸中全潰三百八十二戸(但シ全潰後燒失セシ一戸ヲ含ミ六割八分)半潰三十七戸(六分五厘)ニテ計七割四分五厘ノ倒潰アリ、本村ノ諸部落ハ丸山

川沿岸ノ冲積地ニアリテ殆ント全滅セリ

倒潰方向　家屋ハ南或ハ北ニ倒レシモノ多シ

地裂　丸山川沿岸ノ冲積地ニ小ナル地裂數多アリテ水ヲ噴出セリ

井水　濁リ泡立ツコト甚シク井底ヨリ砂ヲ噴出セルモノ少カラス

鳴動　西方北條町方面ヨリ來ル

(二八)　丸　村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數七百六十五戸中全潰百六十五戸(二割二分)、半潰三十六戸(五分)ニテ計二割七分ノ倒潰アリ、被害ハ本村南半部ノ冲積地ニノミ限ラレ前田ノ三十六戸中三十戸、丸本郷ノ百十五戸中七十戸、珠師ケ谷ノ九十五戸中二十八戸、石堂ノ六十戸中十四戸、宮下ノ百六十戸中十二戸、川谷ノ七十戸中四戸、石堂原二十三戸中二戸等ノ全潰ヲ見タリ

倒潰方向　家屋及墓碑ハ概ネ南東ニ倒レ北西ニ倒レシモノアリ、石堂寺ハ第三紀頁岩上ニアリテ本堂ハ北西ニ傾キ石垣ハ東西三十米、高サ十米ノ間崩壞セリ

地裂　丸本郷附近ノ河岸ニ沿ヒテ小ナル地裂數多アリ

土地ノ崩壞　川谷字日野田ニ於ケル河岸ノ冲積地約一町歩崩壞ス、珠師ケ谷字谷ニ於ケル山崩ハ約一町五段ニ亙リ第三紀頁岩上ノ表土ノミ崩壞ス、市場ノ隧道ハ第三紀頁岩ヲ掘鑿セルモノニシテ其内側約二間崩壞ス

井水　濁リ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　南西ヨリ稍西ニ偏セル方向ヨリ來ル

(二九) 北三原村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數四百八戸全潰二十七戸(六分六厘)半潰十二戸(二分九厘)ニテ計九分五厘ノ倒潰アリ、被害ハ本村最南部ノ冲積地ニノミ限ラレ小川ノ百十戸中九戸、黑岩ノ七十六戸中九戸ノ全潰ヲ著シトス

倒潰方向　家屋ハ南東ニ倒レシモノ多シ

地裂　殆ントナシ

井水　稍濁リ增減殆ントナシ

鳴動　南西ノ北條町方面ヨリ來ル

(三〇) 南三原村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺及瓦葺相半シ總戸數四百九十五戸中全潰三百二十八戸(六割六分五厘)半潰五十七戸(一割一分五厘)ニテ計七割八分倒潰セリ、第三紀頁岩上ニアル濱田及白渚ニハ被害殆ントナク冲積地ニアル大原、松田及海發ハ殆ント全滅セリ

倒潰方向　家屋ハ南西或ハ北東ニ倒レシモノ多シ

地裂　海發、大原及白渚字居下ノ冲積平地及道路ニハ數多ノ地裂アリテ東西或ハ南北ニ走リ大ナルモノハ延長數町ニ達シ幅一尺、深サ二尺五寸アリ、海發ニ於ケル地裂ハ乾燥セル稻田中ニア

リテ水及砂ヲ多量ニ噴出シ附近ノ井底ヨリモ多量ノ砂ヲ噴出セリ

土地ノ崩壞　大原ノ淺間山ノ山崩ハ第三紀頁岩及表土ノ崩壞ニシテ分水嶺ニ沿ヒ東西ニ約五十米裂開シ南側ニ約三十米落下シテ以前ニ山頂ニアリシ鳥居ハ山腹ニ移動セリ

井水　濱田及白渚ニテハ稍濁リシノミニテ增減ナシ、大原及松田ニテハ白濁シテ概ネ減水シ時ニ斷水セルモノアリ、海發ニテハ白濁シ井底ヨリ砂ヲ多量ニ噴出シテ全ク井戸ヲ破壞セリ

鳴動　西方北條町方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　大原及海發ノ海岸砂濱ハ幅約三十間帶狀ヲナシテ新ニ露ハル、三原川口ノ岩崖ニ於テ之ニ附著シ斃死セシ貝類ノ最上部ハ滿潮時ノ海水面トノ垂直距離約四尺ナルヲ認メタリ

(三一) 和田町

家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺多ク總戸數七百二十八戸中全潰二十二戸(三分)、半潰三十三戸(四分五厘)ニテ計七分五厘ノ倒潰アリ、本町ノ部落ナル眞浦、和田、仁我浦、柴、花園等ハ第三紀頁岩上ニアリテ被害少ク一般ニハ瓦ヲ落シ石垣ノ破損セシ程度ナリ

倒潰方向　家屋ハ南或ハ北ニ倒レシモノ多シ、花園ノ長光寺ノ墓ハ多ク南或ハ北ニ倒レ右廻轉十度乃至十五度ヲ示セリ

地裂　柴ニ於ケル地裂ハ第三紀頁岩上ノ砂地ニアリテ北東ヨリ南西ニ亙リテ三町、幅七寸以下深サ五寸以內ナリ

井水　稍濁リ水量ノ增セルモノト減セルモノトアリ

鳴動　ハ西南西ノ北條町方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　和田ノ漁港ハ目下築港中ナリシニ大地震ノ際急ニ海水ノ約四尺減退セシ爲メ干潮時ニハ干潟トナルニ至レリ

(三二) 江見村

家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺及藁葺相半シ總戸數五百四十八戸中全潰九十戸(一割六分四厘)、半潰七十戸(一割二分八厘)ニテ計二割九分二厘ノ倒潰アリ、本村ノ海岸部落ハ第三紀頁岩ヲ薄ク被覆セル冲積砂地ニアレハ稍被害アリ

倒潰方向　ハ南或ハ北ニ倒レシモノ多シ、江見ノ東泉院ノ墓ハ南或ハ北ニ多ク倒レ右廻轉十八度内外ヲ示セリ

地裂　冲積地ニハ小ナル地裂アリ

井水　稍白濁シ海岸ノモノハ減水セルニ第三紀頁岩ノ臺地ノモノハ增水セリ

鳴動　西南西ノ北條町方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　江見海岸ノ岩崖ニ於テ之ニ附著シ斃死セシ貝類ノ最上部ト滿潮時ノ海水面トノ垂直距離約三尺ナルヲ認メタリ

(三三) 太海村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺及瓦葺相半シ總戸數五百十三戸中全潰八戸(一分五厘)、半潰十八戸(三分

五厘)ニテ計五分ノ倒潰アリ、第三紀頁岩上ニアル吉浦、太夫崎、天面、濱波太ニハ殆ント被害ナク冲積地ニアル岡波太ニ被害アリ

倒潰方向　家屋ハ南或ハ北ニ多ク倒レタリ

地裂　岡波太ノ道路ニ沿ヒ南北約二町ノ地裂アリテ東側落下シ最大六尺ノ陷沒ヲ見タリ

土地ノ崩壞　天面字鷹ノ巢ノ崖崩ハ幅約一町、高サ十間ニ亙レル第三紀頁岩ノ崩壞ニシテ道路ヲ埋沒セリ

井水　稍濁リテ一般ニ增水セシモ二箇ノ井戸ハ斷水セリ

鳴動　南西ノ北條町方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　海岸ノ岩盤及磯ハ新ニ海面上ニ露ハレ天面海岸ノ岩崖ニ就キテ見ルニ海水ノ減退ハ江見ニ於ケルカ如ク約三尺ナルカ如シ

(三四) 大山村

家屋ノ倒潰　家屋ハ藁葺多ク總戸數五百七十二戸中全潰十一戸(一分九厘)、半潰十四戸(二分四厘)ニテ計四分三厘ノ倒潰アリ、被害ハ加茂川ニ沿ヘル冲積地ニノミ限ラレ奈良林ノ全潰四戸及半潰四戸、平塚ノ全潰四戸及半潰五戸、佐野ノ全潰二戸、釜沼ノ全潰一戸及半潰五戸ナリ

倒潰方向　家屋ハ九月一日ノ大地震ニテ多ク南ニ倒レ二日正午ノ地震ニテ住家二戸全潰セリ、古畑ニテハ一日ノ大地震ノ際ニ南北ノ水平動ノミ激シク上下動少ク戸棚ハ倒レス棚ノ上ノ瓶スラ落チサリシト云フ

地裂　殆ントナシ

井水　稍濁リ水量ノ增減ナシ

鳴動　南西ノ船形町及北條町方面ヨリ來ル

(三五)　鳴川町

家屋ノ倒潰　家屋ハ瓦葺多ク總戸數一千三百六十戸中全潰三十四戸(二分五厘)半潰七十戸(五分一厘)ニテ計七分六厘ノ倒潰アリ、被害ハ加茂川下流ノ冲積地ニアル前原、横渚、滑谷等ニ現ハレ第三紀頁岩上ニアル貝渚及岡貝渚ニハ殆ントナシ、茲ニ注意スヘキハ本町前原ニ於テ九月一日正午ノ大地震ヨリ同二日正午ノ大地震ノ强烈ナリシコトニシテ第一日ニハ家屋ハ單ニ傾斜セルモノ多ク、第二日目ニ至リ全ク倒潰シ而モ其方向ハ附近ノ太海村、江見村、和田町等トハ相異リテ東或ハ西ニ倒レタリ

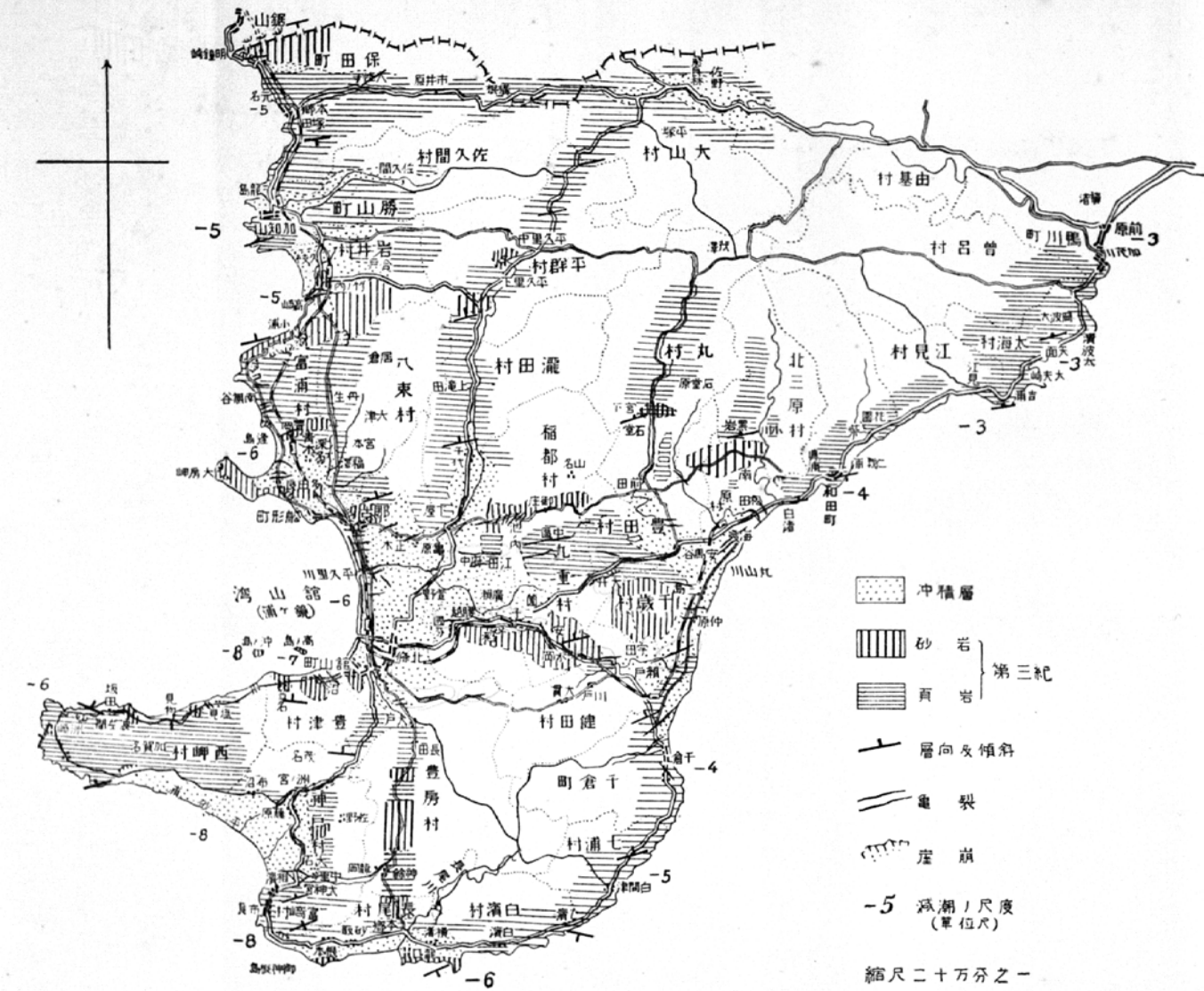
倒潰方向　本町ノ各部落ノ家屋ハ一般ニ東或ハ西ニ倒レ前原ノ神藏寺ノ墓ハ僅ニ二三十箇東或ハ西ニ倒レシノミナリ

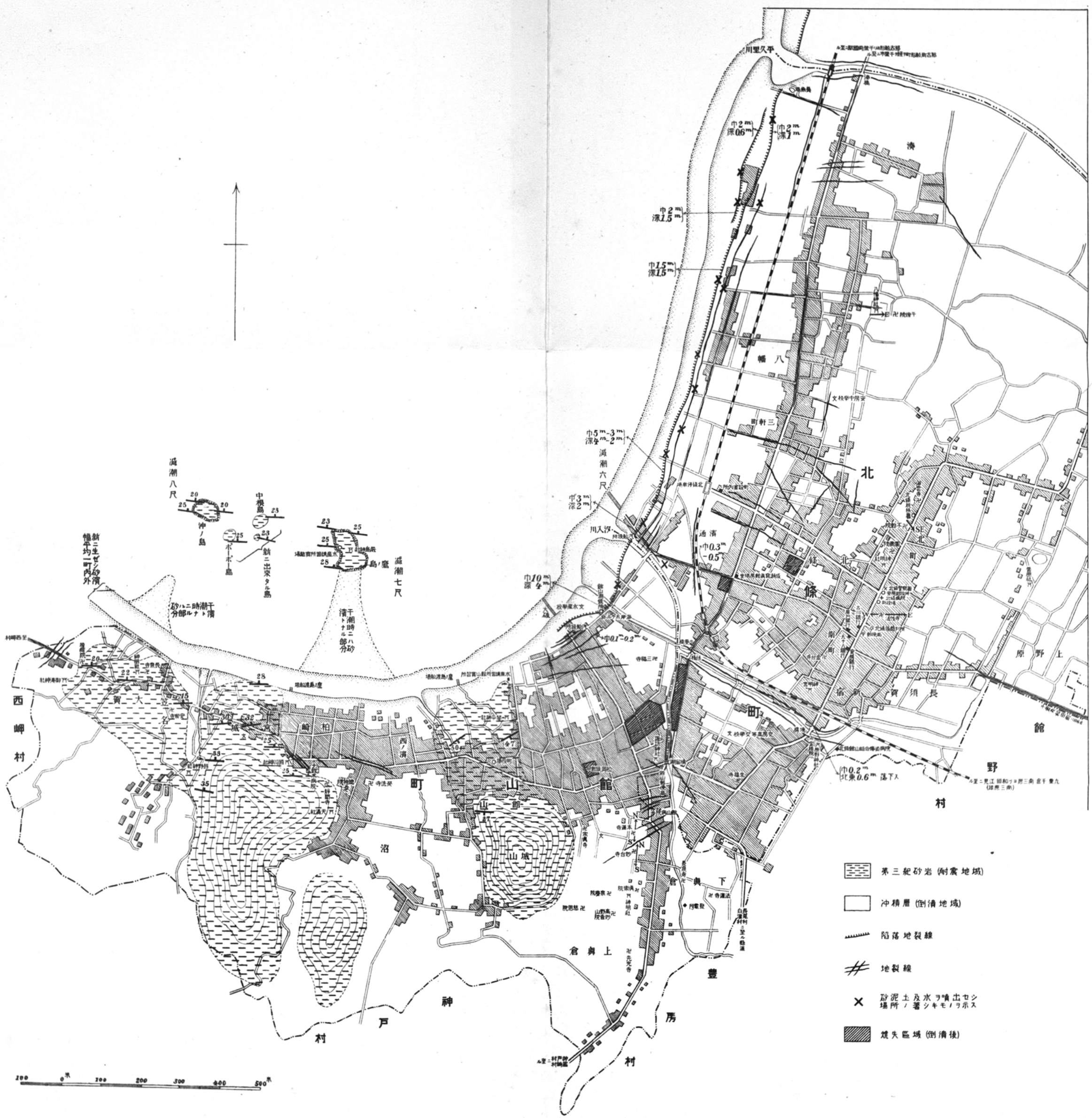
地裂　前原ニ於ケル砂地ニ小ナル地裂アリ

井水　稍濁リ一般ニ減水セリ

鳴動　第二日目以來地震ノ前ニ鳴動ヲ聞キ而カモ其方向ハ南西ノ北條町方面ヨリ來ル

土地ノ隆起　前原ノ海岸砂濱ハ幅約十七間帶狀ヲナシテ新ニ露ハレ渚貝渚ノ岩崖ニ於テ之ニ附著シ斃死セシ貝類ノ最上部ト滿潮時ノ海水面下ノ垂直距離約三尺ナルヲ認メタリ


冲積層
砂岩
頁岩
第三紀
層向及傾斜
龜裂
崖崩
-5 減潮ノ尺度
(單位尺)
縮尺二十万分之一
町田保
村山大
村基由
村呂曾
村見江
村海太
村丸
村田瀧
稲都村
村田豊
村歳平
村田健
町倉千
村浦七
村濱白
村尾長
村津豊
村岬西
豊房村
鴻山館
(漁ヶ磯)
和田町
原前
町川鶴
村間久佐
町山勝
村井岩
村群平
富浦村
八東村
北三厚村
-3
-4
-5
-6
-7
-8


第三紀砂岩（耐震地域）
沖積層（倒潰地域）
陷落地裂線
地裂線
砂泥土及水ヲ噴出セシ場所ノ著シキモノヲ示ス
焼失區域（倒潰後）
北
西岬村
神戸村
豊房村
館野村
沼
上倉
下倉
山城
山館
町
大賀城
柏崎
西ノ濱
幅八
町軒三
條
北
南町
宿新
須賀
長
原野上
湊
川里久平
減潮八尺
減潮六尺
減潮七尺
沖ノ島
中根島
ボーボー島
鉄ニ出来タル島
砂ハ干潮時ニ分部ルナト濱
幅平均一町内外
鉄ニ生ゼシ砂濱
干潮時ニ濱トナル部分ハ砂
通濱
巾0.3m-0.5m
巾0.1m-0.2m
巾0.2m 北東0.6m 落下ス
巾10m 深4m
巾5m-3m 深4m-2m
巾3m 深2m
巾2m 深1.5m
巾1.5m 深1.5m
巾2m 深0.6m
巾2m 深1m
100 0 100 200 300 400 500

第一圖

北條町桟橋通ノ地裂

第二圖

北條町那古街道ノ地裂

第三圖

白濱村野島崎燈臺ノ倒潰

第四圖

北條町房州銀行
（ノモルナ全完）

第五圖

北條町成瀬寫眞館
（ノモルナ全完）

第六圖

那古町那古觀音山門ノ倒潰

第七圖

白濱村乙濱築港隆起ヲ示ス

第八圖

富崎村布良防波堤ノ隆起

第一圖

國府村延命寺前門石塔ノ破壞

第二圖

那古町那古觀音本堂ノ傾斜

第三圖

稻郷村御庄渡邊某所有廐ノ倒潰

第四圖

那古町那古觀音山門ノ倒潰

第五圖

國府村延命寺南方ノ地裂

第六圖

那古町那古觀音西側ノ崩崖

第七圖

九重村大井切割ノ崩壞

千葉縣上總下總地震調査報文

千葉縣上總下總地震調査報文

目次

一　地質……五五頁
二　地震……五八頁
三　震動ノ方向……五九頁
四　震動區域及被害區域……六〇頁
五　鳴動……六一頁
六　被害……六三頁
七　山崩レ……六五頁
八　地滑リ……六五頁
九　裂罅……六五頁
一〇　噴砂丘……六六頁
一一　井水ノ變化……六六頁
一二　土地ノ隆起……六七頁

一三　被害ト地質……六八頁
一四　被害各說……七四頁
(一)南葛飾郡……七四頁
(二)東葛飾郡……八四頁
(三)千葉郡……九六頁
(四)市原郡……九八頁
(五)君津郡……一〇八頁
(六)安房郡……一四六頁
(七)印幡郡……一五三頁
(八)匝瑳郡……一五四頁
(九)海上郡……一五四頁
(一〇)香取郡……一五五頁
(一一)山武郡……一五六頁
(一二)長生郡……一五七頁
(一三)夷隅郡……一六二頁

千葉縣上總下總地震調査報文

農商務技師　小倉勉

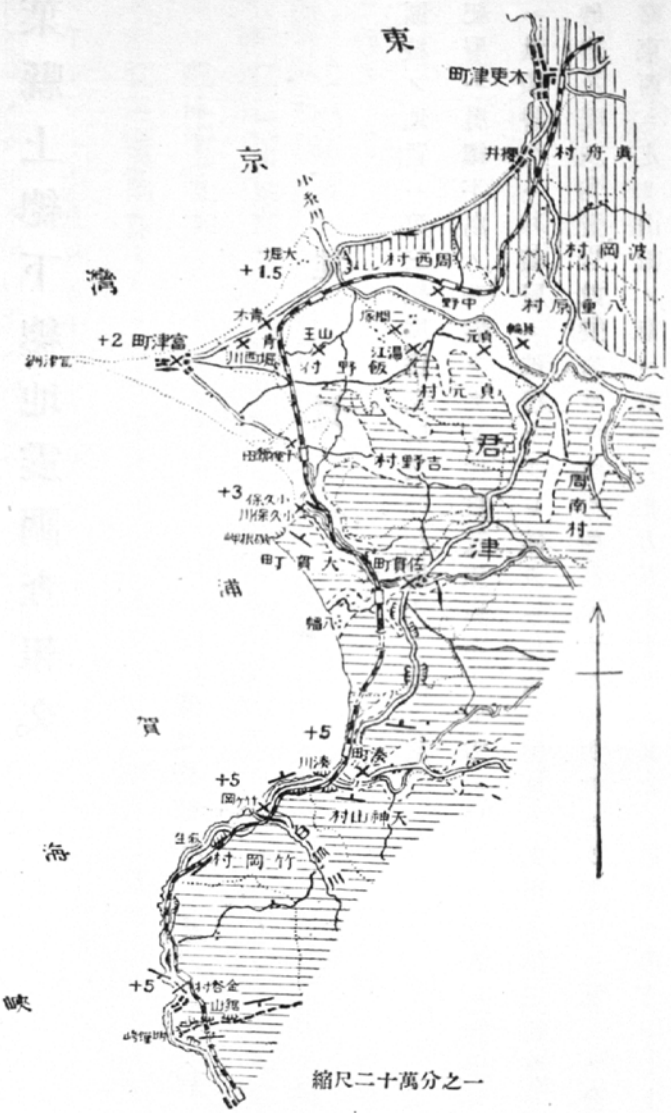
一　地質

調査區域ノ地質ハ第三紀層、洪積層及沖積層ナリ(第一圖)

第三紀層ハ房總半島ノ基盤ヲナシ佐貫、茂原以南ノ地方ニ於テハ地表ニ露出スレトモ其以北ニ於テハ洪積層又ハ沖積層ニ被覆セラレ僅カニ丘陵ノ崖地ニ露出ス、第三紀層ハ主トシテ凝灰質頁岩、砂岩及凝灰角礫岩竝礫岩ヨリ成ル、西海岸ナル鐘明岬ヨリ鋸山ニ亙リテ發達スル凝灰角礫岩ハ略東西ニ走リ山脈ノ南ニ於テハ北方五六十度ニ、其北ニ於テハ南方四十度ニ傾斜シテ一向斜構造ヲナシ鋸山山脈ハ恰モ其軸ニ該當ス、金谷ノ部落ノ南部マテハ角礫岩發達スレトモ其以北ニ於テハ岩塊ノ量次第ニ減少シテ凝灰岩トナリ砂岩ト互層シ金谷ノ北西海岸ニ於テハ凝灰岩ハ北西ニ走リ南西二十度ニ傾斜スレトモ芝崎ノ北ニ於テハ凝灰岩及砂岩互層ハ北東ニ走リ北西四十度ニ傾斜シ島戸倉隧道ノ北ニ於テハ再ヒ層向北西ニ變シ幾許モナク更ニ北東トナリ北西三十度内外ニ傾斜スルニ至ル、萩生附近ヨリ北東ノ海岸ニハ砂岩發達シ竹岡附近ヨリ北部ハ凝灰角礫岩ニシテ東北東ニ走リ北々西三十度内外ニ傾斜シ湊川河岸ニ至ル、卽チ鋸山、湊川間

ニ於テ第三紀層ハ背斜構造ヲナシ軸部ハ島戸倉附近ヲ走リ略東北東ニシテ凝灰岩及砂岩互層ヨリ成リ其南北兩翼端ニ凝灰角礫岩アリ、而シテ湊町附近ニハ東西ニ走リ斷層アルモノヽ如ク湊川以北ニ於テハ凝灰角礫岩ハ露出セス、湊川以北ニ於テハ凝灰質頁岩ハ丘陵ノ麓或ハ川ノ崖地ニ露出シ其上ニ礫岩ヲ挾メル砂岩アリ、前者ハ白色緻密ノ岩石、後者ハ粗鬆柔軟ノ岩石ニシテ崩壞セルトコロ多ク前者ヲ不整合ニ被覆ス、蓋シ後者ハ第三紀上部層或ハ洪積層ニ屬スルモノナルヘシ、佐貫町、大貫町以北ニ於テハ粗鬆ナル砂岩ハ厚サ一米内外ノ介層ヲ挾ミ北方五度内外

第一圖



冲積層　洪積層　第三紀層　倒潰家屋多キ部落　山崩　裂罅　+3 土地隆起（單位尺）

ニ傾斜スレトモ小糸川以北ニ於テハ殆ント水平ニシテ壚埴ニ被覆セラル、該砂岩層ハ尙北方ニ連亙シ千葉ヨリ佐倉、我孫子以北ニ發達ス

東海岸天津町附近ニ於テハ凝灰質頁岩ヨリ成リ天津町濱荻ニ於テハ北方乃至北東三十度內外ニ傾斜シ湊村寄浦ニ於テハ薄キ砂岩層ヲ挾ミ西北西乃至北西十度內外ニ傾斜ス、興津町ノ西部ニ於テ凝灰質頁岩ハ少量ノ介化石ヲ含有シ北五十度東ニ走リ北西十二度內外ニ傾斜シ其東一粁ニ於テハ水平トナリ、北東興津附近ニ至リテ北七十度西ニ走リ北東十度ニ傾斜ス、興津町鵜原附近ニ於テハ稍厚キ砂岩層アリテ北東五度乃至十度ニ傾斜スレトモ勝浦町松部ニ至リテ凝灰質頁岩ノ傾斜ハ變シテ北西十度トナリ其東濱勝浦、豐濱村新宮ニ於テ同樣ナリ、御宿町以北海岸ニ沿ヒ長者町、一宮町、茂原町ニ至ル間ハ凝灰質頁岩ニシテ砂岩ヲ介有シ概シテ北東ニ走リ北西五度乃至八度ニ傾斜シ中根村ニ於テハ該層中厚サ〇・五米ノ介層ヲ挾介ス、茂原町以北ニ於テハ第三紀層ハ洪積層ニ被覆セラレ丘陵ノ崖下ニ露出シ茂原町、東金町ニ於テ凝灰質頁岩ハ北西五度內外ニ傾斜ス

洪積層ハ佐貫町、茂原町以北ノ丘陵地ニ分布シ第三紀層ヲ被覆シ主トシテ壚埴、粘土及砂ヨリ成リ第三紀層ヲ不整合ニ被覆スレトモ木更津以北ニ於ケルカ如ク第三紀層カ殆ント水平ニ成層スルトコロニ於テハ兩層ハ整合シ兩層ノ岩質類似スルヲ以テ其境界ノ明カナラサルトコロ少ナカラス、其層厚ハ概シテ十米內外ナルカ如シ、加茂川沿岸ニ於テハ堦段發達シ、堦段ヲ構成スルモノハ粘土、蠻岩及砂岩ナリ、該蠻岩ハ大サ一糎內外ノ凝灰質頁岩礫ノ粘土ヲ以テ膠結セラレタルモノナリ、此故ヲ以テ堦段ヲ構成スル地層ハ第三紀層ヨリハ新期ノモノニシテ洪積層ニ該當

スルモノナルヘシ、該層ノ上部ニハ冲積期ノ黑色粘土及砂アリ

冲積層ハ平地ヲ構成シ主トシテ粘土、砂礫ヨリ成ル、房總半島ニ於テハ掘拔井ノ記錄ハ三百米以上ニ及ヒ其中ニハ砂、礫等アレトモ資料不充分ナルヲ以テ其冲積層ニ該當スルヤ或ハ第三紀層ナリヤ之ヲ確定スルコト能ハサルトコロアリ

小糸川流域ニ於テハ冲積層ハ砂、礫及粘土ヨリ成リ厚サ二十五米內外ナリ

江戸川流域ニ於テハ冲積層ハ鑿井ノ結果ニ據レハ其層序極メテ不規則ナリ、是レ江戸川、中川及荒川ノ三角洲沈澱物ナルニ由ルモノナルヘク、從テ其層厚ノ如キモ區々ニシテ金町村附近ニ於テ厚サ百米內外ナルカ如シ

一一 地震

大正十二年九月一日初震及餘震ノ主ナルモノ次ノ如シ

		振幅
九月一日	午前十一時五十八分	一二糎以上
同	午後〇時四十分	四糎
同	午後二時三十二分	二・二糎
同	二日午前十一時五十八分	七・〇糎
同	午後六時二十七分	五・二糎

卽チ初震最モ强ク二日午前十一時五十八分ノ餘震之ニ次ク、安房郡加茂川流域ニ於テハ二日午前十一時五十八分ノ地震ハ一日ノ初震ニ劣ラサル激震ナリシト云フ

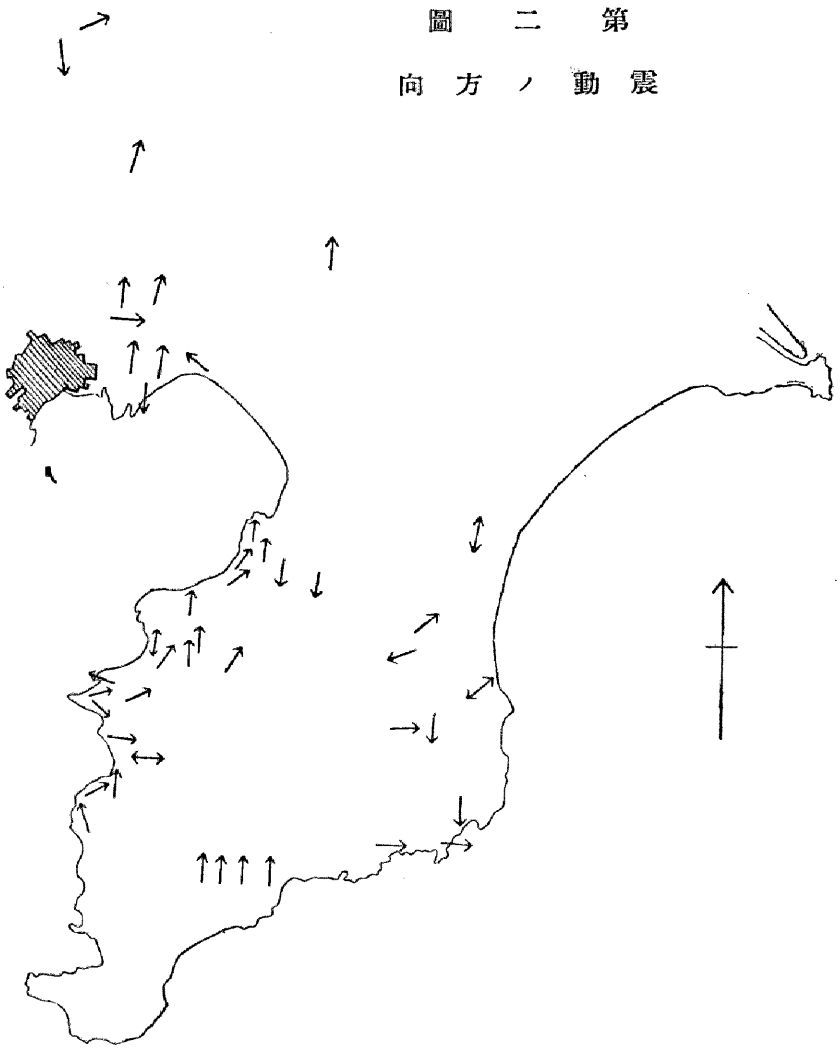
三　震動ノ方向（第二圖）

震動ノ方向ハ人體ノ直感、家屋、塔石、煙突等ノ倒潰及轉倒、物體ノ墜落方向等ニヨリテ之ヲ定ムルコトヲ得ヘシ、房總半島西海岸ニ於テハ市原郡千種、東海、市西各村、養老川沿岸及其南楢葉村ニ於テハ南北ニシテ君津郡木更津附近、小櫃川沿岸ニ於テハ北々東トナリ富津、小糸川沿岸ニ於テハ北東トナリ、大貫、佐貫等南スルニ從ヒ東西ニ近ツク傾向アレトモ南部湊及金谷ニ於テハ約南北ノ方向ヲ示ス

東海岸加茂川沿岸ニ於テハ一日午前ノ震動ハ

第二圖

震動ノ方向



南北、二日午前ノモノハ東西ノ方向ヲ示シ他ト著シク異ナレリ、夷隅郡興津ニ於テハ東西、豐濱、御宿ニ於テハ東西或ハ南北、長者町、國吉附近ニ於テハ東西或ハ南北、長生郡鶴枝、五郷、茂原附近ニ於テハ北東、南西、山武郡東金附近ニ於テハ南北ナリ、江戸川、中川流域ニ於テハ方向ハ南北ニシテ稀ニ東西或ハ北西、南東ナリ

概言スレハ物體ノ倒潰、轉倒等ヨリ見ルニ震動方向ハ南部ニ於テハ東西ニシテ北ニ次第ニ北東、南西トナリ北部ニ於テハ終ニ南北トナル、塔石ハ地震ニ際シ轉倒シタルノミナラス廻轉ノ現象ヲ示セリ卽チ君津、市原郡ニ於テハ二三ノ例外ヲ以テ塔石ハ普通右(時計ノ指針ノ進行ト同シ方向)ニ五度乃至三十度廻轉シ其最タルモノハ湊町湊濟寺ノ一墓石ノ九十度廻轉ナリトス、安房郡北部、夷隅郡ニ於テハ塔石ハ左(時計ノ指針ノ進行ト反對ノ方向ニ)ニ廻轉シ普通五度乃至二十度內外ナレトモ東條村ノ一塔石ハ五十五度廻轉セリ、山武郡東金町ノ寺院ノ墓石ハ右ニ二十度內外廻轉シ其以北ニ於テハ廻轉ノ現象ヲ目擊セス、廻轉ノ現象ハ廻轉運動ニ因ルカ或ハ震動ノ方向カ物體ノ側邊ニ斜メナルトキニ其側邊ヲシテ震動ノ方向ニ直角ナラシメントスル運動起リ茲ニ廻轉ノ現象ヲ呈スルモノナルヘシ、區域內ニ於テ塔石ノ廻轉ニヨリ震動ノ方向ヲ知ラントセシモ甚タ不規則ニシテ一定ノ方向ヲ確定スルコト能ハス

四　震動區域及被害區域

被害ノ多少ニヨリ其震動區域ヲ査定センニ君津郡飯野村ノ全潰家屋ハ該村現總戸數ノ四割ニシテ調査區域中最高率ヲ示シ就中大字二間塚ハ八割六分ノ全潰ナリ、之ニ次クハ隣村ノ貞元村

ニシテ全潰二割九分ヲ示シ大字貞元、八幡ニ六割ノ全潰家屋アリ、貞元村ノ東ナル八重原村ハ一割四分、中村ハ一割八分ナリ、同郡中川村ハ二割六分、之ニ隣ル中郷村ハ一割八分ナリ、市原郡戸田村ハ全潰家屋三割四分、明治村二割一分、東海村ハ全潰家屋二割六分、大字町田ハ八割六分ニシテ其他半潰多ク部落殆ント全滅ス、君津郡佐貫町ハ全潰一割七分、大字佐貫ハ五割六分ナリ、次キテ飯野村ノ西ナル周西村、青堀村各一割四分、君津郡金谷村一割四分ナリ、其他全潰家屋一割内外アルハ君津郡富津町、大貫町、湊町ナリトス

右ノ如ク被害甚大ナリシ飯野村、貞元村、周西村、青堀村ハ小糸川流域ノ冲積地ニ、之ニ次ク中川村、中郷村ハ小櫃川ノ流域ニ、戸田村、明治村、東海村ハ養老川流域ノ冲積平地ニ位ス、富津町、大貫町、佐貫町、湊町、金谷村ノ被害地ハ東京灣沿岸ノ狹小ナル冲積平地ニアリトス

其他稍著シキ被害地ハ加茂川流域ノ安房郡西條村、田原村、主基村ノ三分乃至九分、夷隅郡國吉町千町村附近、長生郡五郷村、鶴枝村、東村附近、山武郡東金町、大和村附近、東葛飾郡浦安町、行德町、關宿町、南葛飾郡葛飾村、瑞江村、松江村、南綾瀬村等ナリトス

之ヲ要スルニ震動區域ハ君津郡、市原郡最モ強ク就中強大ナリシハ小糸川、小櫃川、養老川ノ流域及君津郡海岸地方ニシテ之ニ次キテ夷隅郡ノ北部、長生郡及山武郡ノ一部、南葛飾郡、東葛飾郡ノ江戸川及中川ノ流域ナリ、千葉郡、印幡郡、匝瑳郡、海上郡、香取郡ハ被害僅少ナリ

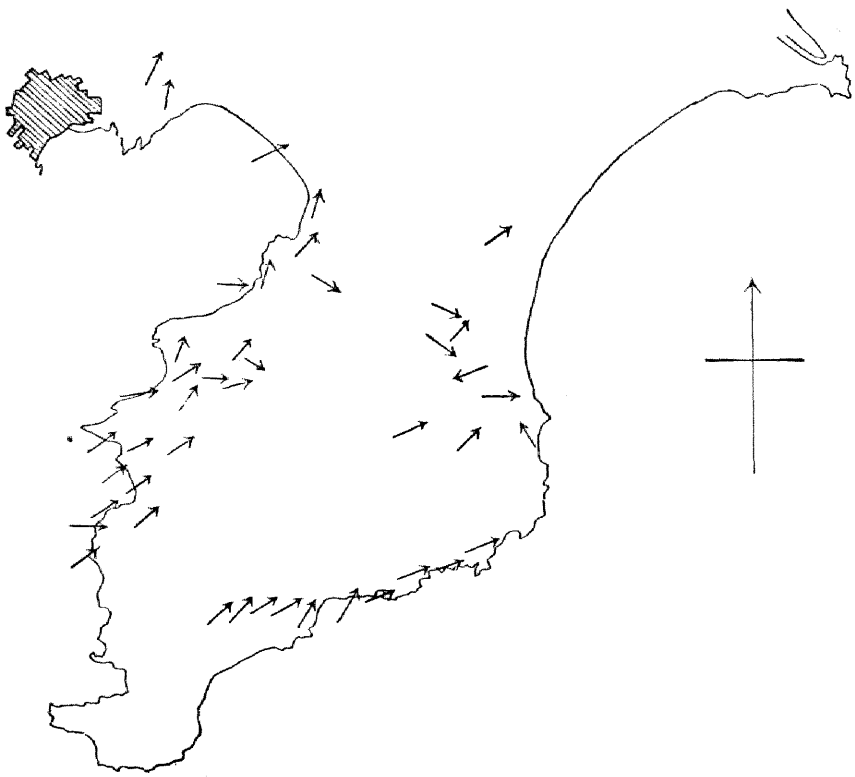
五　鳴　動　（第三圖）

地震ニ伴フ鳴動ハ房總半島ノ各地ニ於テ之ヲ聞キタリ、元來地震ノ初期微動ノ振動ハ小ナレト

モ急激ナルヲ以テ該振動ハ屬地震前ノ鳴動ノ原因ヲ成シ鳴動ハ震源地ヨリ比較的近距離ノ地方ニ之ヲ聞クモノナルカ如シ、區域内ニ於テ聞キタル鳴動ハ風、飛行機ノ爆音或ハ大砲ノ音響ノ如ク震動ニ先ツコト三秒乃至五秒ナリ、稀ニ鳴動ノミニシテ震動ヲ伴ハサルコトアリ、鳴動ノ方向ハ君津郡ノ西海岸ニ於テハ南六十度西ニシテ、市原郡ニ於テハ南四十度西、千葉以北ニ於テハ南十度乃至二十度ナリ、加茂川沿岸、天津、勝浦ノ海岸地方ニ於テハ南四十度乃至六十度西ニシテ長者町ヨリ茂原附近ニ於テハ其方向南方、西方或ハ北東ニシテ一ナラス、是レ鳴動ノ微弱ナリシ爲メ眞ノ方向ヲ判斷スルノ不精確ナルト反響ノ影響トニ因ルモノナルヘシ

第三圖

鳴動ノ方向



六 被害

調査區域ニ於ケル死傷者及家屋倒潰數次ノ如シ

	死者	傷者	住家 全潰	住家 半潰	非住家 全潰	非住家 半潰	總戸數
南葛飾郡	一五〇人	四一六人	三〇六一戸	四二九六戸	棟	棟	戸
（内調査區域）	九	一三三	一二八	一二八			
東葛飾郡	一五	六七	三四	三七	四七	三七	
千葉郡	一	四	六	三二	一二	四五	
市原郡	二三	五六	六三九	六〇七	六四二	六六一	
君津郡	八七	三三〇	一八六六	二五六九	一九六四	二五五四	二三七六八
安房郡	一二〇九	二九四九	一〇八〇八	二四一二	—	—	三一五〇五
（内調査區域）	—	三	九六	一六二	一八六	一八九	
印旛郡	一人	一人	一戸	六戸	二棟	七棟	
匝瑳郡	一	一	一	一	一	一	
海上郡	一	一	一	一	一	一	
香取郡	一	一	五	三	六	三	
山武郡	一	七	九	三二	一四	一八	
長生郡	二	一	四九	一一三	一一〇	一〇七	
夷隅郡	一	四	一一	三七	二〇	四〇	

死傷者　中死者ハ多クハ家屋ノ倒潰ニ因レル壓死者ニシテ安房郡ニテハ倒潰家屋九戸ニ付キ死者一人、君津郡、南葛飾郡ニテハ約二十戸ニ付キ死者一人ノ率ナリ、君津郡鋸山ニ於テハ採石場崩壞ノ爲メ七名壓死セリ、傷者ハ家屋ノ倒潰、家根瓦ノ墜落等ノ爲メニ負傷シタルモノナリ

被害家屋　ハ震動激甚ナルトコロニ多キハ勿論ナルモ其種類ハ概シテ瓦家ニ多ク藁家ハ瓦家ニ比シ倒潰率少ナシ、此故ヲ以テ學校々舍、町村役場、田地ヲ開拓シテ建築セル地方富豪邸宅其他近年ノ建設ニ係ル普通ノ瓦家ノ倒潰セルモノ著シク多シ、藁家ハ其年古キモノ倒潰シ寺院ハ藁

家ト雖モ家根ノ大ナル爲メカ倒潰セルモノ多ク、鐘樓ハ倒潰セルモノ甚タ少ナク僅カニ富津町大乘寺ノ鐘樓ノ倒潰シタルヲ見タルノミナリ、鐵骨或ハ鐵筋「コンクリート」等ノ建築ハ區域ニ少ナク、煉瓦建築亦同樣ナルモ小菅刑務所監房ノ如ク大破セルモノアリ、土藏或ハ土藏造リ住家ハ倒潰セルカ、或ハ少ナクモ壁土ヲ震盪セラレタリ、金谷、湊町附近ニ於テ房州石ヲ使用セシ建築物ハ大破セルモノ多シ、「トタン」家ハ殆ント倒潰セルモノヲ見ス

道路ノ被害　ハ新設ノモノ、冲積地ヲ埋立テタルモノ、堤防上ニアルモノ、川ノ沿岸ノモノ等ニ甚タシク路上裂罅生シ或ハ陷沒ス

堤防ノ被害　ハ其舊キモノニハ少ナキモ近年ノ造築或ハ改修、修理ニ係ルモノニ多ク、高サ三米乃至八米、幅四五米ノ河川或ハ海岸護岸堤防ニ裂罅生シテ原形ヲ失ヒ或ハ二米以上陷沒シテ危險ヲ呈スルニ至リシモノ少ナカラス、之ヲ要スルニ新設ノ道路、堤防等ハ地震ニ際シテ其基底ノ固定シタル結果龜裂シ或ハ陷沒シタルモノナルヘシ

鐵道ノ被害　ハ堤防ノ沈下、橋梁ノ破損、線路ノ彎曲、山崩レ、停車場ノ倒潰、大破等ナリトス、堤防ノ沈下ハ前述ノ如ク基底固定ノ結果ニ依ルモノナリ、橋梁ノ兩端ハ多ク煉瓦ヲ以テ橋脚ヲ構成シ地震ノ結果橋脚破壞シタル爲メ鐵橋危險ト成レルナリ、線路ノ彎曲セルハ金谷附近ニ二箇處アリ、其彎曲部ハ線路ノ結合部ニ於テ「レール」ハ二條トモ西方ニ約一米前後全長十九米ニ亙リテ彎曲ス、鐵道切割崩壞シ線路ヲ埋沒シテ運轉不可能ナラシメタルトコロ湊、金谷間ニ於テ百米乃至百五十米ニ亙リ數箇處アリ、停車場ハ多ク田地ヲ埋立テ建築セシヲ以テ被害多ク、周西、佐貫停車場ハ全潰シ、木更津、大貫停車場ハ大破セリ

七山崩レ

小糸川下流ノ妙見山、養老川上流ノ淺間山ニ於ケル山崩レハ調査區域ニ於ケル最大ノモノニシテ共ニ數千坪ノ土砂岩塊崩壞墜落シテ河流ヲ堰塞セリ、該所ハ共ニ第三紀層及洪積層ヨリ成ル懸崖川ニ臨ミ高サ六十米ニ達ス、懸崖ノ上部ヲ構成セル厚サ二十五米内外ノ壚坶及砂ハ地震ニヨリテ崩壞墜落シ其餘勢ハ尙下部ノ第三紀ノ砂岩ニ及ヒ崩壞ノ程度擴大スルニ至リシナリ、長生郡五郷村及鶴枝村ニ於ケル山崩レハ里道切割リノ崩壞セルモノニシテ高サ八米乃至十二米ノ第三紀ノ頁岩及砂岩ヨリ成ル崖壁ノ上部五米内外崩壞墜落シ交通ヲ遮斷セリ、君津郡金谷、湊町間ニハ天神山隧道ノ前後、島戸倉隧道ノ北、大貫町磯根崎、鐵道線路、海岸ニ山崩レアリテ交通ヲ遮斷セリ、是等ハ何レモ第三紀層ノ風化霉爛セルモノヽ崩壞シタルモノナリ、鋸山ノ頂上北面ノ採石場七丁場ニ於テ採掘跡崩壞シタリ

八地滑リ

地滑リノ顯著ナルモノハ君津郡中川村小櫃川沿岸ニ起リタルモノニシテ小櫃川ノ北岸平地ニ東西ニ堦段狀裂罅生シ南方ニ二十米以上移動シ河流ヲ堰塞セリ、其他小規模ノ地滑リハ冲積平地ノ河流兩岸ニ之ヲ見ル

九裂罅

裂罅ハ河岸、海邊、田地、畑地、宅地等ノ沖積地或ハ道路、堤防等ノ盛土地或ハ丘陵地ノ緣邊ニアル墻塀等ニ生シ其方向一定セサレトモ河岸、道路、堤防等ニ於テハ夫等ニ平行スルコト多ク宅地ニテハ建築物ニ平行スルコト少ナカラス、裂罅ハ長サ五米乃至二十米ニシテ斷續シテ四百米ニ及フモノアリ、幅ハ普通〇・五米以下、深サ一米内外ナレトモ二米ニ達スルモノアリ、裂罅數條竝走スルトキハ地溝狀ニ陷沒シ其幅四米、深サ一米ニ及ヒ或ハ兩側陷沒シテ地壘狀ヲ呈シ或ハ堦段ニ陷沒シテ小規模ノ堦段狀斷層ヲ呈スルコトアリ

一〇 噴砂丘

安房郡主基村、君津郡富津、木更津、小櫃川、養老川沿岸、江戸川中川間平地ニ於テハ裂罅中ヨリ水ト共ニ土砂ヲ噴出セリ、水ハ裂罅中ヨリ噴出シ其高サ〇・三米ニ達シタルトコロアリ、砂ハ白色或ハ淡綠色細粒乃至粗粒ニシテ屢大サ一糎内外ノ浮石礫ヲ混ス、噴出セル砂ハ裂罅ノ周圍ニ堆積シテ砂山ヲ形成ス、砂山ハ單獨ニ低圓錐丘ヲナスコトアレトモ多クハ裂罅ニ沿ヒテ連續シ幅一・五米乃至二米、高サ〇・一五米、長サ六、七米ニシテ頂上ニ圓形或ハ楕圓形ノ噴出孔アリテ其直徑〇・一五米乃至〇・三米ナリ、市原郡東海村及南葛飾郡南綾瀬村ニ於テハ噴出セル淡綠色ノ砂ハ地下四十米内外ニ存在スルモノナリト稱セラル、市原郡五井町、海上村附近ノ養老川河底ニ於テ地震ノ際地層震盪ノ結果大サ一米ノ亞炭塊ヲ拋出セリ、蓋シ亞炭塊ハ河底ニ礫トシテ伏在セシモノカ水ト共ニ地表ニ拋出セラルヽニ至リシモノナルヘシ

一一 井水ノ變化

井水ハ地震ニ際シ一時混濁セシモノ多キモ數日ニシテ復舊セリ、水量ハ增加セシモノ、減少セシモノ或ハ斷水セシモノアリ、局部ニ於テモ一井增水シ隣井斷水セシモノアリテ變化一樣ナラサルカ如シ

一二 土地ノ隆起

土地隆起ノ記錄ハ自己測定シタルモノ或ハ俚人ノ言ニ徵シタルモノニシテ其記錄ハ調査當時ノ波浪、干滿潮等ノ狀態ニヨリ多少ノ違數アルハ免レサルトコロナリ、太平洋沿岸天津附近ニ於ケル土地ノ隆起ハ約三尺ト云ヒ平潮ニ於テ海岸ノ暗礁裸出スルニ至レリ、湊村ニ於テハ約三尺興津町ニ於テハ約二尺隆起シ勝浦ニ於テハ一尺隆起シタリト云ヒ又變化ナシト云フ、豐濱村、御宿町ノ海岸ニ於テハ隆起ヲ認メス、東京灣沿岸金谷村五尺以上、竹岡村五尺ニシテ竹岡ニ於テハ土地隆起ノ爲メ白狐川河口ニ沙濱出現シ河中繫留ノ漁船ハ沙上ニ座洲スルニ至レリ、湊町ニ於テハ五尺隆起シ湊川ニ於テハ川口ヨリ約三百米ヲ隔ツル湊橋附近ニ於テハ殆ト干滿潮ノ影響ヲ蒙ラサルニ至レリ、大貫町磯根崎ニ於テハ三尺ノ隆起ニシテ富津町ニ於テハ二尺ニ減シ、青堀村ニ於テハ一尺五寸、木更津町ニ於テハ更ニ一尺トナリ、長浦村藏波ニ於テハ殆ト隆起ヲ認メサルニ至ル、卽チ土地ノ隆起ハ海岸地方ニ顯著ニテ房總半島ノ南端ニ於テ最モ著シク北方ニ次第ニ減少シ太平洋海岸ハ豐濱村以北、東京灣海岸ハ長浦村以北ニ隆起ノ現象ナシ、十一月初旬ノ狀況ニ依レハ東海岸鴨川ヨリ天津、興津ニ亙リ隆起ハ約一尺ヲ減シ鴨川二尺、天津一尺五寸、興津一尺以下、勝浦ニ於テハ隆起ノ現象ナシ、土地ノ隆起ト共ニ沈降現象ヲ示セリ、卽チ東葛飾郡船橋町、

南行德町、浦安町、南葛飾郡葛西村ノ海岸ニ於テハ地震以來海水ノ水位上昇スルコト一尺内外ニシテ、浦安町ノ海濱ニ於テハ海苔栽培ノ粗朶ノ長サ從來五尺ナリシカ地震以來六尺ノモノヲ用キサルヘカラサルニ至リ且ツ海底ノ砂ハ堅ク引締レリト云ヒ、葛西村西宇喜田附近ニ於テハ從來浸水家屋ナカリシカ地震以來滿潮時ニ際シ二回未タ經驗セサリシ程度ニ浸水家屋アリタリト云フ、斯ノ如キヲ以テセハ江戸川、中川下流ノ冲積層ハ震動ノ結果固定シタル爲メ土地沈降シ海水ノ水位上昇セシモノナルヘク、沈降現象ヲ示セルハ何レモ冲積地或ハ埋立地ナリトス

一三　被害ト地質

震災ノ被害ハ概シテ平地ニ多ク丘陵地ニ少ナシトス、卽チ地震動ハ丘陵地ニ弱ク平地ニ强カリシナリ、而シテ經驗上濕潤ニシテ締レル砂ト粘土トニ於ケル震動ノ程度ハ前者ニ小ニ、後者ニ大ナルカ如シ

南葛飾郡ニ於テ江戸川ト荒川放水路トノ間ハ平地ニシテ悉ク冲積層ヨリ成ル、被害ノ大ナリシハ南綾瀨村小菅、柳原、松江村東小松川、西小松川、東船堀、瑞江村二之江、葛西村小島等ニシテ該地ハ綾瀨川、荒川放水路及南部ノ運河ニ沿フ、中川及江戸川西沿岸ニ於テハ被害少ナシ、元來該平地ハ江戸川、中川、荒川等ノ堆積物ヨリ成リ其地質明カナラサレトモ被害大ナリシ地方ハ川ノ蛇行セシトコロニ當タリ地質柔軟ニシテ、被害少ナキ地方ハ地質稍堅固ナリシニヨルヘク從テ震動モ亦前者ニ大ニ、後者ニ小ナリシナリ

東葛飾郡ニ於テハ第三紀層及洪積層ヨリ成ル丘陵南北ニ連亙シ平地ハ僅ニ江戸川沿岸及其下

流ニ發達ス、被害ハ野田、流山、松戸、市川ノ各町ニ於テハ極テ僅少ニシテ全潰家屋各一、二戸ニ過キス、是レ各町ノ大部分カ丘陵地ニアリシニ依ルモノナリ、唯野田町醤油工場七棟ノ全潰セシハ該工場ノ冲積地ニ建設セラレシニ依ルナリ、關宿町ニ於テ丘陵上ノ臺町ハ被害少ナキモ中利根川、逆川沿岸ノ新川岸、三軒家ニ於テ全潰家屋三割以上ナルハ該處カ厚サ十米以上ノ粗鬆ナル砂ヨリ成ルニヨルモノナルヘシ、又浦安町ニ於テ被害ノ郡中ニ冠タリシハ該地カ江戸川ノ最新堆積地ナルト及被害地ノ一部カ埋立地ナリシニ因ルヘシ

千葉郡ノ被害少ナカリシハ其大部分カ丘陵地ナリシニ依ルモノナルヘシ

市原郡ニ於テハ丘陵地ハ第三紀層及洪積層、平地ハ冲積層ヨリ成ル、丘陵地ニ於テハ被害僅小ナルニ反シ平地ニ於テハ甚シク、養老川ノ沿岸ナル戸田村ノ全潰家屋三割四分ヲ最トシ東海村二割六分之ニ次キ其中間ニアル海上村ノ七分ナルハ部落ノ多ク丘陵附近ニ在ルニ依ルナルヘク、市西村ハ全潰一戸、下流ノ千種村、五井町一分乃至五分、上流ナル高瀧町ハ被害僅少ニシテ全潰家屋ナシ、卽チ養老川流域ニ於テハ中流附近被害最モ多ク下流ニ於テ被害少ナシ、姉崎町ハ平地ノ南西隅ニ位シ冲積層ノ厚サ明カナラサレトモ恐ラク地下淺處ニ第三紀層伏在スヘク全潰家屋三戸ニ過キス、裂罅ハ概シテ養老川ノ下流及海濱ノ砂地ニ生シ水及砂ヲ噴出セリ、戸田村淺間山ノ崩壞ハ地質ノ脆弱ナリシト斷崖カ恰モ震動ノ方向ニ直角ナリシト斷崖ノ震動ハ平地ニ於ケルヨリ大ナルト等ニ因ルナリ

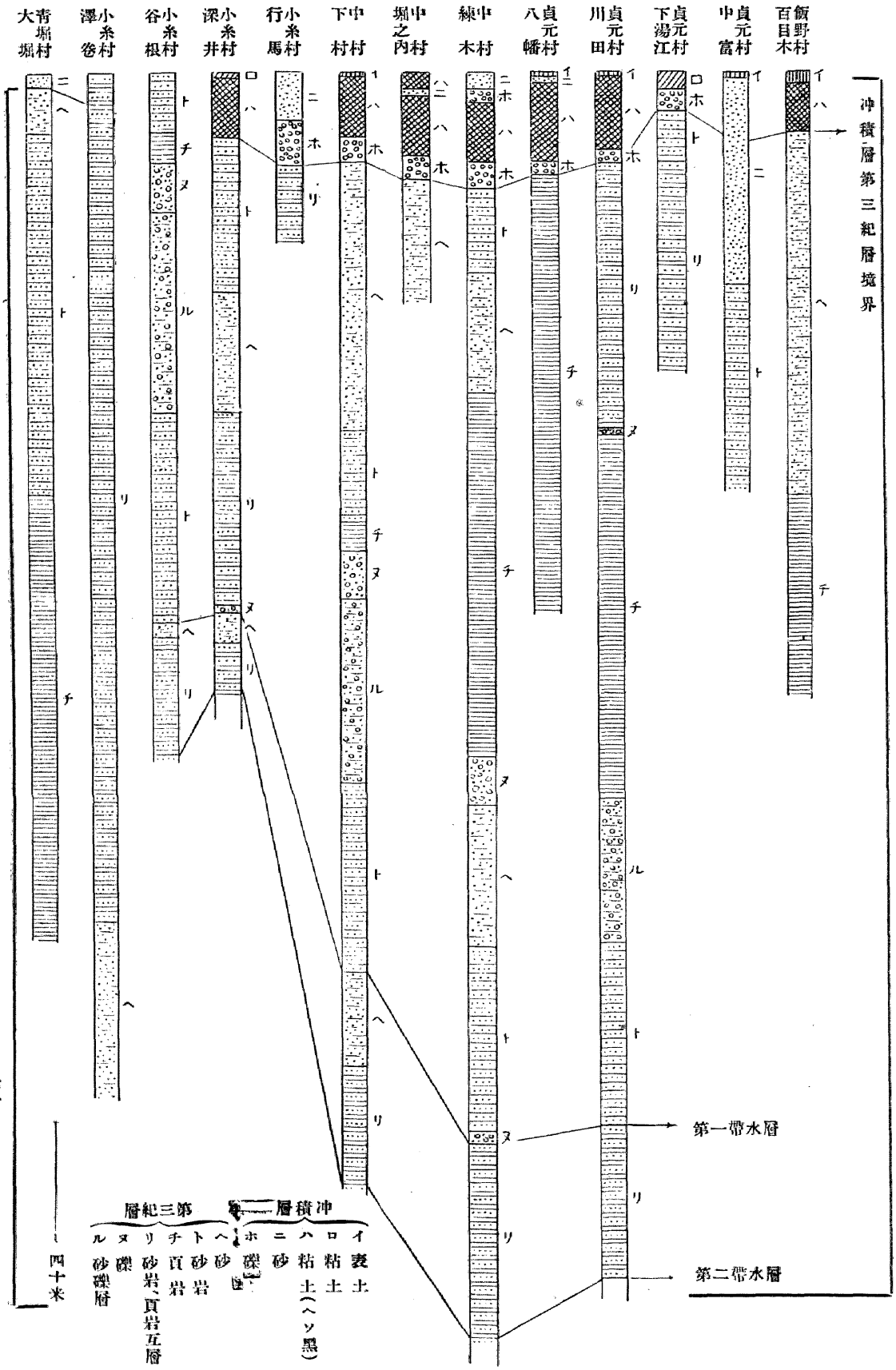
君津郡ニ於テハ調査區域中被害最大ナリ、長浦村、神納村ノ被害僅少ナルハ兩村ノ大部分カ丘陵地ニシテ平地少ナキニ因ル、小櫃川ノ流域ニ於テハ中郷村被害最大ニシテ中川村之ニ次キ、富岡、

小櫃村等上流ニ次第ニ減少シ久留里町以南ニハ被害殆ントナシ、小櫃川下流ノ金田村、巖根村ニ於テハ其被害中郷、中川村ニ於ケルカ如ク大ナラス、卽チ小櫃川沿岸ニ於テ被害ハ中流ニ最大ニシテ上流及下流ニ僅少ナリ、木更津町ハ丘陵ニ近クアレトモ被害比較的大ナルハ該町ノ海岸ハ埋立地ニシテ粗造ノ二階木造瓦家屋櫛比シタルニ因ルナルヘク、埋立地以外ニ於テハ裁判所、寺院ノ倒潰シタルモノアレトモ普通民家ノ被害少ナシ、木更津ノ南、櫻井ハ海岸ノ平地ニアレトモ地下淺ク第三紀層伏在スルヲ以テ全潰家屋二戸アリシノミナリ、小櫃川及小糸川中間ノ丘陵地ハ第三紀層及洪積層ヨリ成リ小山崩レアレトモ人家ノ被害少ナシ

小糸川流域ニ於テハ飯野、貞元兩村ノ全潰家屋三割乃至四割ニシテ八重原村、中村、小糸村等上流ニ次第ニ倒潰家屋減少スレトモ尙七分乃至一割八分ノ全潰家屋アリ、下流ナル青堀村ハ一割四分ナレトモ河口ニアル大堀ハ五分ニ過キス却テ其南ナル青木、西川、富津町新井ニ於テ二割乃至四割ナリ、如斯小糸川流域ニ於テハ養老川及小櫃川流域ニ於ケルカ如ク其被害ハ何レモ中流ニ最大ニシテ下流卽チ海岸附近ニ於テハ中流ニ於ケルカ如ク甚タシカラス又上流ニハ漸次減少スルノ傾向アリ、是レ平地ニ於ケル冲積層ノ地質ニ關係スルコト多キカ如シ、小糸川流域ニ於ケル冲積層序ヲ鑿井者ノ言ニヨリ考察スレハ第四圖ノ如シ

右ノ地層斷面圖ニヨレハ飯野村百目木ニ於テハ地下四米ニ「ヘソ」黑ト稱スル粘土ノ厚サ十五米、貞元村中富ニ於テハ粗鬆ナル砂七十米(?)、貞元村川田ニ於テハ「ヘソ」黑粘土二十米餘、中村堀之內ニ於テハ「ヘソ」黑粘土二十米、小糸村行馬ニ於テハ砂十五米、小糸村深井ニ於テハ「ヘソ」黑粘土二十米、下流ナル青堀村大堀ニ於テハ「ヘソ」黑粘土ナク冲積層五米ニシテ直ニ第三紀層ニ到達ス、卽チ

第四圖


大堀村 青堀
澤卷村 小糸
谷根村 小糸
深井村 小糸
行馬村 小糸
下村 中村
堀之内村 中
木村 練中
八幡村 貞元
川田村 貞元
下江村 貞元
富村 中貞元
百目木村 飯野
沖積層第三紀層境界
第一帶水層
第二帶水層
四十米
沖積層
イ 表土
ロ 粘土
ハ 粘土（ヘッ黒）
ニ 砂
ホ 礫
第三紀層
ヘ 砂
ト 砂岩
チ 頁岩
リ 砂岩、頁岩互層
ヌ 礫
ル 砂礫層

小糸川ノ舊河ハ飯野、貞元附近ニ於テ水停滯シテ湖沼ヲ出現シタルモノヽ如ク茲ニ「ヘソ」黑粘土沈積シ上流ニ次第ニ其厚サ薄ク、下流ハ現今ノ大堀ニ其流路ヲ採リシニハアラスシテ寧ロ其南方青堀村西川附近ニ河口ヲ有セシモノナラン、地震ノ被害ハ小糸川流域ノ平地ニ於テハ地下四、五米ニ存在スル「ヘソ」黑粘土ノ厚サニ正比例シ該粘土或ハ冲積層ノ缺如スル處ニ於テハ被害極テ僅少ナリ、妙見山ノ山崩レハ其原因淺間山ニ於ケルト同一ニシテ崖上ノ妙見神社倒潰セリ

富津町南部ノ平地ハ其地質明カナラサレトモ地表下少クモ五米ハ砂ニシテ恐ラク沙丘タルヘク被害ノ少ナキハ其爲メナルヘシ、大貫町ニ於テハ被害區域狹小ナレトモ小久保川、千草川沿岸ニ倒潰家屋多ク、丘陵地ニ被害甚タ少ナシ、佐貫町ニ於テ佐貫ノ被害五割六分ナルハ佐貫川沿岸ノ冲積層ノ厚キニ因ルナルヘク海岸ノ八幡ニ於テ九分ナルハ地表ノ砂ニ近ク第三紀層ノ横ハルニ因ルナリ、湊町及天神山村ニ於テ湊川沿岸ナル湊、賣津、數馬、更和ニ被害多ケレトモ花輪ノ平地ニ少ナキハ前者ハ冲積層厚キニ反シ後者ニハ地下淺ク第三紀層ノ伏在スルニ因ルモノナリ、湊ノ南海良ニ於テハ第三紀砂岩露出シ該岩上ニ於テハ家屋ノ被害極テ僅少ニシテ湊ニ比スルトキハ地震ト地盤トノ間ニ密接ノ關係アルヲ知ルナリ、竹岡村ニ於テハ白狐川ノ下流ナル竹岡及海岸ナル萩生ニ被害アリシノミニシテ丘陵地ニハ被害殆ントナシ、金谷村ニ於テハ金谷川沿岸ナル久保、荒砥ノ一部、中臺、岡ニ被害多ク、中臺、岡ハ堦段上ニアレトモ厚サ三米以上ノ粗鬆ナル砂ヨリ成ルヲ以テ被害多カリシナリ、海岸附近ハ第三紀砂岩ヨリ成リ倒潰家屋少ナシ、鋸山北斜面ノ採石場ノ崩壞セルハ採掘趾ノ天井ノ墜落シ、或ハ採掘趾ノ崩壞セルモノニシテ鋸山南斜面ナル日本寺境内ノ山ノ中腹ニ於ケル石像ノ轉倒セルモノ僅少ナルニ徵スレハ鋸山ノ震動ハ蓋

シ大ナラサリシナルヘシ、明鐘崎ニ於テハ地層ハ北方ニ傾斜シ斷崖ハ南面シテ峭立シ斷崖ハ崩壞シタリ

安房郡北部ニ於テ湊村、天津町ニ全潰家屋ナキハ該地カ殆ント悉ク第三紀層ヨリ成リ海岸僅カニ濱砂ヨリ成ルニ因ルヘク、加茂川流域ニハ洪積層ヨリ成ル階段發達シ加茂川沿岸ニ於テハ冲積層分布ス、東條村ニハ全潰一戸、西條村ニ於テハ滑谷ニ三割ノ全潰家屋アレトモ其北ノ殘丘上ニアル村役場及小學校ハ被害殆ントナク滑谷ニ接近セル田原村大里、太尾ニ於テハ二割乃至五割ノ全潰家屋アリ、主基村、吉尾村ニ於テハ被害次第ニ減シ二分乃至三分ノ全潰アリシニ過キス如斯加茂川流域ニ於テハ階段上ニ被害少ナキモ沿岸ノ砂及粘土ノ地域ニ於テハ地質柔軟ナリシ爲メ被害多カリシナリ

印旛郡ニ於テハ大森町六軒附近ニ半潰家屋三戸アリシモノ最モ被害大ニシテ他ハ冲積平地ニ於テ家屋ノ小ナル被害アリ、匝瑳郡、海上郡ニ於テハ被害僅少ナリ、香取郡ニ於テハ利根川沿岸平地ニ全潰家屋五戸アリ

山武郡ニ於テハ冲積層ノ厚サ二十米内外ノ大和村下田中ニ稍著シキ被害アリシノミニシテ其他被害少ナシ

長生郡ニ於テハ五郷村、鶴枝村、東村ニ被害アリタレトモ最モ多カリシ東村芝原ニ於テ全潰家屋一割五分ニ過キス、被害地ハ冲積平地ノ河流沿岸或ハ埋立地ナリ、山崩レハ第三紀層ノ切割ニ於テ上部ノ風化セル部分ノ崩壞墜落セシモノナリ

夷隅郡ニ於テハ夷隅川流域千町村、國吉町ニ五分ノ全潰家屋アリシノミニシテ南部ナル興津、勝

浦、御宿町ハ主トシテ第三紀層ヨリ成リ海岸及河流沿岸ニハ狹小ナル冲積平地アレトモ該平地ニ於テモ多クハ地下淺處ニ第三紀層伏在シ被害極テ少ナク全潰家屋ナシ

一四　被害各説

(一)　南葛飾郡

南綾瀬村

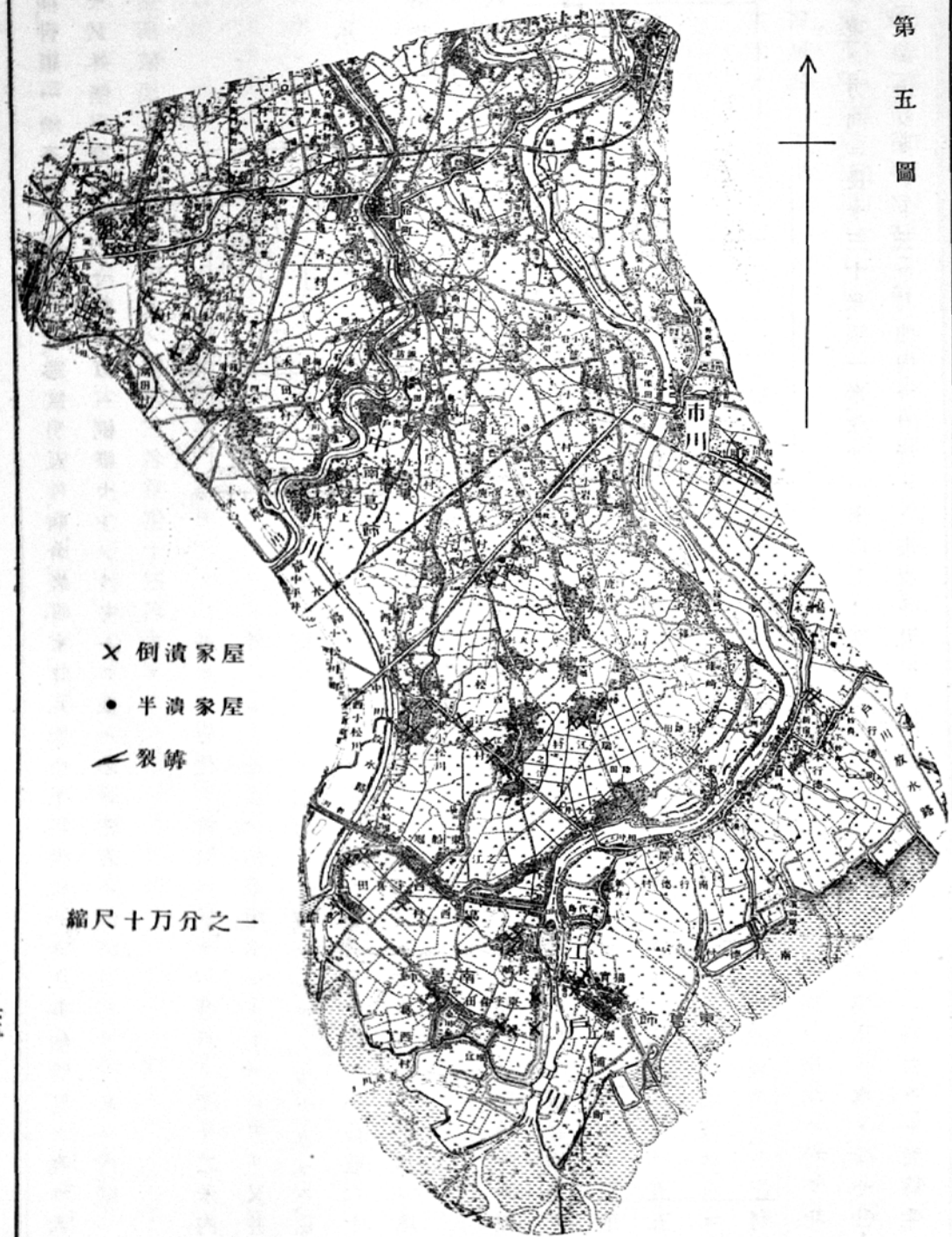
死傷竝家屋被害

人口四一七四、死者二、傷者一五

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
南綾瀬村	七七三	五二	三〇	六・七	三・九	堀切	一〇〇	三	二	三	
小菅	二五〇	二七	一五	一〇・八	六・〇	小谷野	二三	二	一		
上千葉	一一〇	二	一〇	一・八	九・〇	柳原	二一〇	一六	一	八	
下千葉	八〇	二	二	二・五	二・五						

被害區域ハ荒川放水路ノ東岸ノ小菅、西岸ノ柳原ニ於テ最モ甚タシク小谷野、堀切等之ニ次キ上千葉、下千葉等、荒川江戸川ノ中間地帶ニ於テハ被害最モ輕微ナリ、小菅刑務所ハ被害甚大ナリ、即チ煉瓦二階造事務所、二棟ノ官舍外四平家工場、炊事場等無事ナルノミニシテ木造平家工場十五

第五圖



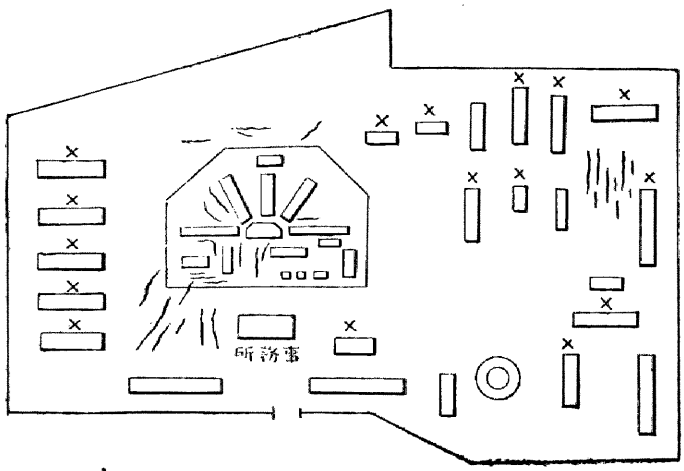
棟、倉庫一棟全潰シ煉瓦二階造監房五棟、病舍、教誨室、煉瓦製造工場大破シタリ、其他煉瓦ノ高サ六米ノ外壁ハ南西隅ノ一部外方ニ倒潰セシノミニシテ他ハ悉ク內方ニ倒潰シ、高サ五米ノ內壁ハ諸所破壞セリ、而シテ囚人ノ卽死三名、重傷十三名アリ

井水ノ變化　柳原ニ於テハ井戸ノ深サ二米內外ニシテ地震ノ結果增水セルトコロアリ又井底ヨリ砂ヲ噴出シ埋沒セシモノ少ナカラス、荒川放水路ノ東ニ於テハ井戸ノ深サハ普通六十米、八十米、百二十米、二百四十米ニシテ井水ニ增減アリ

裂罅　柳原ニ於テハ宅地ニ北西ノ裂罅生シ幅〇・三米內外ニシテ水及砂ヲ噴出シ且惡水路カ〇・六米內外隆起シテ道路面ト等高トナリ又地面ノ低下セシトコロアリ、東武鐵道ノ高サ五・五米ノ堤塘ハ三百米ニ亙リテ破壞シ陷沒スルコト四、五米ニ及ヒ此間縱橫ノ裂罅甚タシ、小菅刑務所ニ於テハ(第六圖)事務所西ノ廣場ニ於テ北々東ノ方向ニ長サ三十米、幅一米、深サ一米以上ノ裂罅三條以上生シ砂及水ヲ噴出シ水ノ深サ〇・三米ニ達シタリト云フ、其他病舍附近ニハ東西、各監房ノ中間廣場ニハ南北或ハ彎曲セル裂罅生

第六圖　小菅刑務所

縮尺　六千分之一



× 全潰家屋

八 裂罅

シ砂及水ヲ噴出セリ、東部工場附近ニハ南北ニ數條ノ裂罅生シ長サ十米內外幅〇・一五米內外ニシテ砂及水ヲ噴出セリ

塔石、煙突　蓮昌寺ノ墓石ハ八百中約半數轉倒シ其方向西方二十四、北方二十一、東方十四、南方五北東四ナリ、一石ハ右ニ十五度廻轉ス、大正硝子會社ノ高サ百尺(三十三米)ノ煉瓦四角煙突ハ中部ヨリ兩切シ上部ハ北二十度西ニ落下ス

地質ト被害　地質ハ冲積層ニシテ上部一米乃至二米ハ粘土、其下ハ砂ナレトモ層位明カナラス、掘拔井戸ノ記錄ニヨレハ地下六十米、八十米、百二十米、二百四十米ニ礫層アリテ帶水シ其間砂及粘土層アリ、綾瀨川沿岸ノ小菅及放水路沿岸ノ柳原及彌五郎新田(綾瀨村)ハ砂及粘土ヨリ成リ一部分ハ盛土ナリ、柳原ハ安政地震ニ際シテモ被害多カリシト云フ

龜青村

死傷並家屋被害　人口三二四五、死傷者ナシ、戸數六七二、住家半潰七戸

本村ニ於テハ被害少ナク住家ノ全潰ナク非住家ノ全潰セシモノ六棟アリ

井水ノ變化　手掘井ハ深サ六米內外ニシテ井水ニ增減アリ、長右衞門新田ニ於テハ井戸枠長サ二米ヲ拋出セシモノアリ、龜有日本紙器會社ノ鑿井ハ深サ二百六十三米ニシテ水量ニ變化ナシ

裂罅　砂原ノ中央ゴム工業株式會社敷地內ハ東西及南北ノ裂罅生シ幅〇・三米、長サ數米ニ及ヒ水及砂ヲ噴出ス、停車場ノ北ニ於テモ宅地ニ裂罅多ク水及青砂ヲ噴出シ、一小川ハ隆起シテ道路面ト等高トナレリ、中川堤防ハ上幅五米、下幅十八米、高サ三・五米ナリ、中原ニ於テハ堤防上北東、南西ニ長サ五十米ニ亙リ幅〇・一五米內外ノ裂罅生ス

塔石　寶持院ノ墓石ハ大部分復舊セシモ調査當時轉倒セルモノ約四十ニシテ北方二十、南方十四、東方三、西方二ナリ

地質ト被害　地質ハ冲積層ナリ、被害ノ普遍的ナルハ地質ノ均等ナルニヨルモノナルヘシ

新宿町

死傷竝家屋被害　人口二六〇八、死傷ナシ、戸數五三〇、住家全潰一、半潰四、非住家全潰一、半潰三

家屋ノ被害ハ殆ント新宿ノミニシテ他ハ被害少ナシ

井水ノ變化　三・五米内外ノ手掘井ハ當時白濁減水ス、掘拔井ハ深サ五十米及七十米ニシテ變化ナケレトモ一時白濁減少セシモノアリタリ

裂罅　新宿ニ於テ中川ト縣道ノ間ニ南北ノ裂罅生シ幅〇・六米、長サ十米内外アリ、地震當時水及砂ヲ噴出セリ、中川堤防新宿ニ於テ略南北ニ幅〇・一五米内外ノ裂罅生ス

塔石　濟鐸寺ノ墓石ハ大部分轉倒シ調査當時尚轉倒セルモノハ北方十二、東方十二、南方十一、西方十一、南西四、北西一ナリ、日枝神社ノ石燈籠ハ南方ニ二、東ニ一、西方一轉倒シ一ハ倒レス

地質ト被害　地質ハ冲積層ナリ、新宿ノ中川、縣道間ハ地表四米ノ間ハ砂ニシテ地形上ヨリ見ルモ近時マテ中川ノ流路タリシモノ、如ク地質柔軟ナリ

金町村

死傷竝倒潰家屋ナシ

井水ノ變化　手掘井ハ三米内外ニシテ變化ナク、掘拔井ハ深サ五十米乃至百二十米ニシテ一時使用シ能ハサリシモノアリシモ漸次復舊シ現時ハ十二三井斷水ス

裂罅　西區ノ稻田中ニアリテハ東西ノ裂罅ヨリ水及砂ヲ噴出シ、江戸川堤防ハ上幅五米、傾斜三十度、高サ四・五米ニシテ鐵橋南ニテ南北ニ約二十米ノ間幅〇・三米ノ裂罅生ス

塔石　金蓮寺ノ墓石ハ約半數轉倒シ其方向ハ東方ヘ二十五、南方ヘ十四、西方ヘ十一、北方ヘ六ナリ、門前ノ燈籠ハ東西南北ヘ各一個宛轉倒ス

地質　ハ冲積層ナリ

奥戸村

死傷竝家屋被害　人口五九一三、死傷ナシ、戸數九七六、住家半潰二〇、非住家半潰五、全潰ナシ

住家ノ全潰セルモノナキモ半潰セルハ諏訪野十戸、奥戸新田五戸、奥戸五戸ニシテ何レモ中川沿岸ニ位ス

井水ノ變化　諏訪野ニ於テハ井戸ノ深サ四米ニシテ水量ニ變化アリ、或ハ井戸枠ヲ拋出シ、或ハ土砂ヲ噴出シテ井戸ヲ埋沒セリ、掘拔井ハ深サ七十米及百四十米ニシテ水量ニ變化ナシ

裂罅　諏訪野、奥戸新田、奥戸ニ於テハ中川沿岸ニ平行シテ大小ノ裂罅生シ其爲メニ家屋ノ半潰セシモノ多シ、諏訪野ニ於テハ中川堤防上南北ニ長サ五十米ニ亙リ幅〇・三米、深サ二米ノ裂罅生シ、奥戸新田ニ於テハ小學校西ノ道ヲ横キリテ南北ニ三條ノ裂罅アリテ落差〇・一五米乃至〇・三米ニシテ路上階段ヲ成ス、奥戸橋東詰ノ堤防下ニモ南北ノ裂罅走リ堤下ニ於テハ噴水セリト云フ

奥戸橋ノ橋脚ハ三箇處ニ於テ低下セシ爲メ橋上ニ高サ約〇・三米ノ凹凸ヲ生シ渡橋危險ナリ

地質　地質ハ冲積層ナリ、被害地ハ中川ノ彎曲部ニ多ク是レ此附近カ新期ノ地層ニシテ柔軟ナ

ルニ依ルモノナルヘシ

小岩村

死傷竝家屋被害　死傷者ナク、全潰家屋ナク僅カニ江戸川沿岸小岩田、下小岩、伊豫田ニ半潰家屋三戸アリシノミナリ

井水ノ變化ナシ

裂罅　江戸川堤防上小岩ニ於テ北西、南東ノ方向ニ約十米ニ亙リ裂罅生シテ南西方ニ崩壞シ下ノ小池ヲ埋メタリ、蓋シ池ニ向ヒテ堤防ノ辷落セシモノナルヘシ

小岩田ニ於テハ約二萬五千平方米ノ地積約〇・三米沈下ス

本田村

死傷竝家屋被害　人口六七四九、死傷者ナシ、戸數一三五七ニシテ全潰家屋ハ澁江一戸、篠原ナル日本製紐株式會社工場、原ナル山力友禪工場ニシテ中川及荒川放水路ノ沿岸ニ在リ、小學校ハ大破ス

井水ノ變化　井戸ノ深サハ四十米、八十六米、三百米ニシテ水量ニ多少ノ變化アリシモ多クハ復舊ス

裂罅　中川堤防川端及荒川放水路交叉點附近等三百箇處ニ於テ長サ十五米内外ニ亙リ裂罅生シ幅〇・三米深サ二米ナリ

塔石　南藏院ノ門前ノ石塔ハ北七十度西ニ轉倒シ、一石ハ右ニ五度内外廻轉ス

鹿本村

死傷竝家屋被害　人口三〇〇九、戸數四五〇、住家ノ倒潰ハ松本三戸、本一色二戸アリシノミ

其他村役場ハ南四十度西ニ傾斜シ小學校ハ一棟全潰ス

井水ノ變化　井戸ハ深サ三百米ニシテ良水ヲ得ヘク、地下七十米及百二十米ノ水層ハ惡水ナリ

井水ハ一時白濁セシモ復舊シ多少增水ノ傾向アリ

塔石　光藏寺ノ墓石ハ約三百三十中北方ヘ十五、南方ヘ十四、東方ヘ五、西方ヘ三、南西ヘ二、北西ヘ二、北東ヘ一轉倒ス

地質　冲積層ヨリ成ル

松江村

死傷竝家屋被害　人口八四〇〇、壓死者一

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
松江村	一五一八	二〇	一七	一・三	一・一
東小松川	四八八	五	三	一・〇	
西一之江	二五七	五	一	一・九	

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
西小松川	四六一	五	八	一・〇	一・七
東船堀	二三七	四	五	一・二	二・一
西船堀	七五	一	一		

被害區域ハ荒川放水路、境川沿岸ニシテ全潰二十戸ノ中瓦葺十六戸、草葺四戸ナリ

裂罅　東船堀運河ノ北岸道路ハ修繕中ナルカ北西、南東ノ方向ニ約百米ニ亙リ裂罅生シ幅〇・一二米、深サ一米内外ナリ、荒川放水路外堤防ハ破損セサルモ内堤防ハ數箇處ニ裂罅生シ西船堀、東小松川間ニ於テハ幅〇・三米乃至〇・六米深サ一米乃至二米ニシテ長サ十米乃至三十米ナリ

瑞江村

死傷並家屋被害　人口六一七五、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
瑞江村	一〇三五	八	一四	〇・七	一・三
二之江	二三〇	三	八	一・三	三・四
下今井	一四三	一	一		

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
當代島	一七	一	二	一	
東一之江	二一八	四	三	一・八	

被害區域ハ江戸川、中川間運河ノ沿岸、境川ノ沿岸及江戸川沿岸前野附近ナリトス

井水ノ變化　深サ三十米内外ノ井戸ハ概シテ水量増加シ百二十米乃至百六十米ノ井戸ハ概シテ減水ス

裂罅　江戸川ノ沿岸篠崎村下篠崎、本村上今井間ハ舊堤防ト江戸川新堤防トノ間ニ無數ノ裂罅及陥没箇處生セリ、裂罅ハ主トシテ新堤防ノ西方低地ニ略江戸川ニ平行シテ北東、南西ニ走リ長サ二十米内外、幅〇・三米乃至〇・六米ニシテ水及砂ヲ噴出シ前野ノ道路ニハ之ト平行シテ西北西ニ走ル裂罅生シ幅〇・一二米ニシテ水及砂ヲ噴出セリ、新堤防ハ上幅八米、下幅二十米、高サ三米、土砂ヲ疊重セシモノニシテ篠崎村伊勢屋、中洲、前野、當代島地先ニ於テ堤防上北東、南西ニ亙リ裂罅生シ幅〇・三米以下、深サ二米ニ及ヒ〇・六米以上陥没セルトコロアリ、前野ニ於テハ田地約三萬六千平方米ノ地積約一米陥没シ稻ハ水中ニ没スルニ至レリ

塔石　墓石ハ半數轉倒シ其方向南多シ

篠崎村

死傷竝家屋被害　人口三四〇〇、死傷者ナシ、戸數五四〇、被害僅少ニシテ中洲ニ半潰セルモノ一戸アリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ十六米、三十二米、五十米ニシテ水ヲ得、地震當時水ハ白濁シ現時増水セルモノ或ハ減水セルモノアリ

葛西村

死傷竝家屋被害　人口八五〇〇、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
葛西村	一三七六	一六	一八	一・一	一・三
東宇喜田	五九六	四	二	〇・七	〇・三
長島	二四五	三	七	一・二	二・九

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
桑川	一四一	一	一		
西宇喜田	三二四	四	七	一・二	二・一
小島	七〇	四	一	五・七	一・四

被害ハ全村ニ分布シ小島ニ於テ全潰家屋百分中約六ナリ、全潰家屋十六戸中五戸ハ瓦葺家ニシテ他ハ藁葺家ナリ、全潰家屋中瓦葺家ノ比較的少ナキハ其數少ナキニヨルナリ

裂　西宇喜田ナル小學校庭及其附近ノ宅地ニ於テハ北々西、南々東ノ裂罅生シ長サ十米内外ノモノ數十米斷續シ、幅〇・一五米、深サ一米内外ニシテ水及砂ヲ噴出セリ、海岸堤防ハ上幅二・五米乃至三・五米、下幅七米内外、高サ三米ニシテかやね土ト稱スル海岸ノ泥土ヲ以テ築キ海ニ面シテ「コンクリート」ヲ施シ、或ハ石垣ヲ築ク、裂罅ハ多ク堤防上外側ニ近ク生シ幅〇・三米深サ一五米内

外ニシテ其外側ハ多ク破壊ス

地質　冲積層ナリ、地表一・五米ハ粘土、其下二米ハ砂、其下粘土ナリ、地震ノ結果土地低下シタルモノヽ如ク滿潮ニ際シテハ西宇喜田附近ノ民家ニ於テ河水溢レ床上ニ浸水シタリ、地震以前ニハ曾テ經驗セサリシ現象ニシテ低下ノ程度約一尺ナリ、是レ柔軟ナル地層ノ固定セシニヨルモノナルヘシ

(二) 東葛飾郡

關宿町

死傷竝家屋被害　人口二九四八、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
關宿町	五二五	四	五	〇・八	〇・九
臺町	二八八	一	—		—
三軒家	六	一	二	一六・六	三三・三

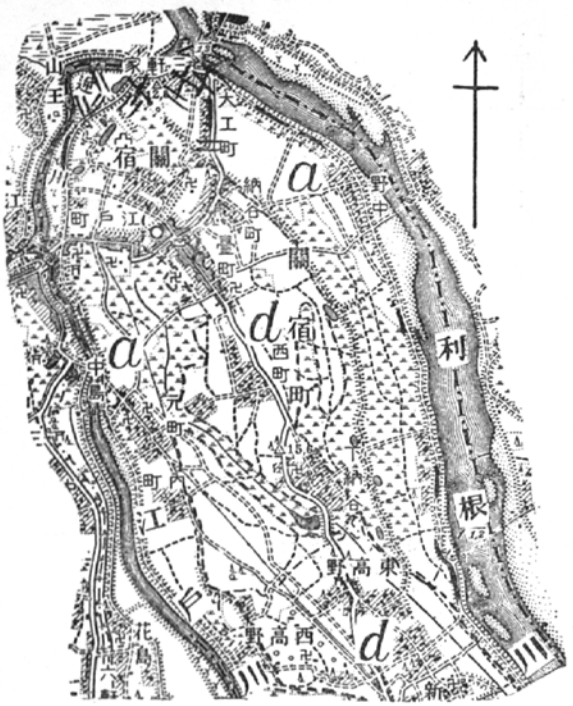
	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
内町	一五	—	一	—	
新川岸	六	二	一	三三・三	一六・六

非住家全潰七棟、半潰六棟

被害區域ハ臺町ノ北ナル新町、新川岸、三軒家等利根川及逆川ノ沿岸ニシテ新川岸及三軒家ニ於テ倒潰或ハ大破セサルモノナシ、臺町ノ村役場ハ二階造瓦家ニシテ南三十度東ニ十度傾キ、實相寺ノ本堂ハ柱折レテ北東ニ斜傾ス

井水ノ變化　臺町ノ高臺ニ於テハ井戸ハ深サ七、八米ニシテ水量變化ナシ、新川岸、三軒家ニ於テハ井戸ハ深サ三米内外ニシテ地震ニヨリ多クハ井底ヨリ砂ヲ噴出セシ爲メニ埋沒シ或ハ井戸枠壓碎ノ爲メ廢棄ニ歸シタリ、新川岸ノ一井戸枠ハ北西、南東ヨリ壓縮セラレテ北六十度東ノ方向ニ長ク楕圓形ニ歪ミタリ

第七圖

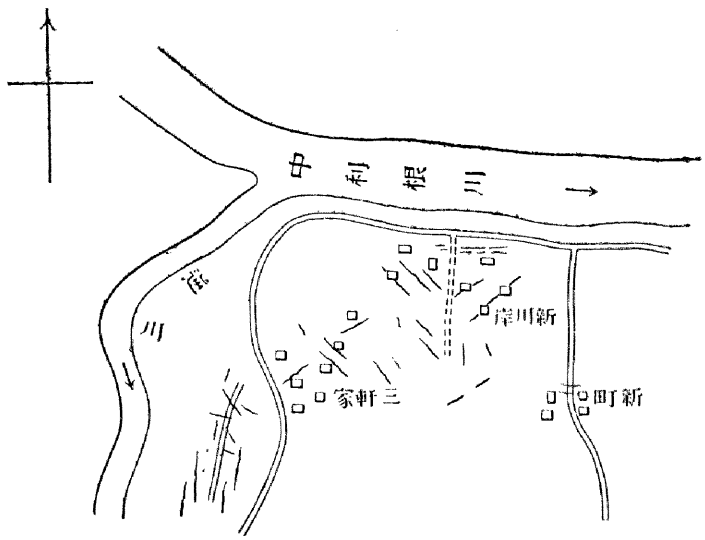


裂罅　臺町ト新町トヲ堺スル用水以北ニ於テハ裂罅多ク新町ニ於テハ道ヲ東西ニ横リテ長サ八米、幅〇・三米ノ二、三ノ裂罅生シ（第七圖及第八圖）砂ト水トヲ噴出シタリ、新川岸ニ於テハ堤防ト部落トノ中間ニアル小徑ハ一米陷沒シテ浸水シ田地ノ緣邊ニハ之ト平行シテ東西ニ小裂罅生シタリ、新川岸ノ東部ニ於テハ北東、南西ノ裂罅、西部ニ於テハ北西、南東ノ裂罅生シ何レモ幅〇・一米、深サ一米以上、落差約〇・五米ナリ、殊ニ西部ニ於テハ東西二十米、南北二十五米ノ間約〇・六米沈下シ其最モ甚タシキハ長サ六米、幅二米、深サ二米ナリ、三軒家ニ於テハ北東及北西ノ裂罅生

シ東部ニ於テ裂罅ノ最モ著シキモノハ北西ニ走リ長サ二十五米、幅一米乃至二米、陷沒〇・三米ナリ、西部ノ堤防際ニ於テ裂罅ハ北東ニ走リ長サ二十米、幅一米、深サ一・三米ナリ、是等ノ裂罅ヨリ地震當時砂及水ヲ噴出シタリ、利根川ノ新堤防ハ上幅十米、高サ十米、二段ヲナシ其傾斜約二十五度ナリ、江戸川堤防ハ上幅五米、高サ八米、二段ヲナシ傾斜二十八度内外ナリ、利根川堤防ハ新川原ニ於テ長サ約五十米ノ間陷沒シ其最モ甚タシキモノハ二米ニシテ其他南方野中及其下流ニ於テ約四箇處ニ裂罅生シ或ハ陷沒ス、逆川ニ於テハ堤防ハ三軒家附近ニ於テ多ク破壞シ原形ヲ止メサルトコロアリ

第八圖

縮尺七千分之一



塔石　關宿臺町ノ實相寺本堂前ノ石塔ハ南三十度東ニ轉倒シ、墓石ハ約五分ノ三轉倒シ其方向北六十度東多シ、二、三墓石ハ右ニ五度乃至十度廻轉ス

地質ト被害區域　本町ヲ構成スルハ洪積層及冲積層ナリ、洪積層ハ縣道ニ沿フ臺地ノ表面ヲ構成シ厚サ七、八米ノ壚坶ナリ、其下部ハ粘土ナリ、臺町、納谷町、元町等ニ被害少ナカリシハ兩層ノ發達セシニ由ルモノナリ、冲積層ハ洪積層臺地ニ侵入セル溪谷及利根川、逆川沿岸ニ發達シ粘土及砂ヨリ成リ利根川、逆川沿岸ニ於テハ砂ノ厚サ十米以上ニ達シ其固結充分ナラサルヲ以テ地震

ニ際シ裂罅生シ水及砂ヲ噴出セリ

二川村

死傷並家屋被害　人口四五一五、死傷者ナシ、戸數七五〇、住家全潰二戸、非住家全潰、半潰各一棟

住家ノ全潰セシハ親野井ノ粗雜ナル古藁家ナリ、其他非住家ハ柏寺ニテ木造小屋各一棟全潰及半潰セリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ四米乃至五米ニシテ水量及水質ニ變化ナシ

裂罅　利根川堤防新田戸ニ於テ長サ二百米ノ間約一米陷沒シ古布内ニテ三百八十米龜裂陷沒シ、江戸川堤防中戸ニ於テ長サ五十米ノ間裂罅生シ川ニ墜落セリ

地質ト被害　本村ハ殆ント全部洪積層ヨリ成リ僅カニ冲積平地散在ス、洪積層ハ壚坍ヨリ成リ壚坍ノ厚サ五米内外ナリ、被害ノ少ナカリシハ本村ノ大部分カ洪積層タリシニ由ルモノナルヘシ

野田町

死傷並家屋被害　人口一二七七三、傷者四、戸數二八五八

住家ノ倒潰セシハ中野臺ニ藁葺古家一戸ノミナリ、野田醬油工場ノ全潰七棟ナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ五米内外ニシテ地震當時井水白濁ス

塔石、煙突　太子堂ノ墓石ハ大部分倒レシモ復舊後ナルヲ以テ其方向明カナラス、二墓石ハ右ニ十度乃至二十度廻轉ス、共同墓地ノ墓石モ大部分轉倒ス、太子堂前ノ石燈籠ハ二個北ニ轉倒ス、野田醬油工場ノ煙突ノ被害左ノ如シ(第九圖)

第一工場　高サ六十尺、徑六尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ約四十尺ニ龜裂生シ上部ハ西方ヘ約三寸偏位ス

第二工場　高サ六十五尺、徑六尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ四十尺ニテ折斷シ上部ハ尚三分折シ南、北及東ヘ落下ス

第三工場　高サ六十尺ノ四角煉瓦煙突、上半部龜裂生シ上部ハ南方ヘ數寸偏位ス、高サ十五尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ五尺ニテ折レ上部ハ東方ヘ墜落ス

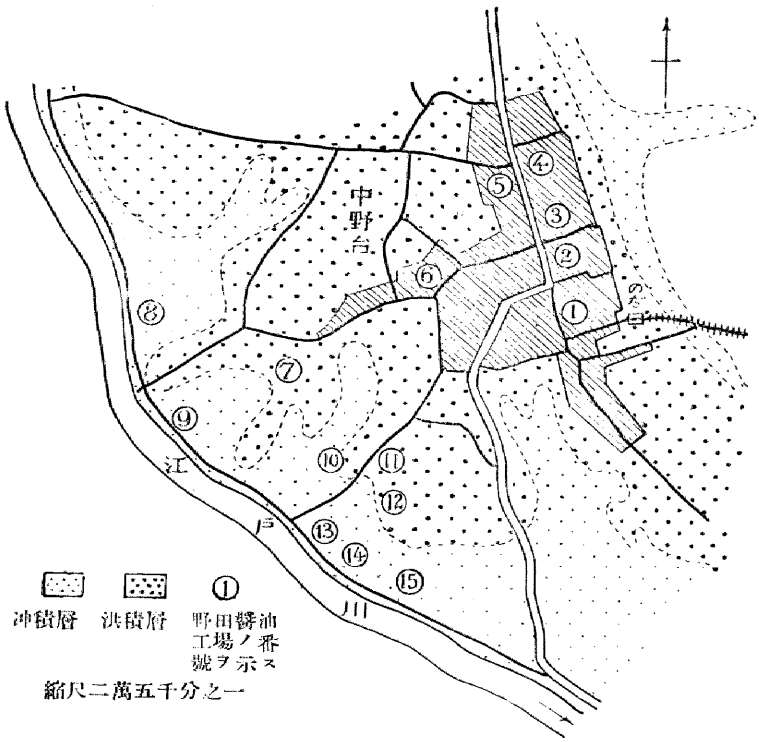
第四工場、第五工場　共ニ高サ六十尺内外ノ四角煉瓦煙突、中央部ヨリ下ニ數箇處ニ小龜裂生ス

第六工場　鐵板煙突故障ナシ

第七工場　高サ六十二尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ四十二尺ニ龜裂生シ上部南方ヘ數寸偏位ス

第八工場　高サ六十尺ノ四角煉瓦煙突、中央部ヨリ下部ニ小龜裂生ス、高サ九十二尺、徑十尺ノ丸煉瓦煙突、下部ヨリ七十四尺ニ龜裂生シ折斷シ南四十度東ニ墜落ス、高サ十五尺

第九圖
野田町地質圖



ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ四尺ニテ折斷、東方ヘ墜落ス

第九工場　高サ八十五尺、徑十尺ノ六角煉瓦煙突、下部ヨリ三十一尺及四十尺及中央ニ縱ニ龜裂シ上部及中央部ハ北方ヘ五寸偏位ス

第十工場　高サ六十五尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ四十尺ニテ龜裂ス、高サ九十尺ノ丸煉瓦煙突、下部ヨリ七十尺ニテ龜裂シ上部ハ南方ヘ墜落ス、高サ四十尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ二十五尺ニテ龜裂シ上部ハ東方ヘ墜落ス、工場三棟全潰ス

第十一工場及第十二工場　煉瓦煙突ハ小龜裂ヲ生ス

第十三工場　被害ナシ

第十四工場　高サ六十一尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ四十尺ニ龜裂シ上部ハ二分シテ南及西ヘ墜落ス

第十五工場　高サ六十尺ノ四角煉瓦煙突、下部ヨリ四十五尺ニ龜裂シ上部ハ南東ニ約五寸偏位ス、高サ八十五尺ノ丸煉瓦煙突、下部ヨリ五十一尺及六十九尺ニ龜裂生シ上部ハ北二十度東ヘ落下ス、第十五工場ニテハ工場四棟全潰ス

以上工場ニ於ケル煉瓦煙突二十八中十一ハ龜裂ヲ生シ八ハ折斷、墜落セリ、墜落セル方向ハ北三、南二、東二、南東一ナリ

地質ト被害　野田町ハ主トシテ洪積層ヨリ成ル臺地ニシテ中野臺ノ西ヨリ江戸川ニ至ル間及中野臺ノ南江戸川沿岸ヨリ梅郷村ニ亙リテ冲積平地發達ス、中野臺ニ於ケル住家一、工場一ノ倒潰ヲ除ケハ工場七棟ノ倒潰セシハ江戸川ニ沿ヒタル冲積層、盛土地ナリ、卽チ震災被害ハ冲積層

地ニ著シトス

梅郷村

死傷並家屋被害　人口三七〇〇、死傷ナシ、戸數五八六、住家全潰ナク、半潰六戸、非住家全潰五棟、半潰ナシ

被害ノ著シキハ江戸川沿岸ナル今上及平地中ノ上谷、下谷ニシテ其他梅郷停車場附近山崎ニ多少ノ被害アリ

井水ノ變化　今上、下谷附近ニテハ井戸ノ深サ二米内外ニシテ地震ノ結果砂ヲ噴出シテ埋沒セシモノ四、井水湧出ノ停止セシモノ六、混濁セシモノ六アリ

裂罅　上谷、下谷、今上ノ宅地ニハ北東及北西ノ大小裂罅生シ、幅〇・三米内外ニシテ當時噴水セリ又江戸川堤防ハ今上ニ於テ北西、南東ノ方向ニ約百米ニ亙リ裂罅生シ、川ニ面セル部分ハ落下シ其差一米乃至二米ナリ、運河堤防深井新田地先ニ於テ約五十米ニ亙リテ北東、南西ニ裂罅生シ其幅〇・三米以下、深サ一米内外ニシテ幅二米ノ堤防ハ二分ノ一以上破壞セラレ北西方田地ニ墜落ス、江戸川堤防下ノ小徑ハ到ル所裂罅生シ總延長千米以上ニ及ヒ小徑ノ陷沒シテ浸水セルトコロ少ナカラス

塔石　櫻臺墓地ノ墓石ハ大部分轉倒シ其後復舊セシモ調査當時轉倒シ居リシハ東方ヘ十一、西方ヘ十、北ヘ十ナリ

地質ト被害　臺地ハ塵埃ヨリ構成セラレ地表ハ多ク塵埃ニ被覆セラルレトモ臺地ノ緣邊ニ於テハ屢下部ニ粘土ヲ檢ス、平地ハ粘土及砂ヨリ成リ粗鬆柔軟ナリ、今上、上谷ハ斯ノ如キ平地ニ位

セシヲ以テ臺地々方ニ比シ被害多カリシナリ

流山町

死傷並家屋被害　人口四八〇〇、死傷者ナシ、戸數九一八

住家ノ全潰セシハ流山ニ瓦葺平家一戸ノミニシテ其他約四十戸ノ家根瓦半數墜落シ、小學校舍ハ傾斜シ、建築中ノ陸軍糧秣廠倒潰ス

井水ノ變化　手掘井ハ深サ三米内外ニシテ山手ナル鰭ケ崎、西平井、三輪山等ノ四井斷水セシ外一時白濁セシノミナリ、掘抜井ハ深サ六十米乃至百五十米ニシテ地震當時多少減水セシモ漸次復舊ス

裂罅　江戸川堤防ハ上幅四、五米、傾斜河ニ面シテ二十度、陸ニ面シテ三十度、高サ六米ニシテ下西割附近ニ於テ堤防上南北ニ小裂罅生シ、一部分江戸川ニ向ケ墜落ス

塔石　流山一寺院ノ墓石ハ復舊シテ其轉倒方向明カナラサレトモ北四十五度東及南四十五度西ノモノ多キカ如シ

松戸町

死傷並家屋被害　人口八〇一〇、死傷者ナシ、戸數一五一六、住家全潰二戸、半潰七戸、非住家全潰四棟、半潰一棟

住家ノ全潰セシハ松戸ニ於テ瓦葺古家及煉瓦工場各一棟ナリ、住家ノ半潰及非住家ノ倒潰セシハ江戸川及坂川ノ中間地帶ニ多シ、松戸橋ノ南堤防下ニ於テ堤防崩壞ノ爲メ一家屋ノ東方ニ押出サルヽコト二米ナレトモ倒レス

井水ノ變化　井戸ハ深サ三十米内外ノモノ最モ多ク其他五十米乃至六十米ナリ、地震當時井水白濁セシノミニシテ水量ニ變化ナシ

裂罅　松戸ヨリ八柱村ニ至ル郡道大橋附近ニ於テ北西、南東ニ亙リ約七十米ノ間裂罅生シ道幅五米中約二米ヲ破壞ス、該裂罅ハ幅〇・二米内外、深サ一米内外ニシテ道ニ平行シテ約三條アリ

塔石　西蓮寺ノ墓石ハ百五十中轉倒セシハ約十五ニシテ其方向北二十度東ナリ、松戸神社ノ石燈籠十二中、頂上ノ寶珠ノ轉落セシモノ西方ニ三、東方ニ一ナリ

地質ト被害　松戸町ノ地質ハ洪積層及冲積層ナリ、洪積層ハ東部ノ臺地ヲ構成シ塩埴ヨリ成リ厚サ四米内外、砂ハ其下ニアリテ褐色ヲ呈シ粗鬆ニシテ厚サ十米以上ナリ、冲積層ハ江戸川及其支流ノ沿岸地ヲ構成シ砂及粘土ヨリ成ル、震災被害ハ殆ント平地ニ限ラレ殊ニ江戸川及坂川ノ中間地帶ニ於テ著シカリシハ該處カ冲積層ヨリ成リ地層柔軟ナルニ由ルモノナルヘシ

市川町

死傷並家屋被害　人口一〇三五〇、戸數二〇六三

住家ノ全潰セシハ市川新田ニ於テ新築中ノモノ一戸、半潰セシハ市川劇場外物置一棟ニシテ被害輕微ナリ

井水ノ變化　手掘井ハ深サ四米乃至六米ニシテ地震當時井水白濁セサリシモ爾來井水ハ多少減少ノ傾向アリ、鐵橋下流ノ一井ハ深サ五米ナリシニ地震ニ際シ長サ三米ノ井戸枠ハ地表ニ拋出セラレタリ

塔石　墓石ハ百分ノ二乃至三轉倒セリ

中山村

死傷竝家屋被害　人口三五九七、死者一四、傷者八、戸數五八二

死傷者ハ上毛「モスリン」株式會社中山工場内ニ生シタリ、當時工場ノ從業員二千三百人ニシテ工場ノ東西兩側ノ高サ八米、幅〇・三米ノ煉瓦壁ノ上部約三米數箇處ニ於テ墜落セシ爲メ死者十四名(内男三名、女十一名)、負傷者八名アリタリ、其他村内家屋ノ被害ハ非住家半潰二棟ナリ

井水ノ變化　平地ニ於テハ井戸ノ深サ三米内外ニシテ地震當時井水白濁セルモ水量ニ變化ナシ、掘拔井ハ深サ三十米乃至四十米ニシテ水量ニ變化ナシ

塔石　本行院ノ石塔ハ北四十度西ニ六糎偏位ス、法華經寺ノ墓石ハ二分ノ一轉倒セシモ調査當時ハ既ニ復舊セリ、而シテ轉倒ノ方向ハ西及北西ノモノ多カリシカ如シ、數墓石ハ右ニ十度内外廻轉ス、「モスリン」工場ノ南ナル千葉電氣株式會社ノ高壓線「コンクリート」造電柱ハ冲積平地ニ樹立セシモノニシテ八本中六本ハ連續シテ北東方ニ約二十度傾斜シ二本ハ却ツテ南方ニ傾斜ス

地質ト被害　村内ハ洪積層及冲積層ヨリ成ル、洪積層ハ壚埴ヨリ成リ臺地ヲ構成シ地表ニハ壚埴分布スレトモ小學校ヨリ法華經寺附近ニ亙リテハ粗粒ナル砂層露出ス、冲積層ハ「モスリン」工場内ニ於ケル深サ百十七米ノ鑿井ノ記錄ニ就テ見ルニ粘土、砂及礫ノ互層ナリ、本村ノ震災被害ハ洪積臺地竝ニ冲積平地ニ於テ共ニ輕微ナリ

船橋町

被害殆ントナク墓石ノ轉倒セシモノ少ナシト云フ

三田濱ノ「ラヂウム」鑛泉場ニ於テハ地震以來土地低下スルコト約九寸ナリ

行德町

死傷竝家屋被害　人口七二〇〇、傷者三、戸數一四〇八、住家全潰三戸、半潰一戸、非住家全潰五棟、半潰二棟

住家ノ全潰セシハ關ケ嶋ナル瓦平家、河原ナル養福院瓦平家、大和田ナル瓦製造所各一戸、半潰セシハ高野ノ寺ノ庫裡一戸ナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ二十五米乃至百二十米ニシテ普通二十五米乃至五十米ナリ、地震當時井水白濁セシノミナリ

裂罅　江戸川堤防ハ下新宿ニ於テ北々東ノ方向ニ約三百米ノ間裂罅又ハ陷沒ス、裂罅ハ幅〇・三米、深サ一・六米ニシテ二條アリ、江戸川放水路堤防ハ數箇處ニ小裂罅生ス、海岸堤防數箇處ニ於テ裂罅生シテ破壞ス

塔石　田尻淨經寺ノ墓石約半數轉倒シ大部分復舊セシモ墓石十二ハ北方ヘ、三ハ南方ヘ轉倒ス、其他市街地ニテ煉瓦塀ノ倒潰セルモノアリ

地質ト被害　當町ハ冲積層ヨリ成リ其層序明カナラサルモ中山村ノ冲積層ト略同一ノモノナルカ如シ、被害地ハ何レモ冲積平地ニアリテ被害家屋ノ殊ニ小川ノ緣邊ニアルハ注意スヘキコトナリ、關ケ嶋ノ倒潰家屋ハ田地ノ埋立地ニ建造セシモノナリ、堤防ノ破壞ハ附近被害地一般ノ通勢ニシテ殊ニ新設ノモノニ甚タシ

南行德町

死傷竝家屋被害　人口三六七二、死者ナシ、戸數七二八、住家全潰四戸、半潰七戸、非住家全潰五棟、半

潰十一棟

全潰家屋ハ押切二戸、欠眞間二戸、半潰ハ押切四戸、新井三戸ナリ、何レモ江戸川沿岸及其支流沿岸ニ在リ

井水ノ變化　江戸川沿岸相川ノ掘拔井ハ深サ七十米内外ニシテ水量ニハ増減アリ、三井ハ地震前増水シ地震後尚増水ノ狀態ニアリシモ二日ニハ斷水セリ、又一井ハ一日朝約〇・一五米減水セシモ一日夕ハ約一米増水シ且ツ砂ヲ噴出セリ、手掘井ハ深サ三米内外ニシテ變化ナシ

裂罅　江戸川堤防上、湊附近ニ於テ二十米、欠眞間附近ニ於テ長サ十米、相ノ川附近ニ於テ二十米裂罅生シ幅〇・二米、深サ一米内外ナリ、相ノ川ニ於テハ堤防上ノミナラス堤内ニ堤防ニ平行シテ東西ニ裂罅生シ幅〇・二米内外ニシテ地震當時噴水セリ、海岸堤防ハ百米以上ニ亙リ裂罅生ス

塔石　新井延命寺ノ墓石ハ約半數轉倒シ南方十三、北方三、東方二、西方三ナリ

地質ト被害　地質ハ冲積層ナリ、地表ハ一米弱ノ粘土、其下ハ砂ナリ、以下ハ不明ナレトモ井戸ニ徴スルニ行德、中山地方ト同一地層ニ屬スルモノナルヘシ、家屋被害地ハ江戸川沿岸ニ多ク地層ノ新期ニシテ柔軟ナル處ニ該當ス

新濱鴨場ニ於テハ地震以來土地一尺内外低下ス

浦安町

死傷竝家屋被害　人口九三四一、傷者五〇

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
浦安町	一九〇四	一五	一一	〇・八	〇・六	猫實	九一〇	一二	七	一・三	〇・八

堀江	七九二	三	四	〇・四
				〇・五

非住家全潰七棟、半潰三棟

浦安町ノ被害ハ郡内最モ甚タシ、被害區域ハ堀江、猫實ニシテ猫實ニ於テハ全潰家屋ハ全部瓦葺家、堀江ニ於テハ瓦葺家一戸「トタン」家一戸、藁家一戸ニシテ「トタン」家及藁家ハ土藏倒潰ノ爲メニ壓倒セラレシモノナリ、其他猫實ノ小學校ハ三棟全潰ス

井水ノ變化　手掘井ハ深サ二・五米内外ニシテ水質ハ透明ナレトモ鹽分ヲ含有シ地震ノ結果約〇・三米增水ス、掘拔井ハ深サ二百五十米ニシテ水ハ褐色ヲ呈ス、地震ノ結果增水セシモノヽ如シ

塔石　寺院ノ墓石ハ大部分轉倒セシモ復舊シ現ニ轉倒セルモノハ東方五、西方一ナリ、清瀧神社石燈籠ハ二基アリテ共ニ南二十度西ニ倒ル、學校前ノ二階家ハ南方ニ傾斜ス

地質ト被害　地質ハ冲積層ナリ、地表ニハ砂アリテ地下二・五米ニハ粘土層アリテ貝殼ヲ含有シ堅ク膠結ス、其下部ノ地質明カナラス、猫實及堀江ハ略東西ニ流ルヽ三條ノ河流間ニ建設セラレ低地ヲ埋立テヽ家屋ヲ建造セシトコロ多キカ如シ、此故ヲ以テ殊ニ河岸ニ於テ被害甚タシカリシモノナルヘシ、猫實附近ニ於テハ土地低下シタル爲メ滿潮時ニハ浸水家屋アリテ其低下ハ約一尺内外ナリ、海岸ニ於テモ海底約一尺低下シタリト云ヒ海底ノ砂ハ堅ク引締マリシ爲メ海苔粗朶ヲ樹立スルニ困難トナレリト云フ、想フニ陸地ノ低下ハ冲積層地ニ限ラレタル現象ナルヘク弛緩セル地層ノ固定セシニ外ナラサルヘシ

(三)　千葉郡

幕張町

死傷竝家屋被害　人口六六九〇、傷者一、後死亡、戸數九三五、住家全潰ナシ、半潰十戸、非住家全潰四棟、半潰八棟

住家ノ半潰ト稱スルハ大破セシモノニアラス家屋ノ傾斜セシモノ或ハ家根瓦ノ墜落セシ程度ノモノナリ、右被害ハ武石、向原、長作附近ニ多シ、非住家ノ被害ハ主ニ土藏ナリ

井水ノ變化　掘拔井ハ深サ百五十米乃至二百四十米ニシテ當時白濁シ四井故障アリシモ漸次復舊ス、手掘井ハ深サ六米乃至七米ニシテ變化ナシ

裂罅　ナシ

海水　ハ少シク增加ノ傾向アリ、是レ濱砂カ地震ニ際シ震盪セラレテ固定セシ爲メ多少沈降セシニ基クモノナルヘシ

鳴動　南六十度西

蘇我町

死傷竝家屋被害　人口四五九五、死傷者ナシ、戸數七一四

住家倒潰ナク非住家全潰二、半潰十一アリ

井水ハ增加セシモノ及斷水セシモノアリ

裂罅　ナシ

鳴動　南四十度西ノ方向ニ聞ユ

生實濱野村

死傷竝家屋被害　人口四一八七、傷者三、戸數七一五、住家全潰五戸、半潰八戸、非住家全潰一棟、半潰五棟

住家ノ全半潰ハ悉ク濱野ニシテ濱野ノ戸數二百十戸ニ對シ倒潰百分中六ナリ

井水ノ變化　深サ百米内外ニシテ井水ハ增水セシモノ少ナク多クハ斷水ス

鳴動　南七十度西

(四) 市原郡

八幡町

死傷竝家屋被害　人口三九九六、死傷者ナシ、戸數八四〇、住家全潰一戸、半潰ナク、非住家全潰ナク半潰一棟

本町ノ被害甚タ僅少ニシテ倒潰家屋數戸ニ過キス

井水ノ變化　井水ノ深サ百二十米、二百米、二百四十米、三百二十米ニシテ百二十米ノモノハ井戸口ヨリ土砂ヲ排出シ概シテ增水シ海岸附近ノ二百米以上ノモノハ多ク減水ス

鳴動　南四十度西

五井町

死傷竝家屋被害　人口八〇〇〇、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
五井町	一二九二	二四	四六	一・八	三・六

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
出津	一二一	一	七		五・七

岩崎	一〇二	一二	一七	一〇・七	一六・六	村上	一〇五	一	六	〇・九	五・七
玉前	九二	一二	一五	一一・九	一六・三	五井	五二四				

被害區域ハ養老川ニ沿ヘル岩崎、玉前附近ニシテ倒潰家屋ハ多ク藁家ナリ

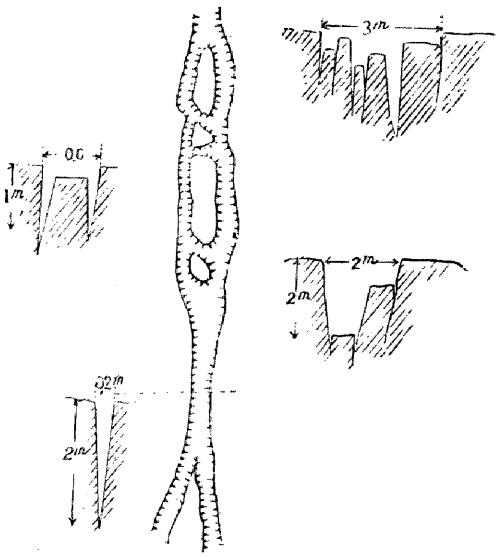
井水ノ變化　井戸ノ深サハ六十米乃至二百米ニシテ岩崎、玉前ニ於テハ四、五十井斷水シ、概シテ地震當時增水セシモ漸次復舊ス、岩崎ノ一井ハ地表ヨリ六米下ニテ閉塞シ、又十米ノ木樋カ六米突出セシモノアリ

裂罅　千種村松ケ島ヨリ養老橋ニ至ル縣道約千米ニ亙リ堤防道路ニ平行シテ裂罅斷續シ幅二米、深サ二米以上ニ及ヒ中央部階段狀ニ陷沒スルモノアリ(第十圖)

岩崎、玉前ニ於テハ宅地、道路ニ裂罅縱横ニ生シ砂及水ヲ噴出シタリ、該處ノ溝渠ハ約〇・五米隆マリ道路面ト等高トナリタル爲メ之ヲ浚渫セサルヘカラサルニ至レリ

養老川村上新田附近ノ河底ニ於テハ地震ノ際動搖シ多數ノ亞炭塊ヲ拋出セリ、該亞炭塊ハ大サ一米以内ニシテ圓シ、蓋シ地下深カラサル處ニ沈澱セル冲積層中ニ礫トシテ存在セシモノカ水ト共ニ裂罅ヲ通シ地表ニ拋出セラレシモノナルヘシ

第十圖



鳴動　北六十度西

千種村

死傷竝家屋被害　人口四三六〇、死者三、傷者二

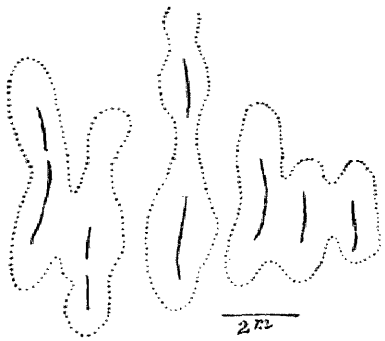
	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
千種村	五九〇	三二	九五	五・四	一六・一
青柳	一〇〇	一三	三〇	一三・〇	三〇・〇
白塚	五〇	六	一〇	一二・〇	二〇・〇
柏原	三〇	一		三・三	

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
松ケ島	六〇	四	二〇	六・六	三三・三
今津	二〇〇	五	二〇	二・五	一〇・〇
北青柳	一二〇	二	一〇	一・六	八・三
西青柳	三〇	一	五	三・三	一六・六

被害區域ハ縣道以西ノ平地ニシテ松ケ島、白塚、青柳附近稍著シク家屋ハ南若シクハ北ニ倒潰ス

井水ノ變化　深サ六十米乃至百米ノ井水ハ概シテ增水シ、二百米内外ノモノハ斷水シ、二百米以上ノモノハ變化ナシ

第十一圖



裂罅　白塚、松ケ島、今津ニ於テハ宅地内ニ裂罅縱横ニ生シ裂罅ヨリハ水ト共ニ砂ヲ噴出セリ

今津延命寺庭前ニ於ケル噴砂ノ狀況ヲ見ルニ裂罅ハ南北ニ走リ一米乃至二米ヲ隔テヽ六アリ長サ三米乃至六米ナリ(第十一圖)噴出セル砂ハ大サ半粍内外、淡綠色ヲ呈シ小礫ヲ交フ、砂ハ裂罅ニ沿ヒ堆積シ高サ十五糎内外ノ低キ圓錐丘ヲ成シ直徑一米半ナレトモ裂罅ニ沿ヒ各丘連續スルヲ以テ瓢狀ヲ成ス、噴出孔ハ時日經過ノ爲メ認メ難シ

鳴動　南二十度西

地質　本村ハ冲積層ヨリ成リ、松ケ島ノ一掘抜井ニ就テ其地質ヲ檢スルニ地表ヨリ十六米ノ間ハ砂、其下二十米六ノ礫層アリ、其下ハ砂層ニシテ地表ヨリ四十二米、八十米、百二十米ニ夫々粘土層挾在シ其上ハ帶水層ナリ

東海村

死傷竝家屋被害　人口三一二〇、死者六、傷者一

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
東海村	四六九	一二〇	九九	二五・六	二一・一
海保	一五〇	七	一八	四・七	一二・〇
町田	三九	三四	五	八七・一	一三・〇
二十五里	九〇	四二	一八	四六・六	二〇・〇

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
島野	一二一	二五	三六	二〇・六	三〇・〇
飯沼	四六	四	八	八・八	一七・二
野毛	二三	八	一四	三四・八	六〇・八

非住家全潰一〇三棟、半潰七九棟

被害區域ハ養老川ニ沿フ一粁以内ノ平地ニシテ海保ノ如キ丘陵地ニ近キ部落ハ被害少ナシ、町田、野毛ノ如キハ倒潰家屋甚タ多シ、村役場、小學校全潰ス

水井ノ變化　深サ百米乃至百五十米ニシテ村内百二、三十井中三十五井斷水シ四十井減水シ他ハ變化ナク增水セルモノナシ

裂罅　養老川沿岸二十五里地先ノ高サ三米ノ護岸堤防上五箇處ニ於テ北西、南東ノ方向ニ五十米乃至百米ノ間二米乃至三米沈下セリ、沈下箇處ハ先年ノ洪水ニテ決潰修理セシトコロナリ、二

十五里、野毛ノ境界ニ於テ里道陷沒スルコト〇・七米ニシテ浸水シ水深〇・四五米ナリ、町田ハ宅地ニ裂罅多ク家屋殆ント全部倒潰シ町田ニ通スル三方ノ里道ハ陷沒シテ浸水シ交通不能トナレリ、金川原鴉田邸内ニハ東西及南北ノ裂罅多ク、裂罅ヨリハ水ト共ニ砂ヲ噴出セリ、砂ハ白色或ハ淡綠色ヲ呈シ裂罅ニ沿ヒ堆積シ高サ十五糎、直徑二米内外、噴出孔ハ圓形或ハ楕圓形ヲ呈シ長徑九糎乃至三十糎ナリ邸宅ハ悉ク倒潰セリ

塔石　永津ノ墓石ハ北方ヘ、中谷ノ墓石ハ北方ヘ、法泉寺ノ石塔亦北方ヘ轉倒ス

海上村

死傷並家屋被害　人口三九〇〇、死者一、傷者三

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
海上村	四五六	三六	四五	七・八	九・八	小折	一二				
分日	三〇	一	三	三・三	一〇・〇	西野	二八				
神代	一六		二		一二・五	權現堂	二八		四		
引田	二九	四	二	一三・八	七・〇	糸久	二二	二	一	九・〇	四・五
今富	九〇	一三	一三	一四・四	一四・四	新生	三〇	二	六	六・六	二〇・〇
宮原	四三	七	五	一六・二	一一・六	淺井	三二	一		三・一	
十五澤	一六		三		一八・七	安須	四〇	三	二	七・五	五・〇
柳原	一四	三	二	二一・四	一四・二	高坂	二六				

非住家全潰二九棟、半潰六二棟

被害區域ハ丘陵ニ近キ今富、宮原、分日、引田附近ノ平地ニシテ養老川ノ沿岸柳原、十五澤、權現堂附

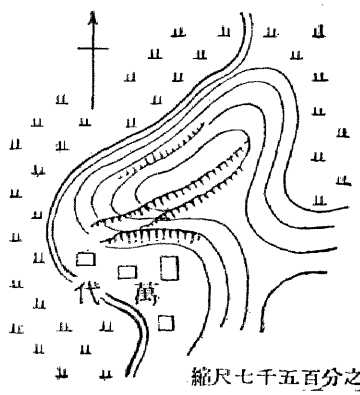
近ハ前者ニ比シ被害輕微ナリ、倒潰家屋ハ藁家多シ

井水ノ變化　深サ百米ノ井戸ハ一時增水セシモ漸次復舊シタリ、二百米內外ノ井戸ハ斷水セルモノ多シ

裂罅　養老川安須地先ノ護岸堤防ハ約千米ノ間北東、南西ニ龜裂陷沒シ土砂ハ川ニ押出シテ川幅ヲ狹メ幅三十米ノモノハ約十米ト成リタリ、柳原附近ノ養老川沿岸田地ニ東西ニ幅〇・一五米內外、長サ十米內外ノ裂罅多數生シ、水及砂ヲ噴出セリ、引田、布ケ谷ノ山麓道路ニハ平行シテ略南北ニ裂罅生シ該處附近ニアル家屋ノ損害ヲ被レルモノ少ナカラス

崩壞　引田萬代ノ北西ニ突出セル丘陵ノ尖端ハ東北東ニ長ク其北及南ノ傾斜面ニ北六十度東ノ方向ニ裂罅生シ長サ二百米、幅一米、深サ一米、落差〇・三米乃至一米ニシテ緣端ニ於テハ山麓ニ墜落セリ（第十二圖）

第十二圖



縮尺七千五百分之一

塔石　前原ノ墓地ノ墓石ハ半數以上轉倒シ其方向南方ノモノ多ク、一墓石ハ右ニ二十五度、一墓石ハ左ニ四十五度廻轉セリ

地質　第三紀層、洪積層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵地ヲ構成シ粗鬆ナル砂岩ヨリ成リ二枚介化石ヲ埋藏シ殆ント水平ニ成層ス、洪積層ハ第三紀層ヲ被覆シ丘陵地ノ表面ヲ構成シ塵埃及砂ヨリ成ル、沖積層ハ平地ヲ構成シ砂及粘土ヨリ成ル

市西村

死傷並家屋被害　人口二四七〇、死傷者ナシ、戸數四二六、住家全潰一戸、半潰一四戸、非住家全潰二

棟、半潰七棟

被害ハ中谷原附近及大坪ニアレトモ僅少ナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ百米内外ニシテ田地ノ灌漑用井水ハ斷水シ、宅地ノモノハ一般ニ増水セル傾向アリ、大坪ニテハ百井中四、五井變化ナキノミニシテ他ハ斷水ス

裂罅　中谷原縣道二箇處ニ南北ノ方向ニ二十米ニ亘リ幅〇・一五米内外ノ裂罅アリ、大坪ノ養老川對岸河原ニ於テ川ニ平行シテ北西、南東ニ幅〇・一五米内外ノ裂罅アリ、陷沒セシモノハ落差〇・一五米内外ナリ、裂罅ヨリハ水及砂ヲ噴出ス、該處ハ七八年前ハ畑地ナリシモ鑿井ニヨリ水ヲ得之ヲ田地トナシタルナリ

塔石　海士有木泰安寺門前ノ石塔ハ南ニ、境内ノ墓石ハ南ニ轉倒シ、八墓石ハ右二十度内外ニ廻轉セリ

鳴動　北六十度西

戸田村

死傷並家屋被害　人口三四四八、死者一〇、負傷者三〇

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
戸田村	六一一	二〇五	二〇八	三四・〇	三四・一	風戸	一七	一	三	五・八	一七・七
寺谷	三九	四	五	一〇・二	一二・八	上原	二五	一〇	八	四〇・〇	三二・〇
岩崎	四七	二	二八	四・二	六〇・〇	馬立	二一〇	一五五	五三	七三・八	二五・二
上高根	一二六	一九	七七	一五・〇	六一・二	柏橋	六六	—	—	—	—

中高根	八一	一四	三四	一七・二	四二・〇

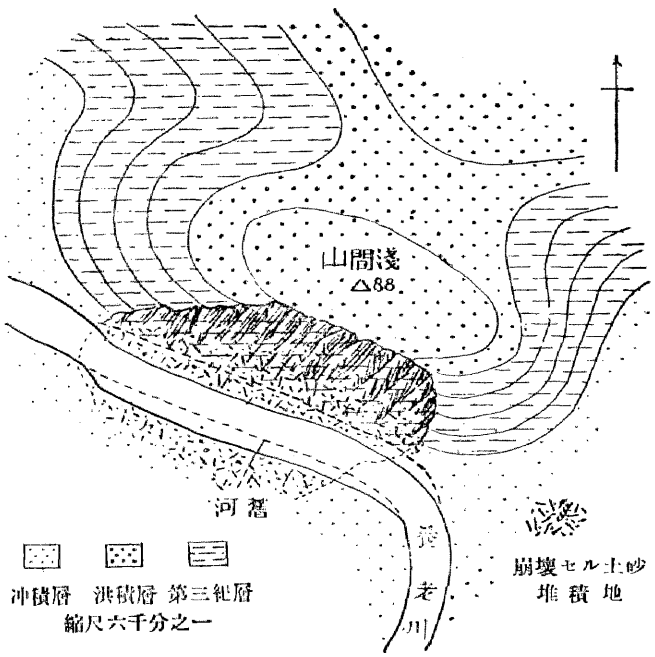
非住家全潰二〇六棟、半潰二〇六棟

被害區域ハ養老川流域平地ニシテ高根ヨリ馬立ヲ經テ上原ニ被害多ク馬立最モ大ナリ、家屋ハ藁家ノミニシテ瓦家ナシ、馬立ナル村役場、小學校全潰ス、家屋ハ多ク南ヘ倒潰ス

井水ノ變化　井水ハ當時白濁シ增減アリ概シテ川岸ノモノ增水ノ傾向アリ

裂罅　上原澤邊ニ於テ裂罅生シ縣道ニ沿ヒ北々西ニ延ヒ幅〇・二米內外、長サ十米內外ノモノ多シ、其他宅地ニ於テ裂罅生ス、土宇橋ノ右岸ニハ裂罅アリテ二米落下シ養老川ニ向テ押出セリ

第十三圖



山崩レ　上原ナル淺間山(センゲンヤマ)(海拔八十八米)ノ養老川ニ面セル南斷崖ハ地震ニ際シ崩壞シタリ(第十三圖)淺間山ハ上部壚坍、下部ハ第三紀ノ灰色ノ頁岩及砂岩ヨリ成リ北方ニ緩斜シ該層ハ南ノ斷崖ニ露出シ厚サ六十米內外ナリ、崩壞ハ壚坍ノミナラス下部ノ第三紀層ニ及ヒ山麓ノ養老川ヲ埋沒スルコト東西(長サ)二百米、南北(幅)四十米ニシテ山麓ニ於ケル崩壞土砂ノ高サ三十米ナリ、土砂ハ養老川ヲ埋

沒シタルノミナラス對岸ノ耕地ヲモ埋沒スルコト二千四、五百平方米ニ及ヒタリ、土砂崩壞ニヨリ埋沒シタル養老川ハ河水堰塞セラレタリシモ直チニ人工ニヨリテ舊河道ノ南二十米ニ疏水セラレタリシヲ以テ洪水ノ厄ヲ免レタリ

鳴動　南八十度西

養老村

死傷竝家屋被害　死者ナシ、傷者四、戸數五九一、住家全潰五十戸(百分率八・五)半潰五十三戸(百分率八・九)非住家全潰五二棟、半潰五三棟

被害區域ハ山田、二日市場ノ縣道筋土宇ニシテ山田、二日市場ニ於テハ瓦家、藁家相半シ殆ント悉ク倒潰シ、土宇ニ於テハ藁家ニシテ倒潰家屋點在ス、縣道筋ハ元田地或ハ畑地ヲ埋立テタルモノニシテ田面ヨリ一、二尺高シ

明治村

死傷竝家屋被害　人口四五〇〇、死者二、傷者ナシ、戸數七六八、住家全潰百六十五戸(百分率二一・五)半潰三十九戸(百分率五・〇)非住家全潰一九九棟、半潰五九棟

被害區域ハ養老川流域ノ平地ニシテ佐是ハ百戸中五十戸倒潰シ、牛久ハ百八十戸中四十五、六戸倒潰シ、妙香ハ五十戸中十二戸倒潰シタリ、被害ハ概シテ縣道筋ニ多シ是レ該處ハ田畑地ヲ埋立テ家屋ヲ建造セシニ由ルモノナリ、家屋ハ多ク南ヘ倒潰ス

井水ノ變化　牛久、佐是ノ掘拔井ハ當時井水白濁シ砂ヲ噴出シ一時斷水セシモ漸次復舊ス

裂罅　牛久北西ノ養老川沿岸ニ裂罅生シタリ

鶴舞町

鶴舞町ニ於テハ鶴舞ニ於テ全潰家屋二アリタレトモ共ニ古キ藁家ナリ、其他被害ハ僅少ニシテ家根瓦ノ落下セシモノ少ナク又壁ノ振落セラレタル程度ノモノ極メテ少ナシ

井戸ハ手掘井ニシテ井水ニ變化ナシ

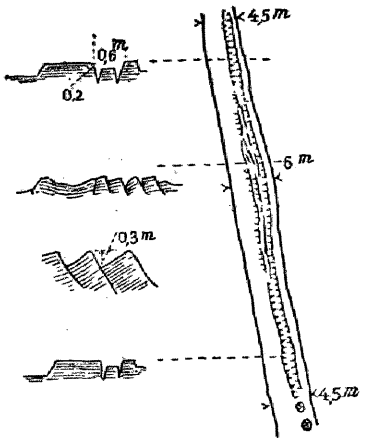
姉崎町

死傷並家屋被害　人口五二八五、死傷者ナシ、戸數九六〇、住家全潰三戸、半潰三十戸

被害ハ姉崎ニ於テ全潰三戸、半潰二十六戸アリタリ、被害ノ程度輕微ナリ、是レ姉崎町ニハ平地面積少ナカリシニ由ルモノナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ百六十米乃至三百米ニシテ當時水量ニ增減アリシモ漸次復舊シ數井ハ斷水ス

第十四圖



裂罅　姉崎町養老町ノ東端縣道約百米ニ亙リ長サ十五米內外ノ三條乃至五條ノ裂罅生シ東方ニ落下シ階段狀ヲナス其幅〇・六米、深サ一米以上、落差〇・三米、方向北々西ナリ（第十四圖）

塔石　椎津寺院ノ墓石ハ約三分ノ一轉倒シ其方向北東ノモノ多ク、長遠寺ノ門前ノ石塔ハ北西ニ、永津ノ寺院ノ墓石ハ北方ニ轉倒ス

(五) 君津郡

長浦村

死傷竝家屋被害　人口二七三六、死者二

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
長浦村	四七四	四	二八	〇・九	五・八	久保田	一四七	二	一七	一・四	一一・五
代宿	六四	一	五	一・五	七・八	藏波	二六三	一	六	〇・四	二三・〇

非住家全潰三棟、半潰一九棟

被害區域ハ海岸ノ部落ニアリテ小溪ノ沿岸ニ位シ倒潰家屋ハ瓦家、藁家相半ス

井水ノ變化　井戸ノ深サ六十米乃至百五十米ニシテ地震當時白濁シ水量ニハ增減アリ

裂罅　海岸縣道久保田、笠上間ニ三箇處ニ北東、南西ニ夫々長サ三十米、七十米、五十米ノ裂罅アリテ路ノ過半ニ亙リテ其北西部陷沒シ落差〇・三米、深サ一米ナリ

海水ノ變化　地震當時沖合約六十米ニ海岸ニ平行シテ高サ〇・五米内外ノ砂丘生シ頂上ハ波狀ヲ呈シ數日ニシテ消失セリト云フ

地質　地質ハ第三紀層及沖積層ナリ、第三紀層ハ灰白色頁岩ヨリ成リ殆ント水平ニ成層シ之ヲ被覆シテ粗鬆ナル砂層アリ、兩者ハ丘陵地ヲ構成シ海岸ニ高サ二十米内外ノ懸崖ヲナス、沖積層ハ砂ヨリ成リ海岸及小溪ノ平地ヲ構成ス、代宿、久保田、藏波等ノ被害ノ多カリシハ該平地ノ地層

柔軟ナリシニ由ルモノナルヘシ

震動　方向ハ南西ナリ、鳴動ハ西方ニ響キ恰モ飛行機ノ爆音ノ如シト

根形村

死傷竝家屋被害　人口三三九七、死者ナシ、傷者一

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
根形村	五二四	二九	四五	五・三	九・〇	谷中	三〇	九	一一	三〇・〇	三六・六
飯富	一六九	一三	一三	七・七	七・七	三黒	二三	四	一九	一六・六	八二・六
勝	二三	一	二	四・三	八・六	下新田	四八		一		二・〇
大曾根	八〇	一		一・二		三作	六一				
岩井	六五	一		一・五		野田	二五				

非住家全潰五〇棟、半潰七七棟

以上ノ被害地域ハ小櫃川ト其北方丘陵地トノ中間ニ位スル沖積平地ニシテ谷中、三黒ノ如キハ平地ノ中央ニ位ス

井水ノ變化　ハ多少アリテ概シテ丘陵地ニ於ケルモノハ減水シ平地ノモノハ増水ス

鳴動ノ方向　ハ或ハ北五十度西ト云ヒ或ハ南四十度西ト云フ

中郷村

死傷竝家屋被害　人口三八五五、死者一、傷者三

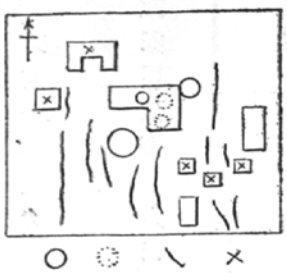
	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
中郷村	五三七	九五	一四八	一七・〇	二七・五	十日市場	五三	六	五	一一・三	九・四
上望陀	三七	五	二〇	一三・三	五四・〇	井尻	六六	一二	三七	一八・一	五六・〇
下望陀	五二	一一	九	二一・一	一七・三	曾根	四三	七	九	一六・二	二〇・九
有吉	七一	二四	二〇	三三・七	二八・一	牛袋野	二六	三	八	一一・五	三〇・八
大寺	六二	一六	一九	二五・八	三〇・六	牛袋	一二七	一一	二一	九・〇	一六・五

非住家全潰一一七棟、半潰九九棟

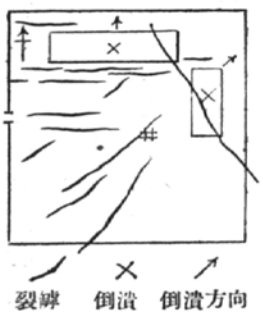
被害地域ハ小櫃川ノ北方平地ニシテ被害甚タシキハ望陀、有吉、大寺、井尻等ナリ、有吉ノ農學校、井尻ノ富士見小學校、市原邸ハ全潰ス

井水ノ變化　ハ多シ、井戸ハ深サ八十米乃至三百米ノ掘拔井ニシテ概シテ淺キモノハ增水シ、深キモノハ斷水ス、井尻金藏寺ノ井戸ハ深サ百米アリ、地震中增水スルコト〇・六米ニシテ井戸側外ニ溢水セシモ二日其現象停止シ漸次復舊ス、富士見小學校ノ井戸ハ深サ百六十米ニシテ地震ニヨリテ斷水セリ、檢査ノ結果地表ヨリ約四十米下ニ於テ竹管ノ破壞セルヲ知レリ

第十五圖
市原邸



第十六圖
富士見小學校



地震　ハ上下動ヲ感シ二日正午頃ノモノモ强震ニシテ之ニヨリテ倒潰セシ家屋二三アリ

裂罅　小櫃川ノ沿岸ニ於テ下望陀ヨリ十日市場ヲ經テ萬年橋ニ至ル間ハ川ニ平行シテ、裂罅生シ、小櫃川ノ河身

ニ向ケ押出シ河流ヲ閉塞セシトコロアリ、其狀態中川村ニ於ケルト同樣ナリ

井尻市原邸内ニ於テハ(第十五圖)主トシテ南北ノ裂罅生シ其幅〇・一五米乃至〇・三米、深サ一米内外、長サ五十米以上ニ及ヒ裂罅ヨリハ水及砂ヲ噴出シ砂ハ裂罅ニ沿ヒテ堆積シ高サ〇・一米内外ノ低丘ヲ形成ス、其他邸内ニ深サ〇・三米ノ陷沒或ハ隆起ノ箇處アリテ爲メニ二階家屋一棟、土藏三棟、物置六棟全潰シ主家ハ大破セリ、富士見小學校ハ(第十六圖)二棟全潰シ、裂罅ハ校庭ニ最モ著シク東西ニ走ルモノ最モ多ク北東、南西及北西、南東ノモノ之ニ次ク、裂罅ノ大ナルモノハ幅及深サ〇・三米内外ニシテ校庭ノ北東部ニ於ケル北西、南東ニ走ル裂罅ノ北東方ハ約一米落下セリ、校庭ヲ圍ル小溝ハ約一米隆起シテ殆ント校庭面ト一致スルニ至レリ、牛袋高橋東岸ニハ小櫃川ニ平行シテ南北ニ裂罅生シ西方ニ落下シ裂罅ノ幅二米、深サ一米ナリ

鳴動　ハ地下直下ニアリト云ヒ又南四十度西ニアリタリト云ヒ恰モ風ノ襲來セシカ如キ音響ナリ

地質　本村ハ全部冲積平地ヲ占ム

中川村

死傷竝家屋被害　人口二二七五、死者一二、傷者七

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
中川村	四〇四	一〇五	一六一	二六・〇	三九・八	横田	二六九	八一	九六	三〇・一	三五・六
百目木	八七	二〇	五五	二三・〇	六三・二	大鳥居	四八	四	一〇	八・三	二〇・七

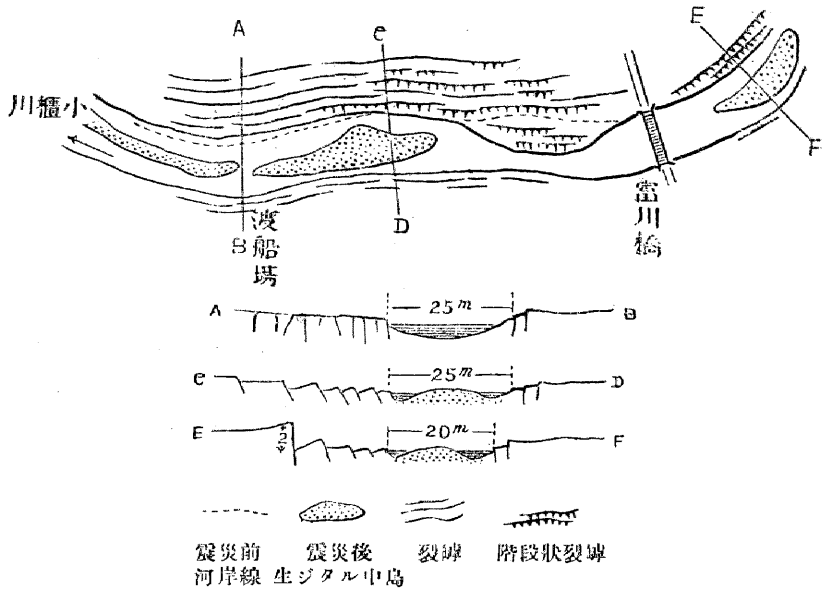
非住家全潰一三八棟、半潰一三三棟

被害區域ハ小櫃川ノ沿岸平地ニシテ横田、藏澤、百目木ハ被害甚タシク倒潰家屋ハ瓦家、藁家相半シ倒潰セシ方向ハ北東多シ、土藏ハ殆ント悉ク全潰ス

井水ノ變化　村内ノ井戸ハ深サ二百米内外ニシテ震災ノ甚タシキ横田附近ニ於テハ井水ノ斷水セシモノ二三アレトモ概シテ增水シ、被害少ナキ大鳥居附近ニ於テハ概シテ井水減水ス

地滑リ　小櫃川ノ北岸百目木ヨリ横田、山中ニ至ル約三千米ノ間、川ニ平行シテ略東西ニ大小ノ裂罅生シ階段狀ヲ形成シ河身ニ押出シ甚タシク河川及平地ノ變化ヲ生シタリ、裂罅ハ河岸ヲ距ル約六十米ノ間ニアリテ五、六米ヲ隔テ、十數條ヲ算シ幅概ネ〇・三米、深サ二米内外ニシテ、地震當時ハ裂罅中ヨリ噴水セリ、小坪渡船場附近ニ於テハ(第十七圖)小櫃川ハ幅二十米乃至二十五米ニシテ西流シ、北岸ニアリシ竹藪ハ南方ニ移動シテ河流ハ二分セラレテ西シ竹藪ハ恰モ中洲ノ如キ觀ヲ呈スルニ至レリ、北岸ニアリシ水車ハ南方ニ約二十米押出サレテ殆ント南岸ニ達セントシ、渡船小屋ハ二十米押出サレテ中洲ノ中ニ倒レ、一ノ榎ハ約

第十七圖



十二米南方ニ押出サレテ現時ハ北岸ニ臨メリ、其東方富川橋ニ至ル間ハ田地ニ數段ノ階段狀ノ裂罅ヲ作リテ南方ニ移動シ小櫃川ヲ閉塞セリ、富川橋東ノ北岸ニ於テハ階段狀裂罅ノ落差ハ二米ニ及ヘリ

地滑リノ結果ハ田地ヲ荒廢セシメタルノミナラス小路及川ニ近キ宅地ニ裂罅生シ或ハ裂罅ヨリ噴水シ或ハ家屋ヲ倒潰傾斜セシメタリ、又山中ノ縣道中川橋橋臺東西共ニ約〇・五米低下セシ爲メ渡橋危險トナレリ

地質　本村ハ全部冲積層ヨリ成ル、鑿井ノ記錄ニヨレハ地表ヨリ一米粘土、五米赤土、其下ハ砂ニシテ二百米内外ニ良水アリト云フ横田附近ハ元畑地ナリシヲ田地ニ開墾シタルトコロニシテ、小櫃川ノ北岸約二百米ヲ隔ツルトコロニ線狀ニ寺院、神社アリ、是レ元ノ川岸ニ臨ミシ處ニアリシモノニシテ川ハ爾後南方ニ移動シ其河床ハ現時田地トシテ耕作セラル

地震　ハ一日正午及三日夕刻ノモノ強シ

鳴動　ハ一日ハ北八十度西ノ方向ニ聞エシモ二日以後ハ北々西ト成レリト云フ

富岡村

家屋被害

	戸數	全潰	半潰	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰	半潰	全潰百分率	半潰百分率
富岡村	五五八	四八	一一二	八・六	二〇・〇	下根岸	三六	二	五	五・五	一三・九
田川	三九	三	二	七・七	五・一	阿部	二四	七	一	二九・一	四・一
佐野	二三	三	六	一・三	二六・〇	堂谷	一二	一	三	八・三	二五・〇

非住家全潰七六棟、半潰一四九棟

下郡	一七五	一九	三六	一〇・八	二〇・六	打越	一三	一	一	一
根岸	三一	三	一	九・七	三・二	大竹	二八	一	一	一六・二
上根岸	三五	二	一七	五・七	四八・五	吉野田	三七	六		

被害區域ハ小櫃川ノ沿岸ニ沿ヒ隣村中川村ニ連續シ阿部、下根岸、上根岸、佐野、下郡等ニシテ殊ニ阿部戸國飛地ハ被害甚タシク地面ニ裂罅生シ砂及水ヲ噴出セリ、根岸ナル村役場、吉野田小學校全潰ス、全潰家屋ハ役場及學校ヲ除キ他ハ藁家ナリ

井水ノ變化　堂谷ニ於テハ井戸ノ深サ二百米以上ニシテ大部分渇水ス、下郡ニ於テハ深サ二百米乃至四百米ニシテ多クハ渇水シ今間ニテハ五十井中出水スルハ僅ニ二三井ナリ、大鐘ニ於テハ井戸ノ深サ二百米乃至四百米ニシテ井水ノ變化比較的少ナシ

裂罅　小櫃川沿岸ハ今間下流ニ於テ中川村ニ至ルマテ裂罅生シ兩岸或ハ左岸ニ於テ地辷リ生シ土砂ヲ河中ニ押出スコト中川村ニ於ケルカ如シ、裂罅ハ川岸ヨリ約百米ノ距離ニ及フ、小櫃川カ戸國飛地ノ北ニ於テ蛇行スル附近堂谷ニ於テハ裂罅中ヨリ砂及水噴出シ且一帶ニ〇・五米内外低下シタルモノヽ如シト云フ

塔石　寺院ノ墓石ハ悉ク轉倒セリ、村役場ノ石門柱ハ南西ニ轉倒ス

地質ト被害　丘陵地ヲ構成スル第三紀層ハ灰白色ノ頁岩ニシテ北方四、五度ニ傾斜ス、第三紀層ノ上ニハ粗鬆ナル砂アリ、平地ヲ構成スル冲積層ノ層序ハ明カナラス、地表ニハ多ク粘土發達シ、下郡、大鐘ニハ地表ニ粗鬆ナル砂アリ、被害地ハ小櫃川ノ沿岸ニシテ近ク河床タリシトコロナル

カ如ク佐野ハ舊河床ナリト云ヒ下根岸ニハ古河ト稱シ地形上其痕跡顯著ナルモノアリ、湯名ヲ通スル縣道ト小櫃川トノ間ニハ一段ノ堦段アリテ被害多ク、大鐘ハ下ノ堦段上ニアリテ小櫃川ニ接ス、戸國飛地及堂谷附近ハ最近ノ河成堆積地ニシテ飛地ハ恰モ舊河床上ニ位ス、丘陵地ニ於テハ倒潰家屋ナク被害僅少ナリ

鳴動　地震ニ伴フ鳴動ハ西南西ナリ

小櫃村

死傷竝家屋被害　人口六二四八、死者一

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
小櫃村	一〇四六	五三	八〇	五・〇	七・六	上新田	三二	二		六・六	
山本	一〇六	四	一九	三・八	一八・〇	俵田	九三	四	六	四・二	六・四
西原	九四	二〇	二三	二一・二	二四・四	三田	五三	四	六	七・五	一一・三
賀惠淵	六〇	一〇	七	一六・六	一一・六	長谷川	九八		五		
箕輪	八〇	八	九	一〇・〇	一一・二	末吉	八五	一	一		

非住家全潰四一棟、半潰三五棟

被害區域ハ小櫃川ニ沿ヒ其東岸ニ位シ下西原、賀惠淵、俵田等被害著シク箕輪ノ倒潰家屋十七戸ハ羽田ニシテ該處ハ田深キ處ナリト云フ、御腹川沿岸長谷川ニハ半潰家屋數戸アリシノミナリ、家屋ノ全潰セルモノハ藁家ノミナリ、元來瓦家ハ甚タ少ナシ

井水ノ變化　井水ハ多ク減水シ或ハ涸渇ス、西原、賀惠淵ノ平地ノ井戸ノ深サハ二百米乃至二百

四十米、末吉ニ於テハ二百米、俵田、青柳ニ於テハ三百米ナリ

裂罅　小櫃川ハ西原及賀惠淵地先ニ於テ沿岸約二十米ノ間ニ川ニ平行ニ階段狀裂罅生シ長サ二十米内外ニシテ斷續シ深サ一米、落差〇・三米乃至一米ナリ、河岸ニ於テハ階段狀裂罅生シタル爲メニ土塊ハ河中ニ約五米辷出セリ、山本、平澤間二箇處ニ裂罅アリ、北ナルハ縣道上ニアリテ之ニ平行シ南北ニ長サ四十米、幅及深サ〇・六米ナリ、南ナルハ縣道ノ兩側ニ各一條アリテ北西ニ走リ西側ナルハ長サ二百米ノ間斷續シ幅〇・六米乃至一・三米、深サ〇・六米、東側ナルハ長サ百五十米、幅〇・三米、深サ〇・六米ナリ、山木ノ小學校敷地ノ丘陵ニ略南北ニ走ル長サ二十米内外ノ二條ノ裂罅アリ、西ナルハ二米、東ナルハ約四米西方ニ落下ス、該丘陵ハ粗鬆ナル砂層ヨリ成リ裂罅ノ生シタルハ平地ニ面セル丘陵ノ斜面ナリ

地質ト被害　地質ハ富岡村ニ於ケルカ如ク丘陵地ハ第三紀層及洪積層、平地ハ冲積層ヨリ成ル、被害地ハ冲積平地ニシテ殊ニ甚タシキハ小櫃川ノ沿岸ナリトス

鳴動　南七十度西

久留里町

死傷並家屋被害　人口三五〇〇、死傷ナシ、戸數八二六、住家全潰九戸(百分率一)半潰二五戸(百分率三)非住家全潰五棟、半潰三棟

被害區域ハ市場北部ノミニシテ他ノ箇處ニハナク小櫃川ノ上流ニ於テモ此處ヲ限度トシ以南ニ家屋ノ倒潰セルモノナシ

井水ノ變化　ナシ、市場ニ於ケル井戸ノ深サハ三百六十米、久留里二百米内外、市場中河原二百米

ナリ

裂罅　小櫃川沿岸浦田ニ於テ三箇處ニ裂罅生シ土塊ノ河中ニ辷落セルモノアリ、大谷及怒田ニ於テハ里道ノ切割ノ上部ノ砂崩壊墜落ス

地質ト被害　丘陵地ヲ構成スルハ第三紀層及洪積層ニシテ第三紀層ハ粗鬆ナル砂岩ヨリ成リ北方十度ニ傾斜ス、洪積層ハ礫層及塵埃ヨリ成リ礫層ハ第三紀灰白色頁岩及角岩、粘板岩、砂岩等ノ圓礫ヨリ成リ弛ク二米乃至三米ノ厚サヲ有シ第三紀砂岩ノ浸蝕面上ニ不整合ニ成層シ塵埃ハ其上ニアリテ厚サ五米以上ナリ、市場ノ西、小櫃川ノ河底ニハ第三紀砂岩露出シ市場ノ地下ニハ淺キ處ニ砂岩伏在シ居ルモノヽ如シ、市場ノ北部ト小櫃川トノ中間ノ田地ハ深田ナリト云フヲ以テセハ其連續ハ市場北部ニ及フモノヽ如ク市場北部ノ全潰家屋ノアリシ處ハ其深田ヲ構成スル冲積粘土ヨリ成ルニアラサルヤ、平地ヲ構成スル冲積層ノ地質ニ就キテハ明カナラス、小櫃川市場上流ニ於テハ冲積層ノ分布狹少ニシテ震災被害ノ僅少ナリシハ蓋シ冲積層ノ分布狹少ナリシニ因ルナリ

鳴動　西南西

清川村

死傷及家屋被害　人口三八四〇、死傷ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
清川村	六八六	四	四六	〇・六	七・四	中尾	六三	—	四	—	六・三

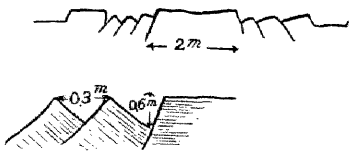
菅生	七一		二			伊豆島	七三		二
椿	三七	三	一一	八・〇	三〇・〇	長須賀	二〇三	一	二五
犬成	五四	一	二	一					一二・三

非住家全潰二〇棟、半潰七〇棟

井水ノ變化　村内ノ飲料水井ハ深サ百米内外ニシテ概シテ増加ノ傾向アレトモ疊ケ池ノ一井ハ斷水セリ、灌漑用水井ハ深サ三百米乃至六百米ニシテ水ハ淡褐色ヲ呈シ、變化ナキモノヽ如シ

裂罅　疊ケ池ノ縣道ニ北東、南西ニ走リ長サ七十五米ノ間ニ亙リ數條ノ裂罅アリテ階段狀又ハ地壘狀ヲナス(第十八圖)、裂罅ノ深サ〇・六米、幅一米以上ナリ、椿ノ縣道三百五十米ニ亙リ二條ノ裂罅東西ニ通シ幅〇・四米、深サ〇・六米ナリ、其東ニ長サ二百三十米ニ亙リ東西ニ幅〇・六米、落差〇・三米、深サ一米ノ裂罅アリ、該處ノ電柱三本ハ北方ニ二十五度内外傾斜シ鐵道ノ護柵ハ北方ニ轉倒ス

第十八圖



地質　大部分山地ニシテ壚塲ヨリ成リ下部ニ第三紀ノ灰色頁岩發達ス、平地ニ於テハ地表ヨリ三十米ノ間粘土、八十米砂及礫、〇・三米乃至〇・六米粘土、其下砂礫層ナリト云フ

鳴動　南五十度西

楢葉村

死傷並家屋被害　人口二〇六七、死者一、傷者ナシ、戸數三四五、住家全潰四戸(川間尻)、半潰三戸、非住家全潰一一棟、半潰一九棟

井水ノ變化　掘拔井ハ丘陵上ノモノハ減水シ、平地ノモノハ增水ス、手掘井ハ深サ三米內外ニシテ水量ニ變化ナシ

裂罅　川間尻ノ宅地ニハ幅〇・一米內外ノ小裂罅アリテ北五十度東ニ走リ、板戸市場ノ板戸川ニ於テハ東岸ニ南北ニ走リ長サ五十米、落差二米ノ裂罅アリ

塔石　奈良輪ノ寺院ノ石塔ハ多ク北二十度西或ハ南二十度東ニ轉倒シ、左ニ四十度及五十度廻轉セルモノ各一基アリ

地質　丘陵地ハ壚埴及砂ヨリ成リ厚サ約七米アリテ水平ニ成層ス、下部ハ明カナラス、平地ハ冲積地ニシテ其地質明カナラス

金田村

死傷竝家屋被害　人口四四〇〇、死傷ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
金田村	七五五	三三	四	四・三	〇・五	瓜倉高須	六〇	五		八・三	
中島高須	七〇	八		一一・〇		畔戸	九〇	二〇	四	二二・二	四・四

非住家全潰一七棟、半潰一〇棟

本村ハ平地ニシテ被害區域ハ小櫃川河口ノ畔戸、海岸ノ高須ニシテ瓜倉ニ全潰一戸、中野、中島ニハ倒潰家屋ナシ

井水ノ變化　井戸ノ深サハ今ヨリ四十餘年前ハ五十米內外ナリシモ漸次井戸ノ增加ニ從ヒ減

水シ今ハ深サ百二十米乃至百五十米トナレリ、今次ノ地震ニ於テハ斷水セルモノ多シ

裂罅　各處ニ裂罅生シ瓜倉小學校々庭ニ於テハ東西及南北ノ方向ニアリテ大ナルモノハ長サ十五六米、幅〇・三米、深サ一米ニシテ水ヲ噴出セリ、小櫃川ノ堤防ハ高サ五米、上幅四米、傾斜約二十度、中野ニ於テハ堤上約百米ニ亙リテ裂罅生シ、瓜倉ニ於テモ約二十米ニ亙リテ裂罅生シ一部分約一米沈下ス

鳴動　南三十度西

巖根村

死傷並家屋被害　人口三五九二、死傷ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
巖根村	五五六	二六	五五	四・五	九・八
高柳	二三一	五	二一	二・一	九・〇
萬石	四九	一	一		

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
久津間	一二三	一二	一六	九・七	一二・六
江川	一〇六	七	一三	六・六	一二・二
中里	四七	一	四		

被害區域ハ何レモ沖積平地ニ位シ、就中久津間、江川ハ小櫃川ノ川口ニアリ、殊ニ久津間沖山ハ明治二十四年頃開作セシ埋立地ニシテ全戸數十一戸中九戸全潰セリ

井水ノ變化　手掘井ハ深サ七米内外ニシテ變化ナク、掘拔井ハ深サ六十米乃至百米ニシテ減水セルモノ多シ

裂罅　小櫃川ノ堤防ハ五六箇處ニ於テ陷沒シ高柳ニ於テハ堤防ハ高サ三米强、上幅五米、下幅十

米ニシテ約二米陷沒シ小櫃川ニ土砂ヲ押出セリ、又高柳地先ノ堤防ニ於テハ陷沒シテ土砂ヲ四米内外川ニ押出セリ

地震　ハ上下動ニシテ二日正午頃强震セリ

鳴動　南二十度西

木更津町

死傷竝家屋被害　人口九〇〇〇、死者三、傷者一〇三、戸數一八三五、住家全潰七一戸(百分率四)半潰二四六戸(百分率一三)非住家全潰二三棟、半潰七七棟

被害區域ハ全町ニ亙リ全潰家屋ハ北町附近、北片町、仲片町、南片町、辨天町、八幡町附近ニ多ク停車場モ大破ス、北片町、仲片町、辨天町ノ西部ハ埋立地ナリシヲ以テ全潰多カリシナルヘク辨天町ヨリ停車場ニ通シ略東西ニモ激甚ナリ、倒潰家屋ハ殆ント全部瓦葺二階家ニシテ寺院ノ全潰セシハ成就寺ナリ、家屋ハ多ク北東方ニ倒潰ス、中學校控室全潰シ裁判所ハ一棟北東ニ倒潰シ一棟北東ニ傾キ小學校、女學校大破ス

井水ノ變化　町内ノ井戸ハ深サ百米乃至百二十米ニシテ地震ノ結果一時白濁シ多クハ減水スルニ至リシモ增水セシモノモアリ

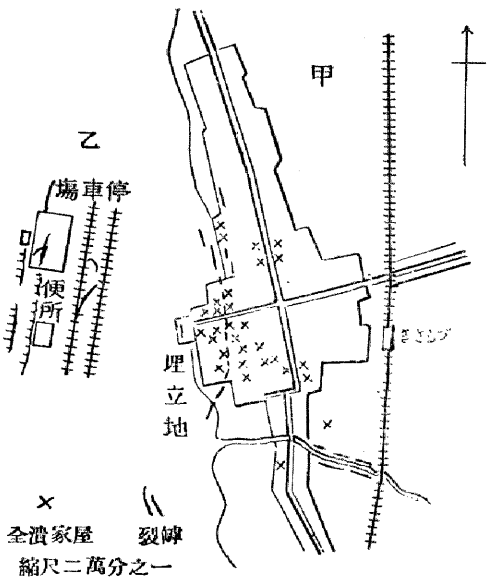
鳴動　ハ風音ノ如ク南七十度西ヨリ襲來ス

裂罅　木更津停車場前ノ廣場ニハ無數ノ裂罅生シ停車場前ノモノハ(第十九圖乙)北十五度西ニ走リテ二條著シク長サ各五十米アリ、西ニ位スルハ玄關ニ平行シテ西方ニ約〇・二米落下シ南方便所前ニテハ〇・一五米アリ、東ニ位スルハ待合室ニテ僅カニ裂罅トナリ室外ニテハ南ニ走リテ

便所前ニ及ヒ西方ニ〇・一五米落下シ深サ〇・六米アリ、歩廊内ニハ東西及北東ニ走ル二裂罅アリ、是等ノ裂罅ノ爲メ停車場ハ大破セリ、北片町ノ海岸埋立地ニハ(第十九圖甲)海岸ニ平行シテ南北ニ走リ幅約〇・一五米ノ無數ノ裂罅アリ、又遊廓東ノ海岸ノ護岸石垣(高サ一・七米)ハ破壞シテ海中ニ沒落シ海岸ニハ約五米ノ距離ニ亙リ南北ニ不規則ノ裂罅アリ、海岸ノ裂罅ニ於テハ地震中噴水セリ

第十九圖

木更津町



塔石　君津寺ノ墓石ハ約二分ノ一轉倒シ其方向南或ハ北ナリ、光明寺ノ表門ノ石柱ハ南々東ニ、招魂碑ハ南ニ倒レ、南門ノ東石塔ハ南西ニ偏位シ西塔ハ南ニ轉倒ス、墓石ハ東ヘ十九、北ヘ十、西ヘ八、南ヘ四轉倒シ、三墓石ハ右ニ二十度乃至三十度廻轉ス、成就寺ノ石門ハ東ニ倒レ墓石ハ東方ニ轉倒セシモノ多シ、廻轉セルモノハ數基アリテ右ニ十五度乃至二十度ナリ、北片町海岸ニ堆積セル薪束ハ北四十度東ニ倒ル

海水ノ變化　一日地震ト共ニ海水減退シ午後四時滿潮ト同一程度ニ來潮シ又退キ數回反復セリ、地震ノ結果濱砂ハ堅ク成リ、海苔粗朶ヲ樹ツルニ困難トナレリト云フ、地震以來土地ノ隆起約一尺(〇・三米)ナリ

眞舟村

死傷並家屋被害　人口三一六五、死傷ナシ、戸數五七六、住家全潰二戸、半潰八戸、非住家全潰三棟、半

潰一九棟

被害區域ハ櫻井ニテハ古家ニ全潰二戸アリシノミニシテ被害極メテ少ナク矢那川沿岸ノ請西ニ於テ半潰八戸アリタリ、一般ニ被害少ナキハ平地ニ人家ノ少ナキニ依レルモノナルヘシ

井水ノ變化　手掘井ハ深サ六、七米ニシテ變化ナク、掘拔井ハ深サ六十米乃至八十米ノモノハ概シテ減水シ百二十米内外ノモノハ增水ス

塔石　多クハ北四十度東ニ轉倒ス

地質　丘陵地ニ於テハ上部ニ厚サ三米内外ノ壚坶水平ニ成層シ下部ニ粗鬆ナル砂層アリテ壚坶ト整合ス、平地ニ於テハ地質明カナラス

鳴動　南八十度西

波岡村

死傷竝家屋被害　人口二一一一、死傷ナシ、戸數三六七、住家全潰ナシ、半潰三戸

本村ハ大部分丘陵地ニ位シ被害極メテ少ナシ

水井ノ變化　手掘井ハ深サ六、七米ニシテ異狀ナク掘拔井ハ增減水アリテ十中約七ハ減水ス

鳴動　南五十度西

塔石　大部分轉倒シ其方向北三十度東ノモノ多シ

山崩レ　畑澤、小濱間海岸縣道ニ於テ二箇處ニ山崩レアリ、海岸ノ崖壁ハ高サ二十米内外ニシテ崖ノ頂上崩壞シ縣道ニ墜落シ夫々三十米及六十米ノ間縣道ヲ閉塞セリ

裂罅　畑澤ノ縣道ニ平行シテ二列ノ小裂罅アリ、幅〇・一五米、深サ〇・三米内外ナリ

地質　上部ハ塵埃、下部ハ砂ニシテ水平ニ成層シ厚サ二十米以上ナリ

周西村

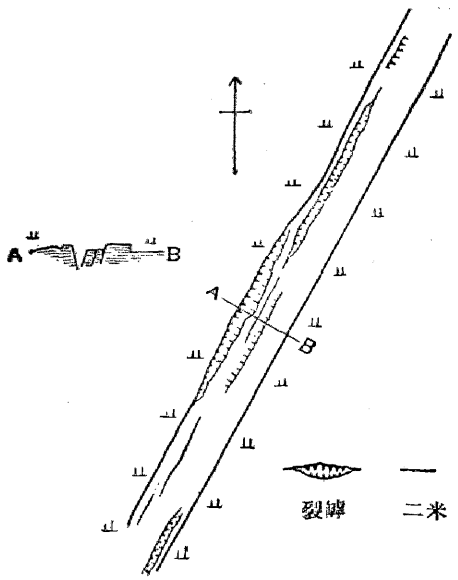
死傷並家屋被害　人口二八九三、死者一、傷者五

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
周西村	五二五	七四	八〇	一四・〇	一五・二	坂田	九八		七		七・一
人見	二三五	二二	二七	九・三	一一・五	中野	一〇一	三二	一九	三一・六	一八・八
大和田	四〇	一	一	二・五	二・五	久保臺	五一	三六	九	七〇・六	一七・八

非住家全潰九二棟、半潰一四一棟

被害區域ハ小糸川ノ沿岸、中野、久保臺附近ノ平地最モ甚タシク倒潰家屋ハ主トシテ瓦家ナリ、中野ニテハ南ニ倒潰セシモノ多シ

第二十圖

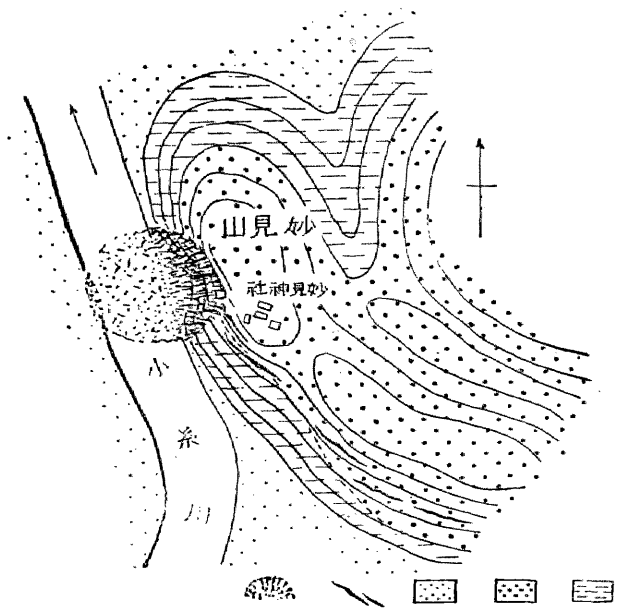


裂罅　坂田ノ海岸縣道ニ於テ北三十度東ノ方向ニ四十米ニ亙リ二條ノ裂罅斷續ス、幅〇・六米、深サ一米ナリ(第二十圖)

山崩レ　人見妙見山ハ小糸川ノ東岸ニ位シ(第二十一圖)高サ河水面上約六十米ニシテ小糸川ニ面シ絶壁ヲナシ其方向ハ北二十五度西ナリ、一日ノ地震ニテ該絶壁ノ上部長サ八十米、幅四米乃至五米、體積六萬立方米以上崩壞墜落シ小糸川ヲ埋メ

河底ニ推積セシ土塊ハ高サ十二米、幅七十米、長サ七十米ニ及ヒ河水氾濫スルニ至レリ、仍テ二日ヨリ土塊ノ取捨ヲナシ同日夕刻僅カニ疏水スルニ至リ十八日ニ之ヲ復舊スルヲ得タリ、調査當時崩壞セシ絶壁ノ頂上ニハ長サ三十米、幅六米間ニ亙リテ北々西ノ裂罅多ク將ニ墜落セントスル狀況ニアリ、崩壞セシ部分ハ壚坍及第三紀ノ粗鬆ナル砂岩ニシテ其下部ノ含化石砂岩以下ノ地層ハ僅カニ表面ノ剝取セラレタルニ過キス、頂上ノ妙見神社拜殿ハ南方ニ、籠堂ハ西方ニ倒潰シ觀世音堂ハ南方ニ傾キ本堂ノミ倒レス

第二十一圖



坂田海岸縣道上ノ高サ二十米内外ノ崖壁ハ二箇處ニ於テ長サ夫々四十五米及百米ニ亙リ崩壞シ道路ヲ閉塞セリ、崩壞セルハ上部ノ壚坍及粗鬆ナル砂ナリ

地質　丘陵地ヲ構成スルハ洪積層及第三紀層ニシテ洪積層ハ壚坍ヨリ成リテ厚サ五米以上、第三紀層ノ最上部ハ厚サ二十米ノ粗鬆ナル砂岩ニシテ其下ニ厚サ十五米ノ含化石砂岩アリ、其下ハ灰褐色ノ砂岩ニシテ北三十度東ニ走リ北西二三度ニ傾斜ス

青堀村

死傷竝家屋被害　人口四一二一、死者三、傷者八

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
青堀村	六四五	九〇	六三	一三・九	九・八
大堀	四〇四	二二	二五	五・五	五・五

非住家全潰五八棟、半潰六七棟

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
青木	一四五	三二	一九	二一・四	一三・一
西川	九六	三六	一九	三七・五	一九・八

被害區域ハ海岸ニ沿ヒタル青木、西川ニ於テ甚タシク小糸川河口ノ大堀ニ少ナシ、青木ナル村役場大破ス

井水ノ變化　水井ハ深サ四米内外ニシテ變化ナク僅カニ二三井斷水セリ

裂罅　青木ニ於テ縣道二十五米ノ間約〇・六米陷落シ其間北東ニ小裂罅二條生ス、該所ハ元川ヲ埋立セシ處ナリ、大堀ニテハ小糸川ニ沿ヒ北々西ニ幅〇・二米内外ノ小裂罅生シ其南西方ノ稲荷神社ヲ通シ北七十度西ニ裂罅生シ長サ百米以上ニ亙リ幅〇・一五米乃至〇・三米、深サ一米ナリ、縣道上該裂罅上ニ位セシ住宅四戸全潰ス、縣道ヨリ大堀村役場ニ通スル北三十度西ノ長サ三十米ノ道路ニハ路ニ平行シテ無數ノ階段狀裂罅生シ北東方ニ陷落シ落差二米ナリ

塔石　明澄寺ノ墓石ハ悉ク倒レ西北西ノモノ最モ多シ、門柱ハ長サ三米ノ花崗岩ニシテ東ナルハ北二十度東ニ、西ナルハ北八十度西ニ轉倒ス、役場ノ花崗岩門柱ハ一ハ南東ニ轉倒シ他ハ倒レス

土地ノ隆起　大堀附近ニテ海岸ノ隆起約一尺五寸(〇・四米)ナリ

地震　ハ初回ノモノ最モ強シ

鳴動　南西

飯野村

死傷並家屋被害　人口二五一四、死者一三、傷者一二

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
飯野村	四三二	一七三	五〇	四〇・〇	一一・〇
下飯野	一八五	七二	二六	三九・五	一四・〇
上飯野	七六	一〇	四	一三・一	五・二

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
本郷	四六	三	三	六・五	六・五
前久保	二六	三	八	一一・五	三〇・八
二間塚	九九	八五	九	八五・八	九・〇

非住家全潰二四〇棟、半潰九八棟

被害區域ハ小糸川ノ沖積平地ヲ占メ下飯野、二間塚附近殊ニ激甚ナリ、倒潰家屋ハ瓦家藁家ヲ論セス倒潰ノ方向ハ東或ハ北東多シ

井水ノ變化　深サ六米内外ノ手掘井ハ概シテ減水シ掘拔井戸ニハ増水セシモノ、減水セシモノ相半ス

裂罅　下飯野、上飯野、本郷ニハ主トシテ東西ノ裂罅生シ幅〇・三米、深サ一米内外、長サ五十米内外ノモノ多シ

鳴動　南六十五度西

貞元村

死傷竝家屋被害　人口二一二四、死者三、傷者六

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
貞元村	四二五	一二三	五七	二八・七	一三・六	那	六一	一	一		
貞元	一〇四	六三	二四	六〇・六	二三・八	小香	一八				
八幡	二五	一六	八	六四・〇	三二・〇	上湯江	六五	三	四		
新御堂	一四		一			下湯江	七三	一四	六	一九・一	八・二
杉谷	一三					中富	五二	二五	一三	四八・〇	二三・〇

非住家全潰一二三棟、半潰一五一棟

井水ノ變化　井戸ハ深サ四十米乃至二百米ニシテ多クハ斷水シ稀ニ增水ス

裂罅　小糸川沿岸釜神附近ニ於テ裂罅生シ川中ニ土塊ヲ押出ス

鳴動　南六十度西

八重原村

死傷竝家屋被害　人口二六〇〇、死者一、傷者三

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
八重原村	四五六	六四	八六	一四・三	一八・八	外箕輪	八〇	二四	四六	三〇・〇	五七・五
三直	九〇	一〇	一三	一一・一	一四・四	歪師	五五	二五	二〇	四五・四	三六・三
内箕輪	二五	一		四・〇		南子安	一〇〇		三		三・〇
法木作	二六	三	三	一四・五	一四・五	北子安	八〇	一	一		

非住家全潰七二棟、半潰一〇一棟

被害區域ハ三直ノ中郷、外箕輪ノ新屋敷、蒲田、林、臺、杢師、西臺等小糸川ノ沿岸ニ位シ内箕輪、子安等丘陵地及丘陵地附近ニ於テハ被害僅少ナリ、全潰家屋ハ殆ント悉ク木造平屋藁家ナリ

水井ノ變化　小糸川沿岸ニ於テハ井水涸渇セルモノアレトモ丘陵地ニ於テハ變化少ナシ、外箕輪附近ニ於テハ井戸ノ深サ五百米、杢師ニ於テハ六百米内外ナレトモ丘陵地附近ノ金ケ崎附近ニ於テハ手掘井ニシテ深サ十米乃至十五米ナリ

裂罅　外箕輪ヨリ杢師ニ亙リ小糸川兩岸約三十米ノ間裂罅生シ階段狀ヲナシテ河中ニ墜落シ河水ヲ塞止ス

塔石　墓石ハ過半倒レ其方向ハ南或ハ北ナリ

地質ト被害　丘陵地ヲ構成スルハ第三紀砂岩及洪積期塘堀ニシテ金ケ崎附近ノ深サ十米乃至十五米ノ水井ハ全ク砂岩中ヲ掘鑿ス、平地ヲ構成スル冲積層ノ地層ハ明カナラサレトモ粘土、砂等ヨリ成リ厚サ二十米ニ達スルモノヽ如シ、小糸川沿岸ニ於テハ本層ハ最モ厚ク、沿岸地方被害家屋多キハ地層最モ厚ク且粗鬆ナル冲積地ニアリシヲ以テナルヘク、丘陵地及丘陵地附近ノ平地ニ被害少ナキハ基底カ第三紀層或ハ洪積層ナルカ或ハ冲積層ノ薄キニ因リシモノナルヘシ

中村

死傷並家屋被害　人口二四七五、死者二、重傷者五

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
中村	四四〇	七九	六八	一七・九	一五・四	泉	八二	八	一二	九・七	一四・六

中島	一一二	三三	二三	二九・四	二〇・五	練木	二三	一	四	四・三	一七・四
上	五六	二一	二四・	三九・二	四二・八	大鷲	二二	一	二	四・五	九・〇
糠田	六〇	一五	—	二五・〇	—	大井	四〇	—	三	—	七・五

非住家全潰八七棟、半潰八九棟

被害區域ハ縣道筋、小糸川沿岸及其中間ニ位スル平地ニシテ泉ノ泉臺、中島ノ木ノ下、上村ノ原、中島ノ堀之内、糠田ノ下村等被害多シ、堀之内ハ從來地震ニ震動多キトコロト稱セラレタリシカ今次モ亦全潰家屋約十九戸ニシテ被害最モ大ナリ、全潰家屋ハ瓦家八割五分、瓦家一割五分ニシテ瓦家ノ全潰ハ總瓦家ノ約四割ニ當ル、村役場及小學校ハ全潰ス

井水ノ變化　井水ハ變化多ク全村三百井内外中約五十井ハ涸渇シ殊ニ練木ノ小糸川沿岸ノモノハ悉ク停止ス、井戸ノ深サハ練木四百五十米以上(但シ小糸川沿岸ノモノハ百五十米内外)、泉臺四百米、中島堀之内四百米、竹際二百五十米、下村四百米ナリ

裂罅　練木ヨリ糠田ニ亙リ約二粁ノ間小糸川ノ北岸ニ裂罅生シ土塊ハ河中ニ墜落ス、其結果練木ノ明治橋ハ破壞シ交通杜絶ス、大井ノ丘陵南斜面海拔百米ニ東西ニ亙リテ長サ二百米ノ裂罅生シ南ニ辷落スルコト約十米ナリ、該丘陵ハ粗鬆ノ砂岩ヨリ成リ前記ノ裂罅ニ平行シテ尚墜落セサル裂罅約三條アリ、幅〇・五米内外ナリ

地質ト被害　丘陵地ヲ構成スルハ第三紀ノ粗鬆ナル砂岩及其上ノ塵埃ニシテ大井ノ山崩レハ地表ノ分解セル塵埃及砂岩中ニ震動ノ爲メ裂罅生シ崩壞セシモノナリ、平地ヲ構成スル冲積層ハ井戸ノ記錄ニヨレハ粘土、砂、礫等ヨリ成リ練木、堀之内、下村等最モ厚ク、厚サ約三十米ニシテ丘

陵地ニ近ツキテ次第ニ薄ク丘陵地ノ麓ニ於テ既ニ之ヲ檢セサルトコロ多シ、而シテ是等ノ地層中粘土ノ厚サ二十米ニ及ヒ其發達セルトコロ被害大ナリ

鳴動　南七十度西

小糸村

死傷並家屋被害　人口三四〇〇、死者三

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
小糸村	五一〇	三六	四九	七・六	九・六
大井戸	六九	二一	一五	三〇・四	二一・七
糸川	九六	—	五	—	五・二
福岡	三三	一	二	三・〇	六・〇

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
塚原	二七	—	七	—	二五・九
行馬	一九	一〇	六	五二・六	三一・六
根本	五九	四	七	六・八	一一・八
大谷	二六	—	七	—	二六・九

非住家全潰三六棟、半潰七〇棟

被害區域ハ下根本ヨリ行馬、大井戸ノ深井ニ至ル小糸川ノ東岸ニシテ大井戸ハ古來地震ニ際シ震動多キトコロト稱セラレタリ、大井戸ノ南、糸川、鎌瀧、大野臺ハ被害甚タ僅少ナリ、大井戸ノ村役場及小學校全潰セリ

井水ノ變化　大井戸、行馬ニ於テ井水ノ涸渇セルモノアレトモ他ハ變化少ナシ、大井戸ノ井戸ノ深サハ百米乃至二百四十米、行馬ニ於テハ三十米内外、深井二百五十米、根方三米内外ナリ

裂罅　鎌瀧縣道ニテ田地ヲ埋立テセシトコロ長サ約六米ノ間約〇・六米沈下ス、小糸川沿岸大井地先、下根本地先、行馬地先ニ於テ川ニ平行シ幅約四十米ノ間ニ數條ノ階段狀裂罅生シ土塊ハ崩

壞シ河中ニ墜落シテ河ヲ埋沒スルコト約八米ニ及フ、糸川、杉行田ニ於テ谷ノ北岸ニ山崩レアリテ里道約四十米ヲ埋沒ス、該里道上ニハ長サ十米内外ノ裂罅生シ南方ニ墜落スルコト二米ナリ、該處ハ粗鬆ナル砂岩ヨリ成ル

塔石　墓石ハ殆ント悉ク轉倒シ其方向南或ハ北ナリ

地質ト被害　丘陵地ヲ構成スル第三紀層ハ主トシテ砂岩ヨリ成リ糸川、杉行田ニ於テハ上部ニ厚サ五十米ノ僞層ヲナセル粗鬆ナル砂岩アリ、其下ニ整合シテ稍堅硬ナル砂岩アリテ北方ニ緩斜ス、小糸川流域ニ於テハ丘陵地ノ山麓ニ屢第三紀層露出シ秋元村市場ノ北ニ於テハ介化石ヲ含有スル細粒砂岩ハ北方ニ緩斜シ其上ニハ砂岩及砂岩、頁岩ノ互層成層シ其間鑾岩ヲ介有シ、含化石砂岩層ハ小糸村深井ノ平地ニ於テハ地下二百二十米、下村及堀之内ニ於テハ三百九十米、練木ニ於テハ四百四十米内外ニ位シ北方ニ四度内外ニ傾斜スルモノヽ如シ、丘陵地ニ於テハ如上第三紀層分布シ被害少ナク糸川ノ東方溪谷ニ於テハ粗鬆ナル砂岩カ震動ノ爲メ崩壞シ谷ノ傾斜ニ沿ヒ墜落シタリ、平地ヲ構成スル冲積層ハ粘土、砂等ヨリ成リ厚サ二十四米内外ニシテ被害甚タシカリシ大井戸、深井ニ於テハ深サ二十米ニ及ヒ平素附近ハ車馬ノ通行ニヨルモ動搖ヲ感シタリト云フ、小糸村中被害最甚タリシ行馬ハ地下十六米ノ間ハ極メテ粗鬆ナル砂ニシテ其下ニ十五米内外ノ礫層アリ、其下ハ第三紀ノ砂岩ナリ、行馬ノ被害多カリシハ地質カ粗鬆ナル砂ナリシコトヽ其西邊ニ於テ小糸川ノ崖ノ高サ八米ナリシニ基クモノニシテ震動ニ際シ行馬ハ粗鬆ナル地層ヨリ成ル懸崖上ニ在リシト同一ノ狀態ニアリシヲ以テ被害殊ニ甚大ナリシナリ、小糸川ノ平地ハ下小糸以南ニ於テ俄ニ狹ク從テ被害減少シ秋元村ニ於テハ全潰家屋五戸、半潰家

屋三戸ニ過キス

鳴動　南八十度西

富津町

死傷竝家屋被害　人口四九五〇、死者三、傷者一

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
富津町	八四八	九一	一六〇	一〇・七	一八・八
富津	六二〇	六五	一一五	一〇・五	一八・〇
新井	五一	一三		二五・五	

川名	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
篠部	八九	七		七・八	
	八八	六		六・八	

非住家全潰六一棟

被害區域ハ富津、新井附近ニシテ富津最モ甚タシク殊ニ舊村役場ヨリ新村役場ニ通スル北六十五度東ノ方向ニ倒潰家屋多ク、瓦家其大部分ヲ占ム、町役場全潰シ、大乗寺ノ庫裡及鐘樓ハ南東方ヘ倒潰ス

井水ノ變化　井戸ハ深サ約四米ニシテ地震當時白濁セシ外斷水セシモノナシ、富津岩崎軍次郎邸ノ井戸ハ北方ニ變位スルコト〇・一五米、村役場ノ井戸側土管ハ北十度東ニ十五度傾斜ス

裂罅　富津町原町小林幸次郎邸ヨリ村役場ニ亙リ北六十五度東ノ方向ニ幅三米乃至五米ノ間ニ數條ノ裂罅アリ、幅五、六糎、深サ砂上ナルヲ以テ明カナラス、小林邸内ニ於テハ地震當時裂罅ヨリ噴水セリト云フ、裂罅ノ南西端ハ濱砂中ニアリテ中央陥沒シ落差一米、幅三米ナリ、富津ノ沙嘴

タル元洲ノ尖端ニ於テハ濱砂中東西ノ裂罅生シ噴水セシト云ヒ舊砲臺ニ於テモ石垣ハ北方ニ倒レ測計臺ノ基盤ニハ東西ノ裂罅多ク望遠鏡ノ土臺ハ北方ニ約十五糎偏位ス

塔石、煙突、其他　大乘寺ノ墓石ハ二分ノ一轉倒シ北七十度東ノモノ最モ多ク南七十度西ノモノ之ニ次ク、八坂神社ノ碑ハ北方ニ、東福寺ノ招魂碑ハ北十度西ニ轉倒ス、富津町岩崎醬油店ノ煙突ハ高サ二十米、下部ハ房州石ニテ築キ上部ハ土管ナリ、地震ノ結果土管ハ折斷シテ北方ニ倒ル、富津小學校々庭ノ松樹ハ北五十度東ニ倒ル、震災地域ニ於ケル唯一ノモノナリ

土地ノ隆起　富津ノ海岸ハ地震當時ヨリ四日間ハ約一米隆起シ後二尺(〇・六米)ト成レリ

地質　村内全部冲積層ニシテ井戸ノ記錄ニヨレハ上部四米砂、一米青砂、其下ハ葭蘆ノ片々ヲ交フル黑色粘土ニシテ水ハ青砂中ニアリテ水質良好ナリ

鳴動　川名附近ニ於テハ南西ニ聞キシモ富津ニ於テハ之ヲ聞カサリシト云フ

大貫町

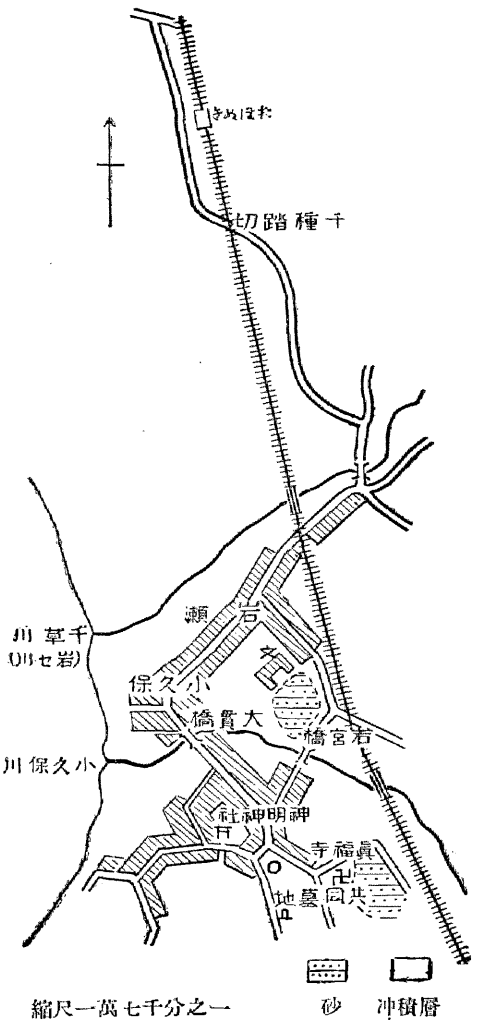
死傷並家屋被害　人口四八五〇、死者六、傷者四〇、戸數九二〇、住家全潰九九戸(百分率一〇・七)、半潰九六戸、非住家全潰五五棟、半潰四一棟

被害區域ハ小久保川ノ流域及大貫停車場附近ノ埋立地ニシテ大貫小學校ハ高臺ノ緣邊ニ在リテ校舍一棟北々東方ニ倒潰セリ、大貫停車場大破ス(第二十二圖)

井水ノ變化　一般ニ地震後二三日ハ混濁ス、岩瀬附近ノ井戸ハ深サ七米内外ニシテ震災後減水シ白濁セシモノアリ、大貫橋附近ノ深サ二百米ノ六掘拔井ハ何レモ斷水シ岩瀬ノ掘拔井モ斷水セシモ震災後三日ニ復舊ス、岩瀬千種鐵道踏切ノ深サ六米ノ井戸ハ上部ノミ北六十度東ノ方向

ニ十七糎偏倚シ水ハ白濁ス

第二十二圖
大貫町地質圖



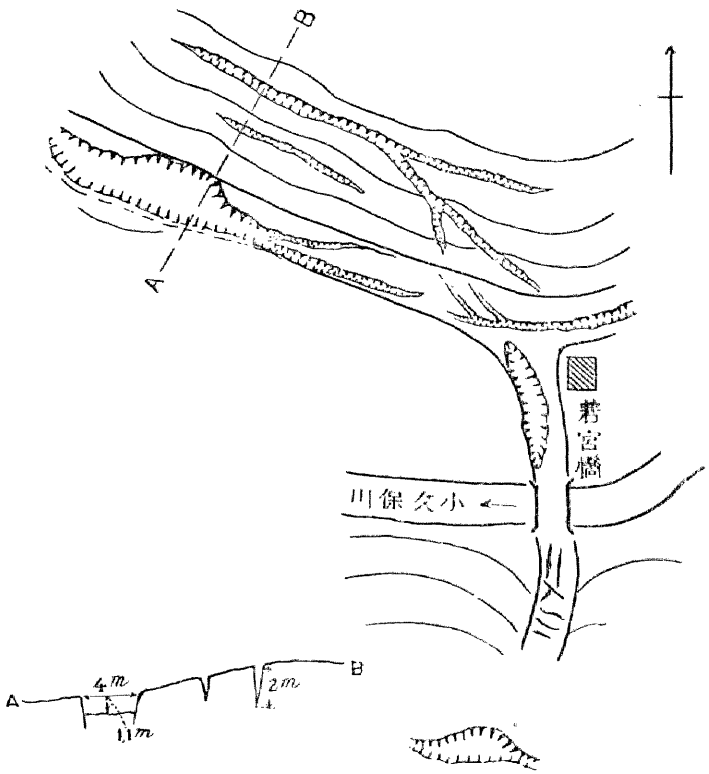
米ヲ隔テ其北東ニアル裂罅ハ幅〇・六米、深サ二、三米アリ、此二裂罅間ニハ斜メニ小裂罅アリテ南方ニ連ナリ若宮橋ニ至ル、若宮橋ノ南方ニモ略東西ニ道ヲ横キリテ數條ノ裂罅アリ、幅〇・一米、深サ〇・三米ナリ、若宮橋ハ東方ニ傾斜ス、該處ハ小久保川ニ沿フ沖積地竝ニ其北方ノ丘陵地ノ緣邊ニ當リ川ニ面セル沖積地ニ裂罅生セル爲メ丘陵地ノ緣邊ノ粗鬆ナル砂ニモ其影響ニヨリ裂罅生セルナリ

山崩レ　磯根岬附近ハ第三紀砂岩ヨリ成リ絶壁ノ高サ五十米アリ、海岸約五百米ノ間絶壁崩壞シ崖麓ニ岩堆(テーラス)ヲ構成ス

陷沒　岩瀬川鐵道橋ノ北方約二百米ニ亙リ鐵道堤塘約二米陷沒ス

裂罅　小久保若宮橋ノ北方道路上ニ北七十五度西ニ走ル裂罅ハ(第二十三圖)長サ二十米、幅最大四米、深サ一米ニシテ南東方ニ狹マリ幅〇・六米、深サ〇・三米トナル、之ト八

第二十三圖



塔石　清水共同墓地墓石ハ多ク南八十度東ニ、稀ニ南六十度東ニ轉倒ス、眞福寺ノ墓石ハ東及西ニ轉倒シ其數兩者相半ス、同寺門前石燈籠ハ南四十度西ニ落下シ門内石燈籠ハ右ニ約三十度廻轉シ其天蓋ハ北及南ニ落下ス、神明神社ノ石唐犬ハ右二十五度廻轉ス

土地ノ隆起　大貫ノ海岸ハ一般ニ隆起シ沙濱ニ於テハ海岸線ハ約六十米退キ、磯根岬下ノ暗礁ハ裸出シ其上ノ海草ハ枯死スルニ至リ其隆起約三尺(一米弱)ナリ

地質　丘陵地ヲ構成スル第三紀層ト平地ヲ構成スル冲積層トヨリ成ル、第三紀層ハ灰褐色ノ砂岩ヨリ成リ帆立介其他ノ介殼ヲ埋藏シ厚サ五十米以上ニシテ北六十五度西ニ走リ北々東五度ニ傾斜ス、上部ハ厚サ五米内外ノ塵埃ニ被覆セラル、冲積層ハ砂及粘土ヨリ成リ其層位明カナラス、小久保ナル一掘拔井ノ記錄ニヨレハ地表ニハ十六米ノ海砂アリ、其下ハ第三紀層ニシテ五十米ノ砂岩、六十五米ノ砂岩、頁岩ノ互層ナリ

鳴動　大砲ノ如キ音響南西ニ聞ユ

佐賈町

死傷竝家屋被害　人口三八六二、死者四、傷者一二

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
佐賈町	七二五	一二三	一四〇	一七・〇	一九・三	笹毛	九三	二	四	二・一	四・二
佐賈	一六六	九三	五〇	五六・〇	三〇・一	花香	三三	一	四		一二・一
八幡	一四〇	一二	三〇	八・五	二一・四	色澤	八二	五	一三	六・〇	一五・八
龜田	八〇	五	二四	六・二	三〇・〇	法隆寺	四七	—	—	—	—
鶴岡	八四	五	一五	五・九	一七・七						

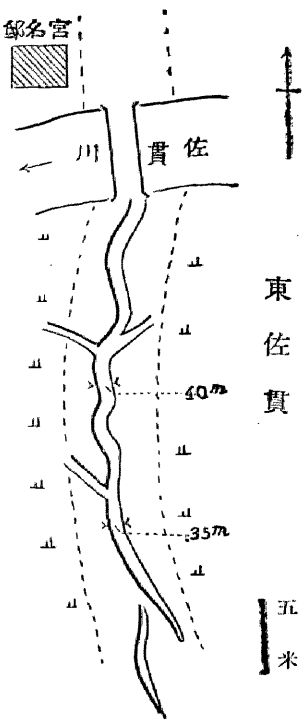
非住家全潰一六〇棟、半潰二二〇棟

被害區域ハ佐賈川ニ沿フ冲積平地ニシテ佐賈ハ全潰家屋五割六分ニ達シタリ、佐賈川ノ川口ニアル八幡ハ平地ナレトモ地下淺ク第三紀層伏在スルヲ以テ佐賈ニ比シ大ナラス、町役場、佐賈停車場全潰シ小學校大破ス

井水ノ變化　掘拔井六十四井アリテ深サ六十米内外ナリ、多クハ減水シ三、四井ハ增水シ六、七井ハ斷水ス

裂罅　佐賈橋西ニハ道路ニ平行シテ東西ニ小裂罅アリ、東佐賈宮名邸ノ田地路ニ南北ニ裂罅アリ(第二十四圖)、長サ二十

第二十四圖



米、幅〇・四米、深サ〇・五米ナリ、佐貫公園東ノ佐貫川筋ニハ幅〇・一五米内外ノ裂罅多シ、染川橋ノ南縣道上ニハ東西及南北ニ長サ五米内外ノ裂罅數條アリ、佐貫湊町縣道上南北ニ走リ長サ五十米ノ裂罅アリテ西方ニ一米陷落ス、佐貫川鐵橋ノ南約百米ノ間鐵道堤塘約二米沈下ス

山崩レ　佐貫、湊町間縣道ニ三箇處ニ山崩レアリ、第三紀砂岩ヨリ成ル切割ハ或ハ西側ノミ、或ハ東側ノミ、或ハ東西兩側崩壞シ通路ヲ閉塞ス

塔石　佐貫三寶寺ノ墓石ハ大部分轉倒シ其方向百分中東三十二、西三十ニシテ其他南十一、北七ナリ、門前ノ石塔ハ右ニ二十度廻轉ス

地質　町内ハ佐貫川及之ト平行シテ西海岸ニ注ク南部ノ溪谷ノ冲積平地ヲ除キ大部分ハ第三紀ノ丘陵地ヨリ成ル、第三紀層ハ主トシテ粗鬆ナル砂岩ヨリ成リ該砂岩中ニハ二枚介化石ヲ埋藏ス、該層ハ丘陵地ノ全部ヲ構成スルノミナラス海岸ニテハ高サ約十二、三米ノ懸崖ヲナシ沙濱ヲ形成スルトコロニ於テモ地下淺キ處ニ本層伏在ス、本層ハ北方ニ五、六度ノ傾斜ヲナス、冲積層ハ粘土及砂ヨリ成レトモ其層位明カナラス

地震　一日正午ノ地震ハ上下動ニシテ事物ハ北東方ニ倒レ、二日夕刻ノ地震ニヨリテ半潰セル家屋ノ全潰セルモノ少ナカラス

鳴動　鳴動ハ汽車ノ走ルカ如ク聞エ方向ハ南六十度西ナリ、鳴動後三、四秒ニシテ震動ス、而シテ稀ニ鳴動ノミニシテ震動ナキコトアリ

湊　町

死傷竝家屋被害　人口三六六五、死者七、傷者一六

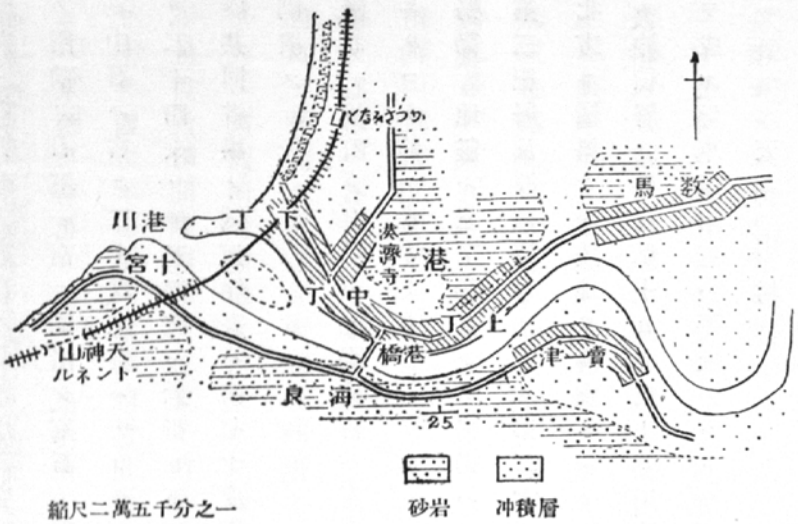
被害區域ハ湊川ニ沿ヘル湊、更和附近ニシテ殊ニ湊町ハ下町及中町ノ西半部及湊川緣ニ於テ激甚ナリ、但シ湊町停車場ハ堦段平地ニアリシヲ以テ被害ナシ、被害家屋ハ瓦家多ク、土藏ハ殆ント全部倒潰或ハ大破ス、家屋ノ倒潰方向ハ北東方或ハ東方ノモノ多シ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
湊町	七二六	八七	六四	一一・九	八・八
湊	三二〇	六一	三九	一九・〇	一二・二

井水ノ變化　深サ四、五米ノ井戸ハ地震當時混濁セシノミニシテ漸次復舊ス

裂罅　湊ニ於テ湊川ノ北岸幅十米、長サ二百米ニ亙リ川ニ平行シテ五、六ノ裂罅生シ裂罅ノ幅〇・三米内外ニシテ湊橋附近ニ於テハ川ニ向テ落下スルコト約一・五米ニシテ其爲メ家屋ノ南方ニ倒潰セルモノアリ、其他湊、佐貫間縣道ニ道ニ平行シテ北東、南西ニ走ル小裂罅二條アリ、湊町停車場ノ北方ノ小川ノ鐵橋ノ兩側沈下シ鐵道堤塘ノ東麓ニアル溝ノ東側ノ石垣ハ東方ニ傾斜ス

第二十五圖
湊町地質圖



縮尺二萬五千分之一

塔石及煙突　東明寺ノ墓石ハ大部分南及北ニ轉倒シ二基ハ右ニ二十度、一基ハ左ニ十度廻轉ス、湊濟寺ノ門前ノ石塔ハ南ニ倒潰シ、墓石ハ數基ヲ殘シ他ハ亂雜ニ轉倒ス、境内西隅ニ在ル中島家一墓石ハ中石ハ右ニ二十度、上塔ハ夫ヨリ更ニ右ニ七十度、都合九十度廻轉シテ倒レス、和泉酒造店ノ高サ二十四米ノ煉瓦煙突ハ六折シ下部三米ヲ殘シ最上部ハ北西方ニ、他ノ四折ハ南東方ニ墜落ス、湊共同浴場ノ鐵板煙突ハ南七十度東ニ二十度傾斜ス、小幡醬油店ノ石造煙突ハ北四十五度西ニ倒潰ス

土地ノ隆起　湊町ノ海岸ハ地震後約一・五米隆起シ湊橋附近ニハ最早干滿潮ノ影響ナク河水面ノ低下スルコト約一米ナリ

地震及鳴動　地震ハ上下動ニシテ鳴動ハ南六十度西ニ聞ユ

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル(第二十五圖)、第三紀層ハ粗鬆ナル砂岩ヨリ成リ二枚介化石ヲ埋藏シ北方ニ緩斜シ丘陵地ヲ構成スルノミナラス平地ノ基盤ヲナシ海岸ニテハ六米内外ノ絶壁ヲナス、冲積層ハ砂及粘土ヨリ成リ湊川流域ニ於テハ稍厚キモ停車場附近ノ平地ニ於テハ薄ク堵段ヲ成ス、停車場附近ハ平地ナレトモ倒潰家屋少ナキハ地下淺ク第三紀層伏在スルニ由ル

天神山村

死傷並家屋被害　人口二四七二、死者三、傷者四

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
天神山村	五〇四	三二	四二	六・三	七・七	賣津	五〇	二六	—	五二・〇	—

不入斗	八八	三		三・四		海良	六七	一八
長崎	五五	一七		三〇・九		横山	二三	二

非住家全潰二一棟、半潰二九棟

被害區域ハ湊川ノ流域ニシテ賣津最モ激甚、長崎、海良之ニ次キ花輪ハ被害皆無ナリ、賣津ハ冲積地ニシテ長崎、海良ハ第三紀層、花輪ハ地下淺ク第三紀層アルニヨリ地盤關係上其被害程度ニ自ラ差違アルナリ

裂罅　花輪小學校ヨリ北ニ小川ヲ渡橋スル道路上ニ東西ニ亙リ長サ十五米、幅〇・三米ノ裂罅アリ、海良ノ縣道、鐵道ノ東ニ於テ東西ニ走リ長サ約十米ノ間裂罅生シ北部約〇・六米陷沒ス、湊川鐵橋南ノ鐵道堤塘約五十米ノ間二米陷沒ス

崩壞　海良湊川南岸ノ石切場崩壞ス

鳴動　地震ニ先立ツ鳴動ハ初震ニ於テハ飛行機ノ爆音ノ如ク南十度西ニ當リテ聞エ其後ノモノハ南西ヨリ、稀ニ南東ヨリ襲來ス

地質　本村ノ地質ハ第三紀層及冲積層ナリ、第三紀層ハ堅硬ナル凝灰角礫岩ヨリ成リテ北方三十度內外ニ傾斜シ、湊川沿岸ニテハ之ヲ石材トシテ採取ス、冲積層ハ湊川ノ沈積物タル粘土、砂ヨリ成リ柔軟ナリ、湊川ノ南岸ニハ廣ク角礫岩露出シ其上ニ建造セラレタル家屋ハ其對岸ノ湊町ノ被害ニ比スレハ被害極メテ僅少ナリ、是レ家屋カ直接ニ第三紀層上ニ建設セラレタルニ歸因ス、賣津ハ冲積層ノ厚キ所ニ位スルヲ以テ被害多ク花輪ハ堦段上ニアリテ地下一、二米乃至十米ニハ第三紀層伏在シ、家屋ハ主トシテ第三紀層ノ丘陵ノ麓ニ建設セルモノ多キヲ以テ被害少ナ

カリシナリ

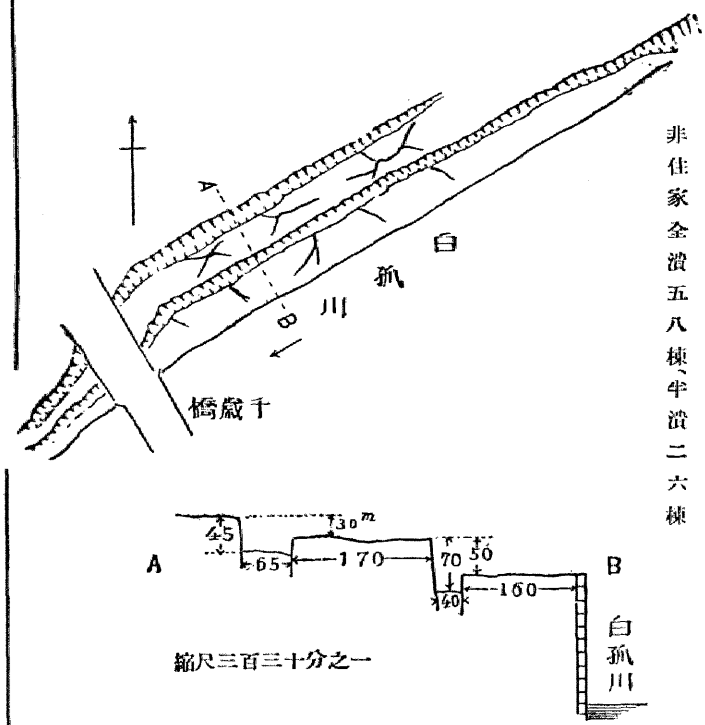
竹岡村

死傷並家屋被害　人口三〇六二、死者四、傷者一八

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
竹岡村	六〇六	四六	一九	七・六	三・一
竹岡	二五〇	三五	一三	一四・〇	五・二

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
萩生	二〇〇	一一	六	五・五	三・〇

第二十六圖



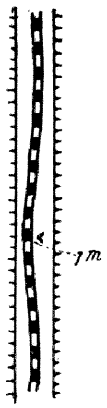
被害區域ハ海岸ニ面セル竹岡及萩生ニシテ竹岡ハ白狐川ニ沿ヒタル冲積地ニ被害多ク瓦家最モ多ク倒潰シ藁家之ニ次キ「トタン」家ハ全ク倒レス、萩生ハ海岸ノ砂上ニアル部落ニシテ先年出火ノ爲メ大部分燒失シ「トタン」家屋ヲ建設セシヲ以テ災害ヲ免レタルモノ多シ

井水ノ變化　竹岡ノ井戸ハ深サ六米乃至十二米ニシテ地震當時混濁セシモ復舊シ多少減水セシモノ多ク、約十井ハ涸渇斷水ス

裂罅　白狐川千歳橋ノ北岸竹岡ニ於テ川ニ沿ヒ東北東ニ裂罅及陷沒生シ(第二十六圖)北部ノモノハ長サ十五米、幅〇・六米、深サ〇・四五米、南方ニ落差〇・三米ナリ、其南一・七米ヲ隔テタル裂罅ハ長サ五十米、幅〇・四米、深サ〇・七米、南方ニ落差〇・五米ナリ、其間竝ニ南ノ裂罅ヨリ河岸ニ至ル二米ノ間ニハ數個ノ小裂罅斜走ス、尙千歳橋ノ兩端陷沒スルコト〇・三米ナリシ爲メ渡橋危險トナレリ、竹岡ノ白狐川鐵橋北ノ堤塘ハ約七十米ノ間二米低下シ緣路ハ西方ニ偏位ス

崩壞　湊町トノ境界十宮ノ海岸ノ絶壁ハ高サ二十米ニシテ約十米崩壞シ海中ニ轉落ス、天神山隧道ノ南北兩端ニ山崩レアリテ線路埋沒シ殊ニ南入口附近ハ長サ二百米ノ間線路埋沒セルノミナラス縣道上ニ土砂ノ堆積スルコト二米以上ナリ、竹岡隧道ノ北五、六米ノ間山崩レアリテ線路埋沒ス、駕籠坂隧道ノ北ノ線路ハ西方ニ彎曲ス(第二十七圖)、竹岡、萩生間ノ縣道ニ長サ百米以上ニ亙リ山崩レアリテ路ヲ閉塞ス、高磯隧道ノ北口ノ東側ニ山崩レアリ、頁岩ノ傾斜北西方三十度ニ沿ヒ北西方ニ岩石ノ滑落セシニ歸因スルモノナリ

第二十七圖　鐵道ノ彎曲



塔石　竹岡松翁院ノ山門ハ北四十度西ニ倒潰シ墓石ハ約二分ノ一轉倒シ其方向北四十五度東ノモノ最多シ、數基ノ墓石ハ右二十度乃至三十度廻轉ス、竹岡ノ一屋上ノ大ナル植木鉢ハ轉倒セスシテ殘留ス、白狐川南ノ寺ノ墓石ハ不倒ノモノ多シ

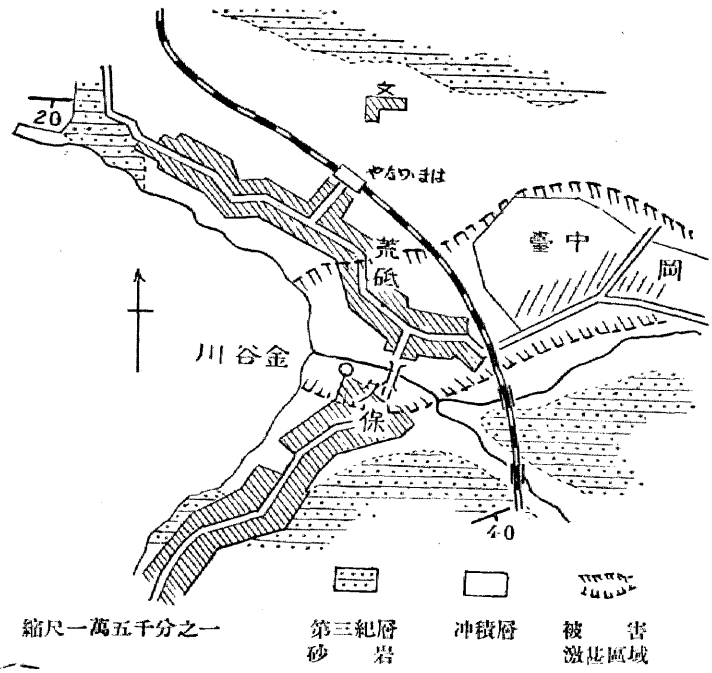
土地ノ隆起　地震以來海岸隆起シ、竹岡十二天鼻ニテ測定セシハ約五尺(一・五米)ノ隆起ナリ、隆起ノ結果白狐川ニ繫留セル帆船ハ砂上ニ殘リ引卸シ困難トナレリ

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ砂岩ヨリ成リテ凝灰岩ノ薄層ヲ挾ミ村内ノ大部

分ヲ占メ竹岡地方ニテハ北々西三十度ニ傾斜シ其ノ南方ニテハ北西三十度内外ニ傾斜ス、冲積層ハ粘土及砂ヨリ成リ白狐川及海岸地方ノ平地及沙濱ヲ構成ス、砂岩ハ新鮮ナルモノハ堅硬ナレトモ風化スレハ脆弱トナリ震動ニ由リテ山崩レヲ惹起セシトコロ少ナカラス

鳴動　ハ初震ニハ之ヲ感セス、三回ノ地震ヨリ之ヲ聞キ、音響ハ大砲ニ類似シ方向ハ西方ニシテ毎回震動ヲ伴フ

第二十八圖



金谷村

死傷並家屋被害　人口二五〇〇、死者一二、傷者三二、戸數四五〇、住家全潰六三(百分率一四)、半潰一一八(百分率二六)、非住家全潰三六棟、半潰五〇棟

被害區域ハ金谷ノ荒砥、久保ノ一部分、中臺、岡ノ大部分ニシテ金谷川流域ノ平地ニ屬ス(第二十八圖)、此附近一帶藁家多キモ倒潰セルハ瓦家及石造家ニシテ殊ニ房州石豐富ナルヲ以テ該石ヲ用ヰシモノ多ク從テ石垣、土臺石、石造家屋、土藏等ハ倒潰、破壞セルモノ多シ

井水ノ變化　當時混濁セシモ漸次復舊ス、海邊ニ於テハ井水減少ノ傾向アリ

裂罅　金谷川北岸ニハ川ニ平行シテ裂罅生シ殊ニ岡ニ於テハ階段狀ヲナシテ一・五米以上落下ス、芝崎川ノ流域冲積地ノ縣道ニハ南北ニ幅〇・三米ノ裂罅生シ芝崎鐵橋ノ南ノ堤塘ハ百米ニ亘リ約一米低下ス

圖九十二第

崩壞　鋸山ノ北斜面ノ採石場七丁場ニ於テハ採掘場ノ天井墜落シ及ヒ採掘跡ノ崩壞シタル爲メ七名ノ壓死者ヲ生シタリ、採石場ニ於テハ山腹ヲ破碎シテ採石シ天井ヲ殘スヲ以テ震動ニヨリテ天井ノ墜落スルコト容易ナリ、上總、安房ヲ境スル明鐘崎附近ハ崩壞甚シク一隧道破壞シ一隧道ノ兩端崩壞セリ、鋸山鐵道隧道ハ長サ千二百二十餘米ニシテ北入口ヨリ百米ノ箇處ニ天井崩壞シ鐵道線路ハ彎曲ス、島戸倉隧道ノ北、鐵道ト縣道トノ交叉スル箇處ヨリ北百五十米ノ間切割崩壞シ線路及縣道ヲ埋沒ス、此附近山緣ニ山崩レアレトモ被害少ナシ

塔石其他　金谷「ネンザバ」ノ共同墓地ノ墓石ハ悉ク倒レ其方向多ク北二十度西、稀ニ南二十度東ナリ、岡ノ島津治郎邸ノ一家屋ハ土臺ニ房州石ヲ用ヰ土臺石ノ高サ五米ナリ、地震ノ爲メ土臺石ハ半折シ上部ハ家屋ト共ニ北十五度西ノ方向ニ約二米偏位シ家根ハ通路ヲ被覆シ其下ヲ通行

シ得ヘシ

土地ノ隆起　金谷海岸ニ於テ地震後約五尺(或ハ五尺六寸トモ云フ×一・五米)隆起セリ

鳴動　南五十度西

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ砂岩及角礫岩ヨリ成リ角礫岩ハ主トシテ鋸山ノ頂上ヲ構成ス、第三紀層ハ鋸山ノ北ニ於テハ東西、東北東或ハ西北西ニ走リ南方四十度内外ニ傾斜シ、南ニ於テハ北方五十度乃至六十度ニ傾斜シ鋸山ノ頂上ハ其向斜軸ニ該當ス、冲積層ハ砂及粘土ヨリ成リ湊川及芝崎川流域ニ發達ス、中臺ハ湊川河水面ヨリ七、八米高キ臺地上ニアリテ地質ハ上部三米ハ砂、其下ハ粘土ニシテ第三紀層マテ到達スルニハ尚幾多ノ距離アルヘク中臺ノ倒潰家屋多カリシハ冲積層ノ厚キニ由リシモノナルヘシ

(六)安房郡

湊村

死傷並家屋被害　人口二八三一、死傷者ナシ、戸數六一九、倒潰家屋ナシ

被害ハ僅ニ屋根瓦ヲ破損セシニ過キス

水井ノ變化　井戸ハ深サ三米乃至七米ニシテ概シテ減水ス

裂罅　内浦川ノ沿岸縣道ニ道ヲ横キリ南北ニ幅〇・一五米ノ裂罅生シ川ニ向ケ約〇・三米陷落ス

裂罅ヨリハ水ヲ噴出セリ

土地ノ隆起　海岸ニ於テ約三尺(一米弱)ナリ

鳴動　南七十度西

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ主トシテ頁岩ヨリ成リ砂岩ノ薄層挾在シ小湊附近ニ於テハ北六十度東ニ走リ北西十度内外ニ傾斜シ大風澤ノ西ニ於テハ北二十度東ニ走リ西北西十度内外ニ傾斜ス、冲積層ハ内浦川ノ流域ニ發達シ砂及粘土ヨリ成ル

天津町

死傷並家屋被害　人口六九一三、死傷者ナシ、戸數一四〇七、倒潰家屋ナシ

住家ニ倒潰ナク非住家ニ半潰二戸アリ、被害程度僅少ナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ十二、三米ニシテ増水或ハ減水シ又斷水セシモノ少ナカラス

土地ノ隆起　三尺(一米弱)ナリ

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ實入附近ニテハ北五十度東ニ走リ北西十度ニ傾斜シ、濱荻ニ於テハ北四十度西ニ走リ北東三十度ニ傾斜ス、冲積層ハ砂及粘土ヨリ成リ砂田ノ海岸ニハ沙丘發達ス

鳴動　南三十度西

東條村

死傷並家屋被害　人口三五〇〇、死傷者ナシ、戸數六七〇、住家全潰一戸

被害輕微ニシテ松崎川ノ沿岸廣場ニ於テ崖崩レノ爲メ一戸全潰セリ、浦ノ脇、仲原、入塚等ノ平地ニ於テハ土藏ノ壁ヲ落下セシモノアレトモ家根瓦ヲ落下スルニ至ラス

井水ノ變化　井水ハ深サ三米乃至六米ニシテ地震當時混濁ス

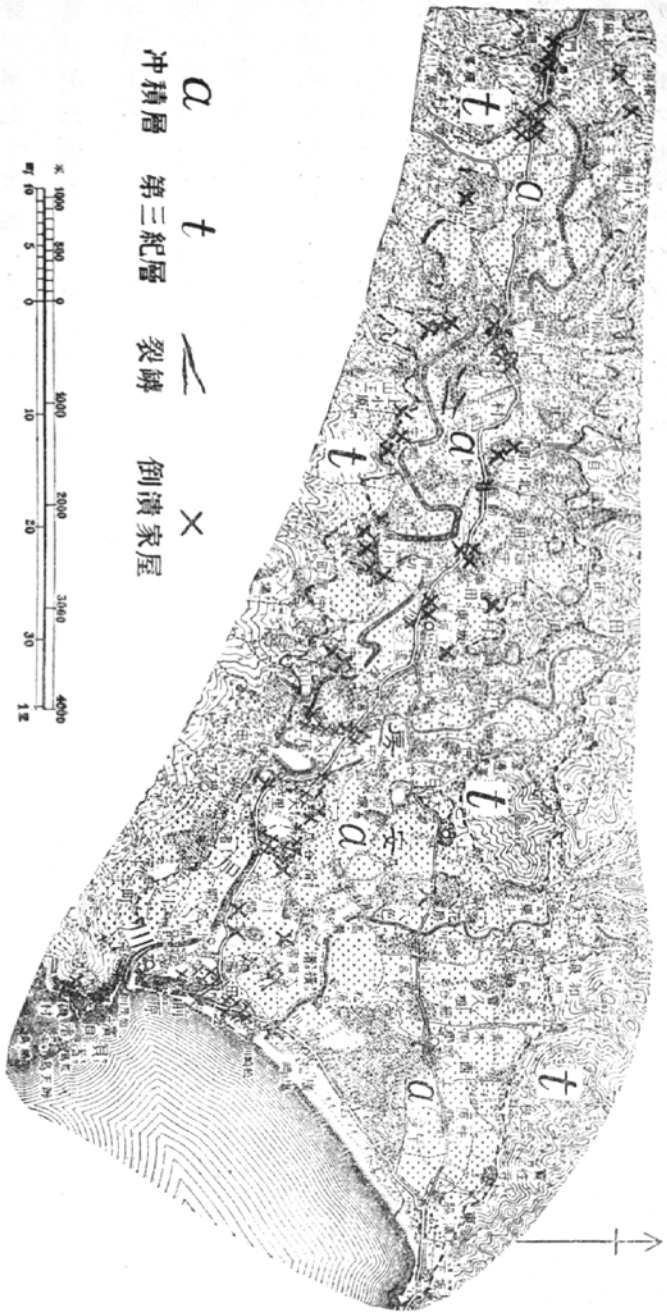
塔石　廣場及浦ノ脇ノ墓石ハ半數以上轉倒シ、左ニ十度乃至五十五度廻轉セルモノ數基アリ

地震　二日正午ノ地震ノ强サハ一日正午ノモノニ劣ラスト云ヒ一日ノ震動ハ南北、二日ノモノハ東西ナリ

鳴動　南三十五度西

地質　北部山地ハ第三紀頁岩ヨリ成リ、其南ノ平地ハ砂及粘土ヨリ成ル

第十三圖



西條村

死傷竝家屋被害　人口一九七、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
西條村	三六五	一三	四五	三・六	一二・四	滑谷	三五	一一	二二	三一・〇	六二・〇
打墨	一五一	二	二三	一・三	一五・二						

非住家全潰五〇棟、半潰五五棟

本村ノ地形ハ東條村ト類似スレトモ被害ハ遙ニ之ヲ凌駕シ、打墨ノ廻塚及滑谷ノ平地ニ大ナリ、

滑谷ニテハ藁家三十戸、瓦家五戸アリシモ瓦家ハ全部倒潰ス

裂罅　金山川睦合橋ノ東二十米ノ間ハ道ヲ横斷シテ南北ニ四、五ノ裂罅アリ、幅〇・一米ナリ、睦合橋ノ東橋脚ノ石垣ハ崩壞墜落セシモ西橋脚ハ木組ナリシヲ以テ破損セス

地質　第三紀層、洪積層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ北部ノ山地ヲ構成シ其南堵段狀平地ノ地下淺處ニハ洪積層伏在シ花房、大日等ノ平地ニハ洪積期粘土露出ス、冲積層ハ砂及粘土ヨリ成リ堵段地ニアリテ厚カラサルモノヽ如シ、被害多カリシ滑谷附近ハ加茂川ノ沿岸ニ當リ砂ヨリ成ル

井水ノ變化　殆ント變化ナシ

地震　一日ノ地震ハ震動長ク一、二戸全潰セシモ二日正午ノ震動ハ急激ニシテ廻塚及滑谷ノ家屋ノ倒潰セシハ實ニ此地震ニ因ル

鳴動　南六十度西

田原村

死傷並家屋被害　人口二七二三、傷者二

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
田原村	四六八	四三	四四	九・一	九・一
坂東	五一	八	九	一五・七	一七・六
押切	一九				一五・八
池田	四〇	三	三	七・五	七・五
京田	三〇		一		三・三
太田原	六三				

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
竹平	六六		三		四・五
川代	七一	二	六	二・八	八・四
太尾	四七	一〇	九	二一・三	一九・〇
來秀	四三	一			
大里	三八	一九	一〇	五〇・〇	二六・三

非住家全潰七七棟、半潰五七棟

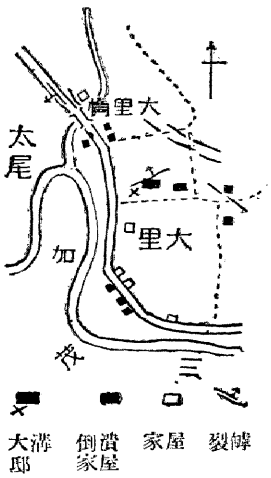
被害區域ハ加茂川ノ沿岸ニシテ坂東、太尾、大里等被害甚タシク倒潰家屋ハ藁家瓦家相半ス

井水ノ變化　井戸ハ深サ四米乃至六米ニシテ地震當時井水黑褐色ニ變シ爾後增加ス、太田原、金山ノ深サ四米ノ三井ハ全部斷水ス

裂罅　太尾大里橋ノ北西、縣道約百米ニ亙リ北西ニ走リ裂罅生シ幅〇・一五米內外ニシテ南西方ニ落下スルコト〇・六米ナリ、大里ノ平地ニハ(第三十一圖)北西方ニ二條ノ裂罅生シ三百米連續シ幅〇・三米內外ナリ、該裂罅ノ南西ニ當リ大溝邸內ニ北東ノ方向ニ裂罅生シ長サ十三米ニシテ北西方ニ一・五米以上落下シ偶其上ニアリシ邸宅ハ北西方ニ傾斜シ大破セリ

地質　加茂川流域ノ平地ハ西ニ次第ニ狹マリ坂東附近ニ於テ幅一粁半ナリ、堦段ハ尙克ク發達

第三十一圖



縮尺一萬五千分ノ一

ス、第三紀頁岩ハ山地ヲ構成シ大原、坂東ノ平地ニハ洪積期ノ粘土露出シ稍堅キ地盤ヲナス、沖積層ハ砂及粘土ヨリ成リ階段上ニ薄ク分布シ又加茂川流路ノ附近ニ發達ス、被害甚シキ太尾、大里ニハ砂層分布ス

地震　一日正午ノ地震ハ南北動ニシテ緩慢ナリ倒潰家屋約三分ノ一ニシテ大里ニテハ全潰家屋二戸ニ過キサリシモ二日正午ノモノハ東西動ニシテ急激ニ襲來シ倒潰家屋約三分ノ二ナリ、大里ノ大部分ハ此地震ニヨリテ倒潰ス

鳴動　南六十度西

主基村

死傷並家屋被害　傷者三

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
主基村	五一五	一九	四四	三・七	八・五	成川	一四五	一	八	〇・七	五・五
北小町	一一〇	六	一三	五・四	二・八	上小原	八〇	三	一	三・七	一・二
南小町	一五〇	四	一四	二・七	九・三	下小原	三〇	五	八	一六・六	二六・六

非住家全潰四〇棟、半潰四五棟

被害ノ稍著シキハ北小町及下小原ニシテ北小町ハ從來克ク震動スルトコロト稱セラレ恰モ小川ノ沿岸ニ位シ、下小原ハ加茂川ノ南方沖積平地ニ位ス

井水ノ變化ナシ

裂罅　北小町小川ノ橋際縣道ニハ路ヲ横キリテ南北ニ四、五ノ小裂罅アリ、玉川ニハ家屋ニ被害少ナカリシモ到ルトコロ小裂罅生シ水ヲ噴出セリ

地質　山地ハ第三紀層、平地ハ洪積層及冲積層ニシテ北小町、南小町縣道筋ニハ洪積期粘土露出ス、玉川ハ砂ヨリ成ル

地震　一日正午ノ地震ニテ全潰セシモノ十五戸、半潰十五戸、二日正午ノ地震ニテ全潰セシモノ四戸、半潰二十九戸ニシテ兩者相匹敵ス

鳴動　南四十度西

吉尾村

死傷並家屋被害　人口三三五〇、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
吉尾村	六三一	一八	三二	二・八	五・一	細野	四五	一		二・二	—
寺門	二四	三	二	一二・五	八・三	松尾寺	八四	二	一五	二・三	一七・八
横尾	四四	—	四	—	九・一	大川面	七五	七	二	九・三	二・六
宮山	八八	—	二	—	二・二	仲	六五	五	七	七・七	一〇・七

非住家全潰一五棟、半潰三二棟

被害區域ハ仲、寺門、松尾寺等加茂川ノ沿岸ニ位シ下流地域ニ於ケルヨリモ被害少ナシ

井水ノ變化　井戸ハ深サ六米乃至十米ニシテ井水ハ當日白濁セシノミナリ

裂罅　坂谷御園橋附近ノ縣道ニ小裂罅生ス

地震　一日正午ノ地震ハ南北動ニシテ之ニヨリテ全潰家屋十五戸アリ、二日正午ノモノハ東西動ニシテ之ニヨリテ全潰家屋三戸アリ

二日正午ノ地震ハ田原村ニ於テ最モ強カリシカ如シ

鳴動　南四十五度西

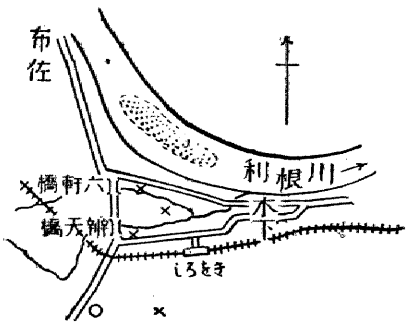
(七)印幡郡

大森町

死傷竝家屋被害　人口三九八〇、死傷ナシ、戸數六二〇、住家全潰ナク半潰三戸、非住家全潰ナク半潰二棟

本町ノ被害ハ輕微ニシテ半潰家屋ハ木下、布佐間縣道筋六軒ニアリテ辨天橋ト六軒橋トノ間ノ平地ナリ(第三十二圖)

第三十二圖



一之分萬五尺縮　半潰家屋　大森町役場

井水ノ變化　井戸ノ深サハ二十米乃至四十米ニシテ當時白濁セシモ漸次復舊ス

裂罅　六軒ノ木下三叉街附近ニ於テ北側ノ四宅地内ニ南北數條ノ裂罅生シ水ト砂トヲ噴出シ水ハ高サ〇・三米ニ噴キ、砂ハ高サ〇・二米堆積セリ、辨天橋ノ北ニハ川ニ沿ヒ約三十米ノ間裂罅生ス、發作縣道約八十米ノ間、路ニ平行シテ北東ニ裂罅生シ南東

方ニ約〇・三米落下ス

塔石　大森長樂寺ノ紀念碑ハ高サ四米ノ花崗岩ニシテ南ニ轉倒ス、六軒ノ煉瓦工場ノ煙突ハ高サ九米ニシテ約半部ヨリ折レ東方ニ轉倒ス

地質　木下町木下附近ノ斷崖ハ高サ二十五米ニシテ上部ハ塵埃ニシテ厚サ十米、其下ニ介殼及砂岩アリテ殆ント水平ニ成層ス、平地ハ冲積層ニシテ六軒附近ハ埋立地ナリト稱ス

地震及鳴動　地震動ハ南北ニシテ鳴動ハ南西ノ方向ニアリ

印幡郡ノ他町村ニ於テハ被害少ナク全潰家屋ナク住家ノ半潰ハ佐倉町一戸、根郷村一戸、白井村一戸ナリ、利根川沿岸ノ堤防ハ上幅四・五米、底幅二十五米、高サ十米内外ニシテ布鎌村地先、布佐町附近ニ於テハ堤防上幅三糎内外ノ裂罅生シタルモノアレトモ著シカラス

(八) 匝瑳郡

匝瑳郡ニ於テハ共興村吉崎ニ古キ酒造庫ヲ住家トセシモノ一戸全潰シ、野田村野手ニ於テ一戸半潰シ他ニ被害ナク土藏完全ナリ

地震動ハ概シテ東西ニシテ鳴動ノ方向ハ西ナリ

(九) 海上郡

被害輕微ニシテ全潰、半潰等ノ家屋ナク裂罅、山崩レ等ノ地變ナシ

(一〇) 香取郡

香取郡ノ被害輕微ニシテ小見川町ニ死傷者各一名、全潰家屋ハ佐原町一戸、新島村一戸、高岡村二戸、滑川町一戸ニシテ何レモ利根川沿岸ニアリ

(一一) 山武郡

東金町

死傷竝家屋被害　傷者六(高等女學校校舍ノ家根瓦墜落ノ爲メ女生負傷ス)戸數一七〇〇住家全潰三戸、半潰一四戸、非住家全潰六棟、半潰七棟

被害區域ハ全部臺方ニシテ臺方ノ戸數百五十ニ對シ全潰百分中二ナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ六米内外ニシテ井水ニ變化ナシ

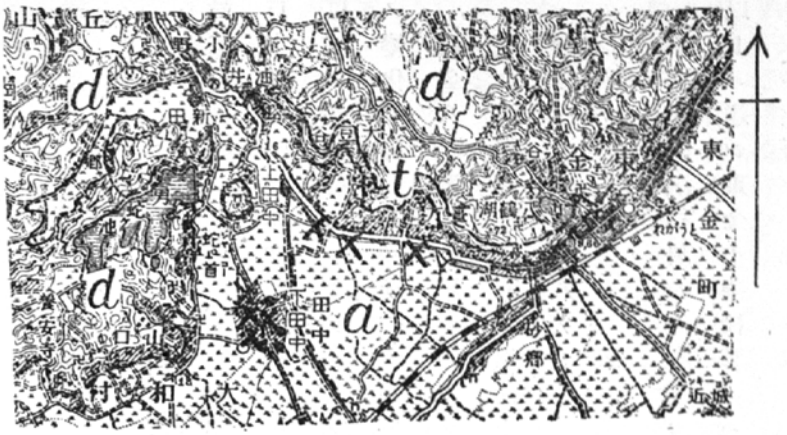
裂罅　東金八鶴湖ノ北岸ニハ道ヲ横切リテ南北ニ數條ノ裂罅アリ幅〇・二米内外ナリ

塔石　東金西福寺ノ墓石ハ頁岩上ニアリテ約四分ノ一轉倒シ其方向南及北相半シ右ニ二十度内外ニ廻轉セルモノ七、八アリ

鳴動　南五十度西

地質　第三紀層、洪積層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ殆ント水平ニ成層シ厚サ五十米以上ニ達シ東金小學校裏ニハ高サ四十米ノ懸崖ニ露出ス、洪積層ハ塵埃ヨリ成リ第三紀層ヲ被覆ス、冲積層ハ平地ヲ構成シ地表下六、七米間ハ粘土ナリ

第三十三圖



a 冲積層　d 洪積層　t 第三紀層　× 倒潰家屋　● 半潰家屋

縮尺五萬分之一

丘山村

死傷者ナク全潰家屋一戸ニシテ被害輕微ナリ

井水ニハ變化ナシ、裂罅ハ小野ヨリ瀧ニ至ル新設縣道中田地ヲ埋立テシ部分約六十米ニ亙リ二米沈下ス、其他小野ヨリ男蛇ケ池ニ至ル里道ニ小川ニ平行シテ小裂罅アリ

大和村

死傷竝家屋被害　人口二一九五、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
大和村	四三九	二	八	〇・四	一・八
下田中	四〇	一	六	二・五	一五・〇
小西	六〇	一	一	一・六	一・六
福俵	一五〇	—	一	—	

被害ハ下田中ノ部落ニ最モ甚タシク西部溪間ニアル小西ニ於テ稍著シ(第三十三圖)下田中、福俵附近ニハ井戸ナク河水ヲ飲料ニ使用ス、該地ハ上部三、四米ハ砂、其下ニ黑褐色粘土、其下砂ニシテ約二十米ニシテ第三紀層ニ達ス

茂原町

死傷竝家屋被害　人口六四七五、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
茂原町	一三二七	四	四	〇・三	〇・三	鷺巣新田	一五	二	—	一三・三	—
茂原	六〇〇	一	—	—	—	高師	二五〇	一	—		—

非住家全潰八棟、半潰一二棟

家屋ノ被害ハ茂原ニテハ繭買上所瓦平家倒潰シ茂原川ニ沿フ新田ニ於テハ全潰二戸、半潰數戸アリ(第三十四圖)

第三十四圖

井水ノ變化　井戸ハ深サ六米内外ニシテ井水ニ變化ナシ、地質ハ此間砂ニシテ六米下ニハ第三紀層アリ、瓦斯井ハ深サ四百米内外ニシテ三井アリ何レモ變化ナシ

鳴動　南四十五度西或ハ北七十度西

五郷村

死傷竝家屋被害　人口二一二四、死傷者ナシ

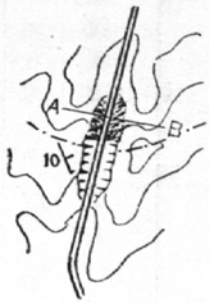
	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
五郷村	四〇〇	三	二八	〇・八	七・〇	綱島	六九	一	一	—	—
早野	一七九	二	二五	一・一	一三・九	中善寺	七九	—	二	—	二・五
八幡原	四三	一	一	二・三	二・三						

被害ハ早野ニ最モ多ク八幡原、綱島ニテハ僅少ナリ、土藏ハ村内六十三アリテ其全部半潰セリ(第三十四圖)

井戸　村内ノ飲料井ハ深サ二十米乃至四十米ニシテ井水ニ増減アリ、灌漑用井ハ深サ三百米内外ニシテ變化ナシ、早野ニ於テハ井戸ハ深サ六米内外ニシテ一時混濁セシノミナリ

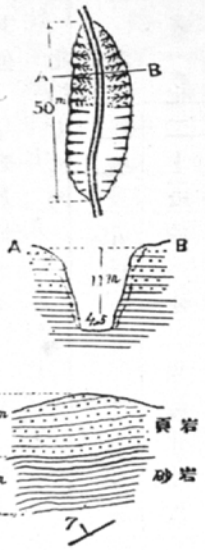
崩壞　五郷村ヨリ鶴枝村ニ至ル陸田坂ノ切割ハ南北ニ長ク幅四・五米、高サ九米、長サ八十米ニシテ灰色頁岩ヨリ成ル、中北ノ四十米ハ切割ノ兩側上部ヨリ崩壞シ通路ヲ埋沒セリ(第三十五圖)、頁岩ノ地表ニ近キ分解セル部分ハ地震ノ爲メ切割ニ平行シテ裂罅生シ崩壞セルモノナリ、綱島ノ一宅地ノ砂層中ニ裂罅生シ噴水セリト云フ

第三十五圖



崩壞セル部

第三十六圖



塔石其他　早野眞崎ノ墓地ニ於テ五個ノ墓石中ニハ左ニ五度內外廻轉スルモノアリ

鳴動　北四十度西

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ灰白色頁岩ヨリ成リ二枚介化石ヲ埋藏シ陸田坂峠ニテハ北二十度西ニ走リ東北東十度ニ傾斜ス、平地ヲ構成スル冲積層ハ砂及粘土ヨリ成リ早野ニ於テハ砂ノ厚サ二十米內外ニシテ下ニ第三紀層アリ

鶴枝村

死傷竝家屋被害　人口三一四七、死傷者ナシ

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
鶴江村	五四〇	七	五	一・三	〇・九	三ヶ谷	九四	一		一・〇	
上永吉	八六	六	三	七・〇	三・四	立木	八四		二		二・三

非住家全潰一三棟、半潰四棟

被害區域ハ鶴枝川ノ沿岸ニシテ上永吉ノ五鄕、東兩村道ノ道路兩側部落最モ甚タシク該處ニハ十二三戸軒ヲ列ヘ殆ント全部倒潰ス、該處ハ元鶴枝川ノ流路タリシ所ニシテ盛土シテ家屋ヲ建設セシモノナリト云フ(第三十四圖)

井水ノ變化　平地ニ於ケル井戸ハ深サ十米內外ニシテ變化ナク村役場ノ深サ二百米ノ瓦斯井及上永吉ノ深サ四百米ノ瓦斯井ハ水及瓦斯ノ噴出ヲ休止ス

裂罅　上永吉ノ鶴枝川沿岸ニ四、五百米ニ亙リ川ニ平行シテ略東西ニ裂罅生シ或ハ陷沒シ上永

吉ヨリ村役場ニ至ル里道ニハ浸水セシトコロアリ

崩壞　鶴枝村ヨリ東村ニ至ル西湖坂ノ切割ハ南北ニ長サ五十米、幅四・五米、高サ十一米ニシテ上部ニハ粗鬆ナル砂岩六米、下部ニ五米ノ灰色頁岩露出シ該層ハ北五十度東ニ走リ北西七度ニ傾斜ス(第三十六圖)、該切割中北二十米ノ間上部ノ砂岩ハ地震ニ際シ崩壞シ道ヲ閉塞セシモ崩壞ハ下部ノ頁岩ニ及ハス

塔石　鶴枝小學校前ノ忠魂碑ハ北四十五度西ニ、上永吉ノ忠魂碑ハ南ニ、新堀ノ木鳥居ハ南四十五度西ニ轉倒ス

鳴動　北五十度西

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩及砂岩ヨリ成リ北方ニ傾斜シ砂岩ハ粗鬆、厚サ五米ニシテ地表近ク頁岩中ニ介在シ鶴枝、東村道山路ニ露出ス

東　村

死傷並家屋被害　人口五二二六、壓死者一

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
東村	七一六	二七	四七	三・七	六・五	上芝原	一〇三	一六	一一	一五・五	一〇・七
下豐原	五〇	一	一	一	二・〇	下芝原	一一一	一一	三五	九・九	三一・五

非住家全潰四六棟、半潰二九棟

被害區域ハ芝原川沿岸ニシテ川ト南部丘陵地トノ中間ニ位スル上芝原及下芝原ヲ包括シ郡内

最モ被害多シ(第三十三圖)

井水ノ變化　手掘井ハ深サ八米内外ニシテ井水ノ變化ナク、二百米以上ノ井水ハ一時增加シ上芝原五井中三井斷水シ下芝原ハ不變ナリ

裂罅　埴生川ニ沿ヒ里道八板附近二箇處ニ於テ長サ十五米ノ間北西ニ裂罅生シ川ニ向ヒ約〇・三米落下ス、下芝原すくも橋ノ北西詰里道北西ノ方向ニ約十二米裂罅生シ約〇・八米低下ス

塔石　寺院ノ墓石ハ全部轉倒シ其方向南西多シ

鳴動　北七十度東

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵地ヲ構成シ頁岩及砂岩ヨリ成リ殆ント水平ニ成層ス、冲積層ハ平地ヲ構成シ上部約二米ハ砂ニシテ其下ハ粘土及砂ノ互層ナリ

土　睦　村

死傷並家屋被害　人口五四〇〇、死傷者ナシ、戸數九一二、住家全潰一戸、半潰二戸、非住家全潰二棟、半潰二棟

全潰家屋ハ上之郷、其他倒潰家屋ハ北山田、大谷木等ニアリテ何レモ冲積平地ニアリ

一　宮　町

死傷並家屋被害　死傷者ナシ、家屋ノ全潰、半潰ナク、土藏一棟全潰シ約百棟破損ス

井水ノ變化　井戸ハ深サ五米内外ニシテ水深一・五米ナリ、二、三井ハ砂ノ爲メ多少淺クナリシモ他ハ變化ナシ

塔石　約三分ノ一轉倒セシモ其方向明カナラス

地震　震動方向ハ北東、南西ニシテ鳴動ハ北或ハ西方ヨリ聞ユ

（一三）夷隅郡

長者町

死傷並家屋被害　人口三一五〇、死傷者ナシ、戸數六六五、住家全潰一戸、非住家全潰五棟、半潰一七棟

全潰家屋ハ江場土ニ一戸アリシノミナリ、家根瓦墜落シ、壁ノ振落セラレシ等被害ノ比較的多カリシハ三門（ミカド）ニシテ鐵道線路ト丘陵地トノ中間ニ位スル冲積平地ナリ

井水ノ變化　三門附近ノ井戸ハ深サ五米内外ニシテ長者町附近亦之ニ同シ、地震當時井水一時混濁セシモ漸次復舊ス

裂罅　三門中島ノ所謂將源淵ノ堤防ハ高サ三米、幅六米ニシテ堤防上約八十米ニ亙リ東北東ニ裂罅生シ或ハ二米内外陷落セリ、該處ハ五、六年前洪水ニテ決潰セシモノヲ修理セシモノナリ、江場土ニ於テ數年前洪水ニテ缺處ヲ生シ路ハ修理セラレシモ今次ノ地震ニテ修理セシ處ハ沈下シ缺處ハ其爲メニ充塡セラルヽニ至レルトコロアリ、和泉浦ノ沙濱上ニ於テハ略南北ニ裂罅生シ噴水セリ、其後海水ハ該沙濱ヲ越シテ夷隅川ニ到達スルコトアルニ至レルヲ以テセハ該沙濱ハ多少低下セシモノヽ如シ

塔石　寺院ノ塔石、墓石ハ其小ナルモノ多ク轉倒セリ、其割合五分ノ一内外ナリ

鳴動　南三十度東

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵地ヲ構成シ頁岩ヨリ成リ、冲積層ハ平地ヲ構成シ粘土及砂ヨリ成リ地表ニハ一米ノ粘土アリテ其下六、七米ハ砂ナリ

中根村

死傷並家屋被害　人口二六二九、傷者二、戸數四九〇、住家全潰ナク、半潰五戸、非住家全潰七棟、半潰四棟

被害ノアリシハ夷隅川沿岸ノ押日、東中瀧、嘉谷等ニシテ中央部ニハ被害甚タ少ナシ

井水ノ變化　井水ニハ變化少ナシ、中瀧大内邸ノ井水ハ深サ十三米内外ニシテ水深十二米内外アリ舊時酒造ニ用ヰラレシモノナリト云フ、地震後二、三日ニシテ湧出量增加シ十五、六日間繼續シ、後三日休止シ再ヒ湧出量增加セシモ二、三日ニテ漸次復舊セリ、想フニ該地ハ砂層深クシテ地震ニヨリテ帶水層攪亂ノ結果一時增水シ漸次復舊セントセシ時ニ更ニ地震ニヨリテ攪亂セラレシモ復舊速カナリシモノナルヘシ、水溫ハ地震前ニ比シ著シク寒冷ナリト云フ

裂罅　四堰小川ノ小堤防約二百米ニ亙リテ北東、南西ニ裂罅生シ南東方田面ニ向ケ低下スルコト〇・三米ナリ、嘉谷ニ於テ夷隅川ニ沿フ里道ニ北西ノ方向ニ裂罅生シ川ニ向ケ決潰スルコト長サ約五十米ナリ

塔石　墓石ノ轉倒少ナシ

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ丘陵地ヲ構成スルノミナラス、部田附近平地ノ基盤ヲ構成シ部田附近ニ於テハ地表ニ露出スルノミナラス地下一、二尺ニハ頁岩ノ伏在スルアリ、中瀧、堀込附近ノ夷隅川沿岸ニハ頁岩中介層挾在シ北々東ニ緩斜スルヲ見ル、冲積

層ハ夷隅川沿岸押日ノ下流ニ於テハ厚キカ如キモ部田附近ニ於テハ砂ヨリ成リ厚サ一、二米乃至五米ニシテ下部ニ第三紀層ニ到達ス

吉澤村

死傷並家屋被害　死傷ナク戸數六百五十三中全潰セシ家屋ナク、大破セシモノ十六戸アリ、其區域ハ夷隅川沿岸ノ下通及支流沿岸ノ勝間附近ナリトス

井水ノ變化　井水ハ一時白濁セシモ漸次復舊ス

裂罅　著シキモノナシ、夷隅川ノ下底ニハ第三紀層露出シ沿岸ニハ厚サ二米乃至四米ノ砂層アリ、砂層ハ地震ニ由リテ崩壞シ其上ニ繁茂セシ竹林、杉森等ノ川中ニ墜落シ河流ヲ阻止セシトコロ少ナカラス

鳴動　南五十度西

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ頁岩ヨリ成リ丘陵地ヲ構成シ笠拔ノ西方ニ於テ北七十度東ニ走リ北々西四度ニ傾斜ス、夷隅川及支流ノ谷底ニハ本層露出ス、冲積層ハ平地ヲ構成シ粘土及砂ヨリ成リ其厚サ四、五米ナリ

千町村

死傷並家屋被害　人口三五〇三、傷者一

	戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率		戸數	全潰住家	半潰住家	全潰百分率	半潰百分率
千町村	六一〇	四	二	〇・六	〇・三	新田	二五	一	四	四・〇	一六・〇

吹良	六〇	三	五	五・〇	八・三

非住家全潰一棟、半潰四棟

被害區域ハ夷隅川流域ニシテ更ニ其沿岸ニ於ケルヨリモ支流沿岸ニ多シ、倒潰セル家屋ハ多ク藁家ナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ四、五米ニシテ變化ナシ

塔石　新田榮新寺ノ共同墓地墓石ハ百基中約三分ノ二轉倒シ其方向南方多ク西方之ニ次ク

鳴動　南四十度西

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ主トシテ北部丘陵地ヲ構成シ主トシテ灰白色ノ頁岩ヨリ成リ厚サ一米内外ノ介層ヲ介有シ北方ニ四、五度傾斜ス、本層ハ又夷隅川沿岸ニ露出セルヲ見レハ平地ノ冲積層ノ下ニハ淺キ處ニ本層ノ伏在スルモノアルヘシ、冲積層ハ平地ヲ構成シ砂及粘土ヨリ成ル

國吉町

死傷並家屋被害　人口三一九九、死傷者ナシ、戸數六三四、住家全潰三戸、半潰四戸

本町ハ夷隅郡中最モ被害大ナリ

住家ノ全半潰ハ苅谷ノミニシテ全潰一分五厘、半潰二分ノ割合ナリ、其他破損家屋ノ多キハ夷隅川ニ沿フ樂町附近ナリトス

井水ノ變化　井戸ハ深サ四米乃至七米ニシテ水量ニ多少ノ增減アリ

裂罅　夷隅川ニ架セル苅谷橋西詰ノ縣道ハ橋脚破壞セシヲ以テ道ヲ横キリ南北ニ裂罅生シタ

リ、該處ハ水力電氣工事ノ鐵管ヲ埋沒セシ處ニシテ地盤軟弱ノ爲メ崩壞セシナリ

塔石　苅谷寶勝院ノ墓石ハ約五百中百轉倒シ、八十ハ東方、二十ハ西方ナリ、同寺院内約十墓石ハ左ニ十度内外廻轉ス

鳴動　南四十度西

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ夷隅川東及南ノ丘陵地ヲ構成シ、冲積層ハ夷隅川西及北ノ平地ヲ構成ス、夷隅川ニ沿フ苅谷及樂町附近ニ於テハ冲積層ハ粘土ヨリ成リ、厚サ七米以上ニ達シ西部中川村近隣ノ平地ニ於テハ塔段ヲ形成シ地下數米ニ第三紀層伏在スルモノヽ如シ、夷隅川東ノ國府臺ニ於テハ冲積層ノ厚サ約四米ニシテ其下ニ第三紀層アリ

中川村

被害極メテ少ナク倒潰セシモノナシ

地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵地ヲ構成スル外平地竝ニ夷隅川河底ニ露出シ波狀褶曲ヲナスモノヽ如ク引田ニテハ南西七度ニ、增田ノ西ニ於テハ北東五度ニ傾斜ス、冲積層ハ粘土及砂ヨリ成リ引田ノ東及增田附近ニ於テ塔段ヲ形成ス

大多喜町

住家ノ被害僅少ニシテ半潰三戸ニ過キス、土藏、納屋等ノ全潰三棟、半潰十七棟ナリ、被害地ハ夷隅川ニ臨メル大多喜及上原ナリ

塔石　大多喜櫻谷寺ノ墓石ハ五十中約二分ノ一轉倒シ三墓石ハ左ニ五度乃至三十度廻轉ス

鳴動　北七十度西

御宿町

死傷並家屋被害　人口五三三七、死傷者ナシ、戸數九六九

全潰家屋ナク家根瓦ノ墜落セシモノ十五戸アリ、土藏、物置ノ破損セシモノ二十五戸アリテ多ク新町附近ナリ、池田水産乾燥工場ハ煉瓦平家ナレトモ龜裂サヘ生セス、破損ナシ

井水ノ變化　海岸砂地ノ深サ七米内外ノ井戸ハ概シテ增水シ丘陵ニ近キ井戸ハ減水ス

塔石　妙音寺門前ノ石塔ハ左ニ三十五度廻轉シ、門内ノ石地藏ハ南西方ニ轉倒シ、墓地ハ第三紀頁岩上ニアリテ墓石ハ約三分ノ一轉倒シ其方向ハ大部分南方ナリ

裂罅　須賀小川ノ道路約五米龜裂シ、清水川ノ道路約四米決潰ス、妙音寺後ノ第三紀頁岩ヨリ成ル崖ハ小崩壞ヲナス

池田水産乾燥工場ノ煉瓦煙突ハ高サ十六米六(五十五尺)ニシテ頂上ヨリ一米、一・六米及六米(二十尺)ノ三箇處ニ龜裂生シタリ

鳴動　南七十度西

豐濱村

死傷並家屋被害　人口四五〇〇、死傷者ナシ、戸數八二〇

被害少ナク倒潰家屋ナシ

井水ノ變化　井戸ハ深サ五米内外ニシテ增水シ或ハ減水ス

崩壞　村役場東方ノ新官瀬戸縣道ノ懸崖約五十米ノ間崩壞シ崖下ニ岩堆ヲナス

海水ノ變化　初震ト共ニ海水著シク退干シタリ、二日正午ノ地震後モ退干シ後一、二米内外ノ高

サニ來潮シタリ

地質　第三紀頁岩ヨリ成ル、頁岩ハ北五十度乃至六十度東ニ走リ北西五度内外ニ傾斜ス

鳴動　南七十度西、鳴動ノミニシテ震動ヲ伴ハサルコトアリ

勝浦町

死傷並家屋被害　人口六七八六、死傷者ナシ、戸數一三六七

住家ノ倒潰セシモノナク家根瓦ノ一部墜落セシモノ十六戸アリ、被害程度極メテ僅少ナリ

井水ノ變化　井戸ハ深サ十米内外ニシテ地震ノ結果減水セシモノ多シ

崩壞　串濱、松部間隧道北入口懸崖約七十米ノ間崩壞シ縣道ノ交通ヲ一時遮斷セリ

塔石　松部妙潮寺ノ石塔ハ左ニ二十五度廻轉ス

海水ノ變化　一日初震後海水退キ後大潮ト同一程度ニ來潮ス、二日正午地震後小海嘯アリテ平水ヨリ約二米高シ、後約五十分間ニ亙リ五分乃至十分ノ週期ニテ振幅四、五尺、(一・二米乃至一・五米)ノ滿干アリタリ

土地ノ隆起　隆起ハ殆ント之ヲ認メ難キモ銚子測候所勝浦出張所員ハ海岸約一尺(〇・三米)隆起セリト稱ス

鳴動　南七十度西

地質　第三紀層及沖積層ヨリ成ル、第三紀層ハ丘陵ノ大部分ヲ構成シ頁岩及砂岩ヨリ成リ頁岩ハ松部以東ニ發達シ北東ニ走リ北西十度乃至十五度ニ傾斜シ串濱ニテハ砂岩ノ薄層ヲ挾介ス、砂岩ハ船付以西ニ露出シ北五十度乃至六十度西ニ走リ北東五度乃至十度ニ傾斜シ東部ノ頁岩

トハ斷層ヲ以テ境スルモノヽ如シ、冲積層ハ海岸ノ沙濱ヲ構成シ砂ノ厚サ十米内外ナリ

興津町

死傷竝家屋被害　人口五六八九、死傷者ナシ、戸數一〇三三、住家全潰一戸、半潰一七戸

全潰家屋、ハ興津鍛冶工場ニシテ半潰ハ興津ノ土藏造リ住宅ナリ

井水ノ變化　興津附近ニハ井水ニ變化ナキモ大澤、厩ケ臺等ノ被害殆ント無キ處ニ於テハ井戸ハ深サ七米内外ニシテ殆ント全部斷水セリ

裂罅　興津駐在所及妙覺寺門前ニハ北七十度東ニ走リ長サ三十米ニ亙ル裂罅數條生シ幅〇・一米内外ニシテ地震當時噴水セリ

塔石其他　妙覺寺ノ墓石ハ五、六百中約七十轉倒シ其方向西方多シ、又約百墓石ハ左廻轉ヲナシ其角度三十度乃至六十五度ナリ、守谷清海工場長宅ノ門柱ハ左ニ五度廻轉ス、清海工場ノ高サ八十尺(二十四米)ノ煉瓦煙突ハ頂上三尺ニテ龜裂生シテ二分シ一ハ東方ニ、一ハ西方ニ墜落ス

崩壞　鵜原西隧道ノ入口、行川西隧道ノ入口、安房郡境界附近海岸ニ小山崩レアリテ縣道ヲ破壞セリ

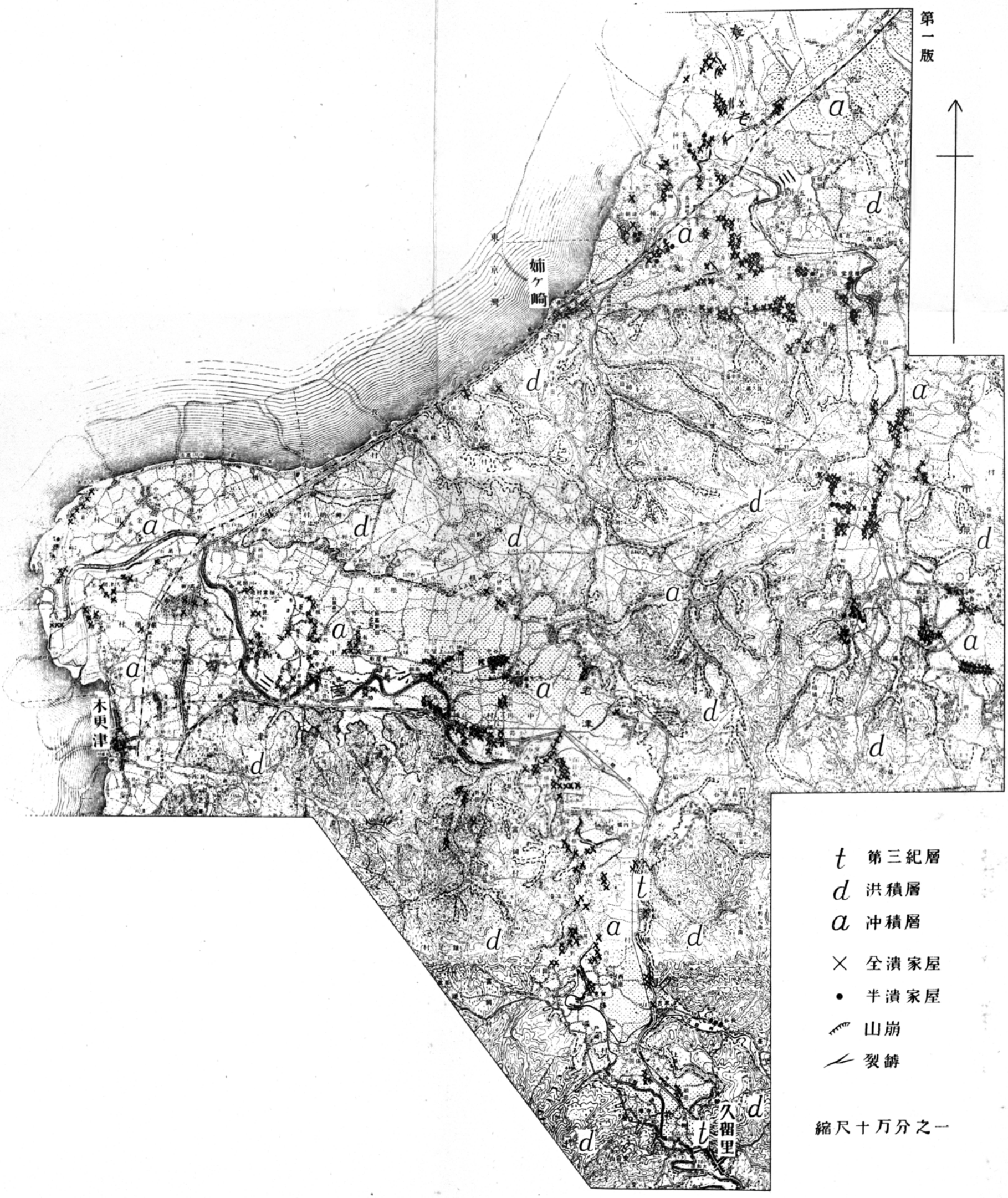
海水ノ變化　二日午後一時海水退干シ後約二米ノ高サニテ來潮セリ

土地ノ隆起　約二尺(〇・六米)

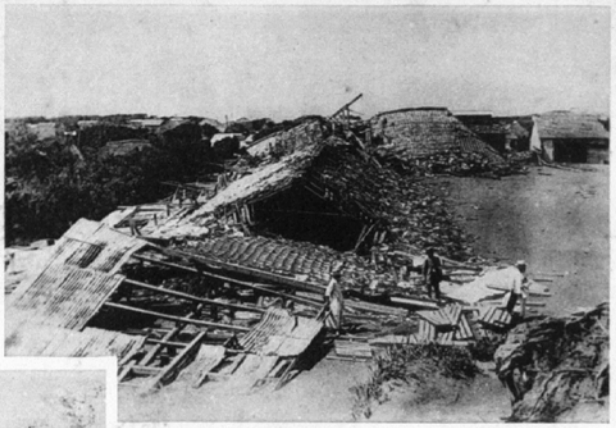
地質　第三紀層及冲積層ヨリ成ル、第三紀層ハ砂岩及頁岩ヨリ成リ砂岩ハ勝浦町ヨリ連續シテ鵜原附近マテ發達シ北六十度西ニ走リ北東五度ニ傾斜シ尙興津、守谷間ニモ頁岩中ニ約百米ノ厚サヲ有シテ介在ス、頁岩ハ鵜原、守谷間、興津以西ニ發達シ興津附近ニテハ北七十度西ニ走リ北

東十度内外ニ傾斜スレトモ大澤附近ニテハ水平トナリ西部安房郡境界附近ニテハ北東ニ走リ北西十度乃至十五度ニ傾斜スルニ至ル、冲積層ハ海岸ニ沙濱ヲ構成ス、駐在所附近ノ裂罅ヲ生シタル處ハ第三紀層ニ接シタル冲積層地ナリトス

鳴動　南六十度西


第一版
姉ケ崎
木更津
久留里
t 第三紀層
d 洪積層
a 沖積層
× 全潰家屋
• 半潰家屋
山崩
裂罅
縮尺十万分之一

第一圖



君津郡大貫小學校校舍ノ倒潰

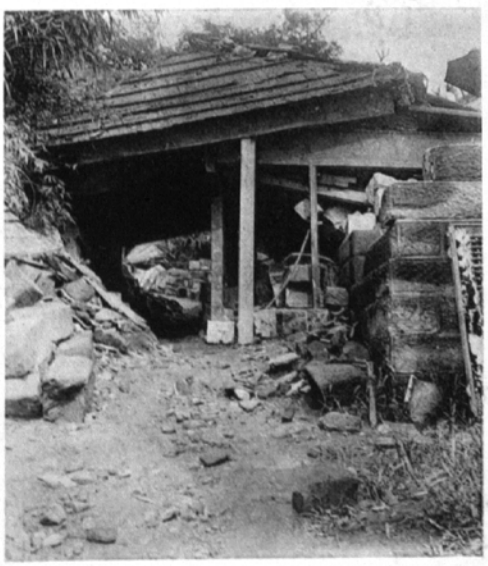
第三圖

君津郡湊村醬油店煙突ノ倒潰

第二圖

君津郡佐貫町家屋ノ倒潰

第四圖



君津郡金谷村岡家屋ノ轉位

第一圖

君津郡姉崎町養老町道路ノ罅裂

第二圖

君津郡中川村大鳥居附近電柱ノ傾斜

第三圖

君津郡青堀村役場前道路ノ罅裂

第四圖

君津郡竹岡村白狐橋側ノ罅裂

第四版

第一圖

市原郡東海村二十五里道路ノ陥没

第二圖

君津郡湊町湊濟寺墓石ノ九十度廻轉

第三圖

君津郡中川村横田附近小櫃川岸ノ地滑リ

千葉市附近地震調査報文

千葉市附近地震調査報文

目次

一　位置及交通……一七一頁
二　地勢及地質……一七一頁
三　震災……一七二頁
(一)登戸附近ノ地災地……一七二頁
(二)千葉驛及綿打池附近……一七四頁
(三)出洲及寒川埋立地……一七七頁
(四)鐵道線路……一七七頁
(五)東金縣道……一七九頁
(六)建築物……一八〇頁
(七)都川沿岸……一八一頁
(八)千葉刑務所ノ震災……一八一頁
(九)井水ノ異狀……一八二頁
(一〇)墓碑……一八四頁

千葉市附近地震調査報文

農商務技師　清野信雄

一　位置及交通

千葉市ハ東京灣ノ北東隅ナル袖ケ浦ニ臨ミ東京府廳ヲ距ル東方四十一・五粁ニ位シ戸數五千六百四十四、人口三萬五千八百六十六ヲ有シ千葉縣廳、千葉郡役所等アリ

道路ハ袖ケ浦海岸ニ沿ヒ東京ニ通スル國道及南方北條、東方佐倉、南東東金ニ至ル各縣道ヲ主要ナリトス、又東京銚子ヲ連絡スル總武鐵道ハ市ノ北部ヲ通シ房總鐵道ハ千葉驛ヨリ分岐シ海岸ニ沿ヒテ北條ニ至リ、京成電車ハ總武鐵道ニ平行シテ千葉東京ヲ連ヌ、其他陸軍用輕便鐵道アリ

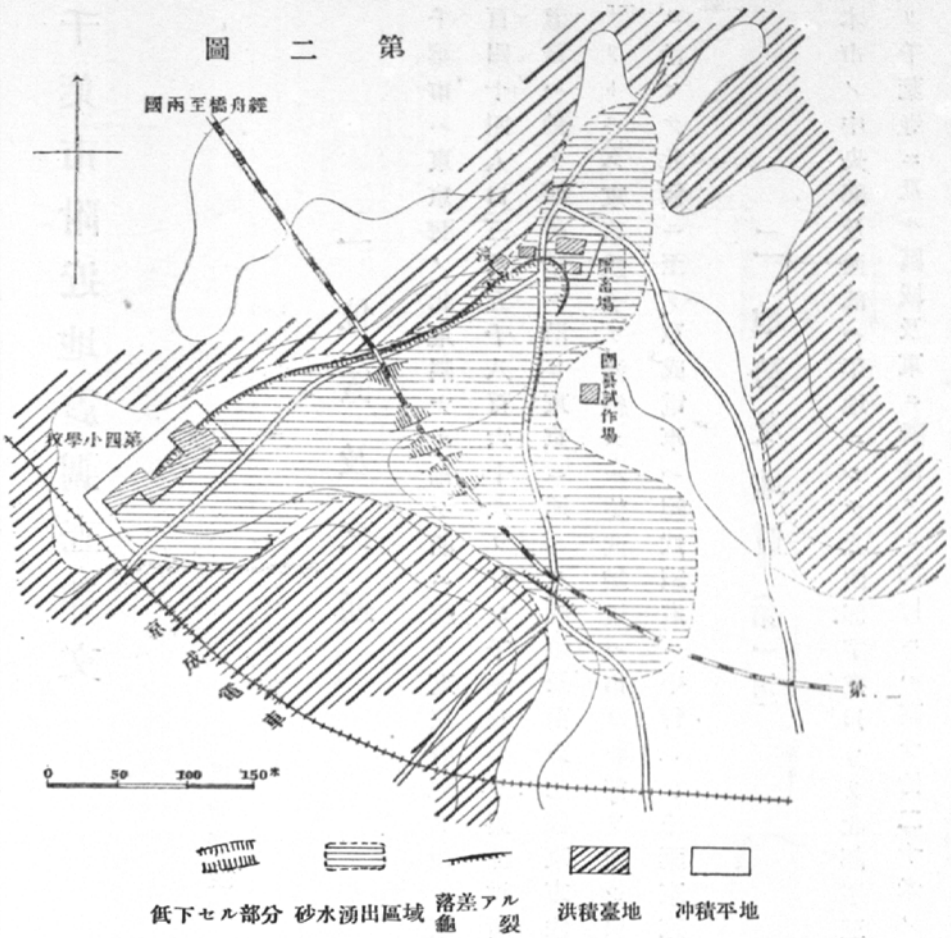
二　地勢及地質（第一圖）

本市ノ中央部及西部ハ平地ニシテ北西部字登戸（ノブト）ヨリ北部字三軒屋ニ亙ル區域、南東部猪鼻臺ヨリ千葉寺ニ亙ル區域及東ニ隣接スル都村ニハ高サ約二十米ノ臺地發達ス、河流ニ都川アリ本市ノ中央ヲ西ニ流レ後南折シテ海ニ入ル、河口ニ出洲及寒川（サンガハ）埋立地アリ

地質ハ洪積層及冲積層ナリ、洪積層ハ臺地ヲ構成シ砂及壚埴ヨリ成リ略水平ニ成層ス、砂ハ厚サ

三米以上ニシテ黄褐色ヲ呈シ往々僞層ヲナシ又粘土ノ薄層ヲ挾有ス、墟埒ハ砂ヲ被覆シ厚サ三米乃至六米、登戸附近ニ於テハ墟埒ヲ被覆シ暗灰色ノ砂發達シ厚サ西部ニ厚ク五米ニ達シ東部ニ漸次薄ク椿森ニ於テハ之ヲ缺ク、冲積層ハ粘土及砂ヨリ成ル

第二圖



三 震災

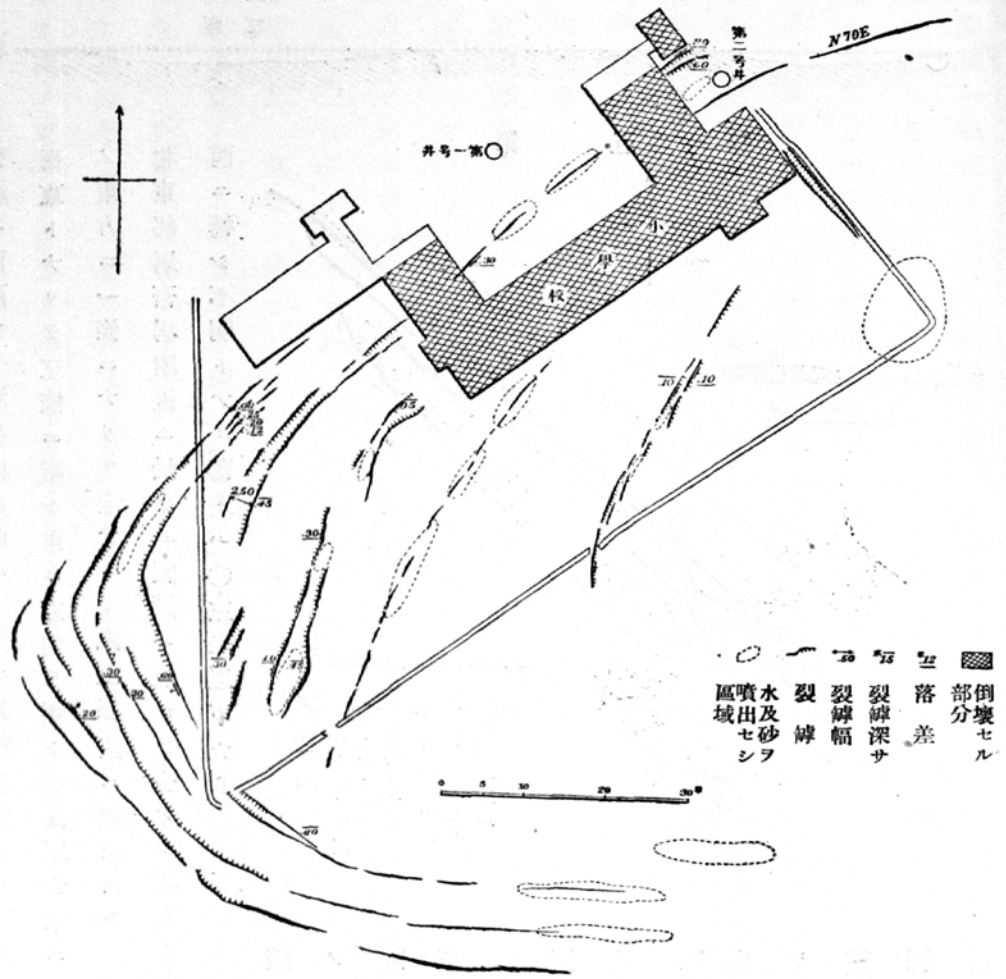
地震ニヨリ登戸附近、千葉驛及綿打池附近、出洲及寒川埋立地、東金縣道及總武鐵道線路ノ處々低下シ、又都川沿岸崩壞シ其他建築物及塀ノ倒壞セシモノアリ、屋根瓦、壁ノ剝脫セシモノ尠カラサルモ被害ハ概シテ少ク千葉市役所ノ調査ニヨレハ家屋全潰三、半潰九、小破六、土藏又ハ物置全潰六、半潰一、小破三十五、學校全潰一ニシテ死者二、傷者七ヲ出セリ

(一)登戸附近ノ地災地　ハ臺地中

第一圖

縄打池
千葉刑務所
千葉神社
本円寺
千葉大学
都川
寒川
地立埋先地川寒
出洲
亀裂
砂水湧出口
全潰家屋
半潰家屋
比例尺
0 100 200 300 400 500 600

第三圖



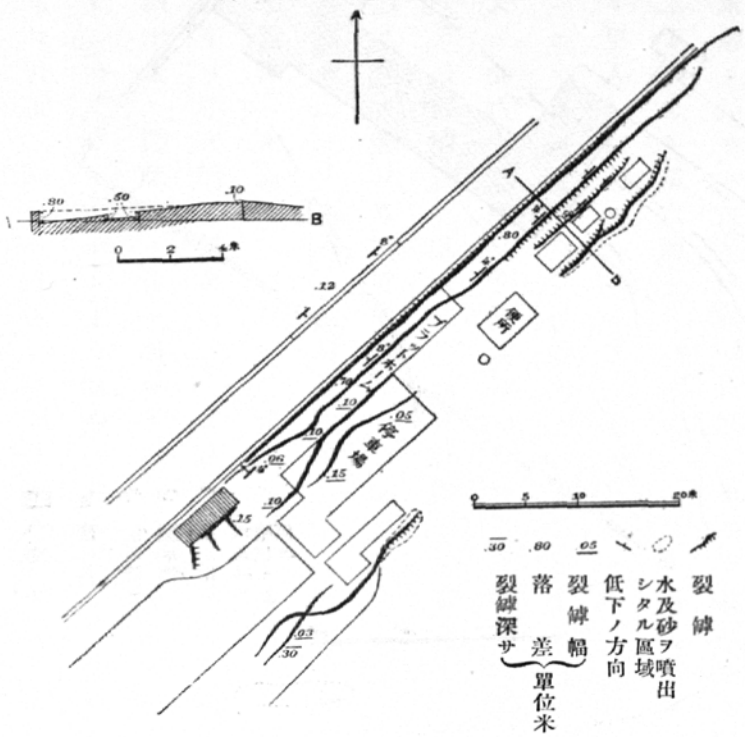
ニ丁字形ヲナシ東西五百米、南北三百米ノ窪地ニシテ南方ニ漸次低下ス、本區域ハ安政ノ地震ニモ激震アリシト云フ、其北西部ニ小學校(千葉市立尋常高等小學校第四部)北東部ニ屠畜場アリ、中央ヲ南北ニ總武鐵道貫通ス(第二圖)

裂罅ハ北西部小學校舍附近ニ最モ多ク十二條北東—南西ニ略竝走シ其幅三十米アリ、各條ハ幅〇・一五米乃至〇・五米、延長十米乃至五十米、落差〇・九米ニ達ス、其結果校舍ハ裂罅ノ外方ニアリシ一部ヲ除キ大部ハ倒壞シタリ(第三圖)

第四圖

縮尺一千分ノ一

第五圖



裂罅ハ南西ヨリ漸次南ニ曲ルト共ニ其數及落差ヲ減シ遂ニ五條トナリ、次テ北西―南東トナリテ三條ニ減シ東ニ方向ヲ變シ延長三十米ニシテ不明トナル、裂罅ハ校舍ノ東方ニ一條ニナリテ連ナルモ鐵道線路ニ達セスシテ不明トナル

北東部屠畜場附近ニ於テハ裂罅ハ概シテ少ナク北西―南東ヨリ南北トナリ更ニ南西ニ轉シ不明トナル、落差ハ〇・三米以下ナリ

鐵道線路土手ハ延長百十二米ノ間ニ北ヨリ十二米及七米ヲ隔テ四十八米、十五米、三十米ノ三區域低下シ各中央部ニ於テ〇・三米、〇・二五米、〇・三米ニシテ漸次兩端ニ減少セリ(第四圖)

本區域ハ南部ニハ裂罅ヲ認メサルモ水ト共ニ砂ノ噴出セシ處頗ル廣ク其區域ハ附圖ニ之ヲ示セリ

(二)千葉驛及綿打池附近　千葉驛上リ線「プラットホーム」ニ延長六七十米ノ二條ノ裂罅北五

十度東ニ並走シ其間ノ部分ハ北西ニ四度乃至八度傾斜シ、落差中央部ニ於テ最モ著シク〇・七五米ニ達シ爲メニ「プラットホーム」上ノ建物ハ北西方ニ傾斜シタリ、待合室内及其南東方及便所ノ東ニ延長三四十米ノ裂罅生シ其一部ヨリ水及砂ヲ噴出シタリ、又下リ線「プラットホーム」中約三十米ノ部分低下シ中央部ニ於テ約〇・一二米ニシテ兩端ニ減少セリ(第五圖)

綿打池附近ノ震災　本地域ハ綿打池ノ南部ニ位シ東西ニ約五百米、南北ニ約四百米ヲ占メ其北東部及西部ニ高サ二三十米ナル洪積臺地アルノ外冲積平地ナリ、該二臺地間ニ綿打池水ヲ湛ヘ其南部ハ野地ニシテ著シク濕潤ナリトス、陸軍鐵道本地域ノ北部中央ヨリ南西部ニ縱貫ス

龜裂ハ主トシテ道路附近ニ現出ス、其陸軍鐵道ト道路トノ交叉點附近ニ現出スルモノハ主トシテ北十度東又ハ北六十度東ニ走リ數條アリテ其龜裂口ノ幅ハ癒著シテ不明ナルモノアルモ未タ癒著セサルモノニ於テハ〇・〇五米乃至〇・一〇米アリ、深サハ不明ナルモノ多キモ稀ニ〇・五米ナルモノアリ、里人ノ言ニ據ルニ一米ニ達セルモノアリタリト云フ、長サハ鐵道線路ニ沿ヘルモノ最モ長ク二十米アリ(第六圖)

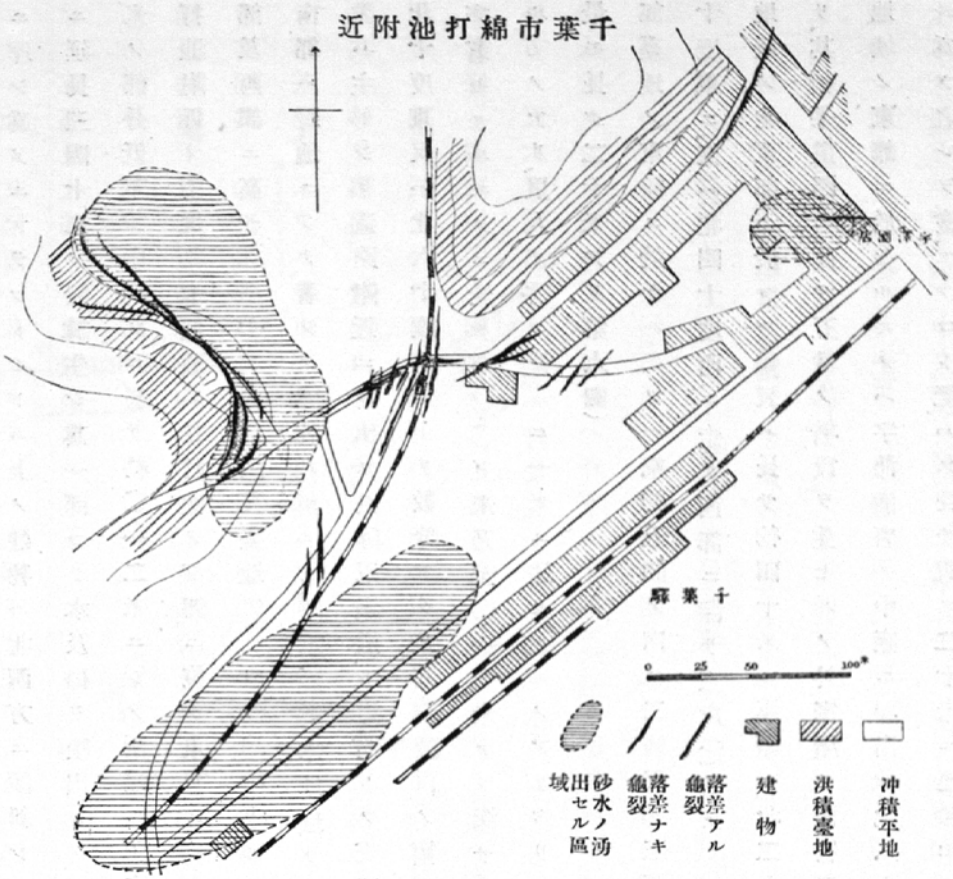
西部臺地ノ東緣ニ於ケルモノハ幅約五間ノ内ニ二條又ハ三條ノ龜裂アリ、該龜裂ハ北十度又ハ四十度東ニ、又ハ北四十度西ニ走リ西部ニ深サ三尺辷落ス

本地域ノ北東部ニ於ケル龜裂ハ長サ約四十米ニ連續シ北二十度東ニ走リ其南東側約五寸辷落セリ、其結果道路ニ高サ五寸ノ階段ヲ生セルノ外家屋ノ被害ヲ認メス

本地域ノ東部ニ於ケルモノハ宇澤酒店ノ中庭ニ現出シ北八十度西ニ走リ其ノ幅ハ龜裂口癒著セル爲メ之レヲ檢スルコト能ハス、長サ概ネ二十米ニ連續セルモノヽ如シ

第六圖

千葉市綿打池附近



本地域內ニ龜裂發生ト同時ニ處々ニ砂水ノ噴出セルモノアリ、其區域ノ主ナルモノハ西部臺地ノ東緣ニ沿ヒ長サ南北ニ約百九十米、幅約六十米ノ區域、本地域ノ南部ニ長サ北東—南西ニ約二百四十米、幅約八十米ノ區域及本地域ノ東部ニ長サ東西ニ約五十米、幅約三十五米ノ區域ナリ、砂水ハ多クハ龜裂ニ沿ヒ又ハ單獨ニ噴出シ約二三十分間繼續セリ

井水ハ西部臺地附近ニ於ケルモノハ掘井ニシテ深サ六間、地下水準面二間ナリ、震後白色ニ混濁シ巡廻當時未タ舊ノ如ク清澄セスシテ使用ニ適セス又水面ノ昇降ヲ認メス

東部平地ニ於テハ井水ハ震後淡褐色ニ混濁シ巡廻當時ニ至ルモ舊ノ如ク清澄セス

之ヲ要スルニ千葉驛ヨリ綿打池ノ北部ニ亙ル冲積平地ハ地盤薄弱ニシテ地震ニ伴ヒ陷沒シタルモノヽ如ク其陷沒ノ甚シカリシハ南部千葉驛附近及西部ニシテ何レモ落差〇・八米乃至一米ニシテ東部及北部ニハ龜裂顯著ナラス

(三)出洲及寒川埋立地　出洲ニ於テハ橢圓形ノ裂罅ヲ生シタリ、其長軸ノ方向ハ北三十度西ニシテ延長約四十五米、短軸延長約二十一米アリ、裂罅ハ北西部ニ於テハ三條、南東部ニ於テハ二條竝走シ其幅共ニ約三米、各條ノ幅〇・三米乃至〇・六米アリテ裂罅間ノ部分ハ外方ニ五度乃至七度傾斜シ落差〇・五米アリ、北東部及南西部ニ於テハ一條ニシテ幅〇・二米アリ、是等裂罅ヨリハ處々ニ水ト共ニ砂ヲ噴出シ噴出口ノ大ナルモノハ長サ〇・三米、幅〇・二米、深サ〇・六米以上アリ

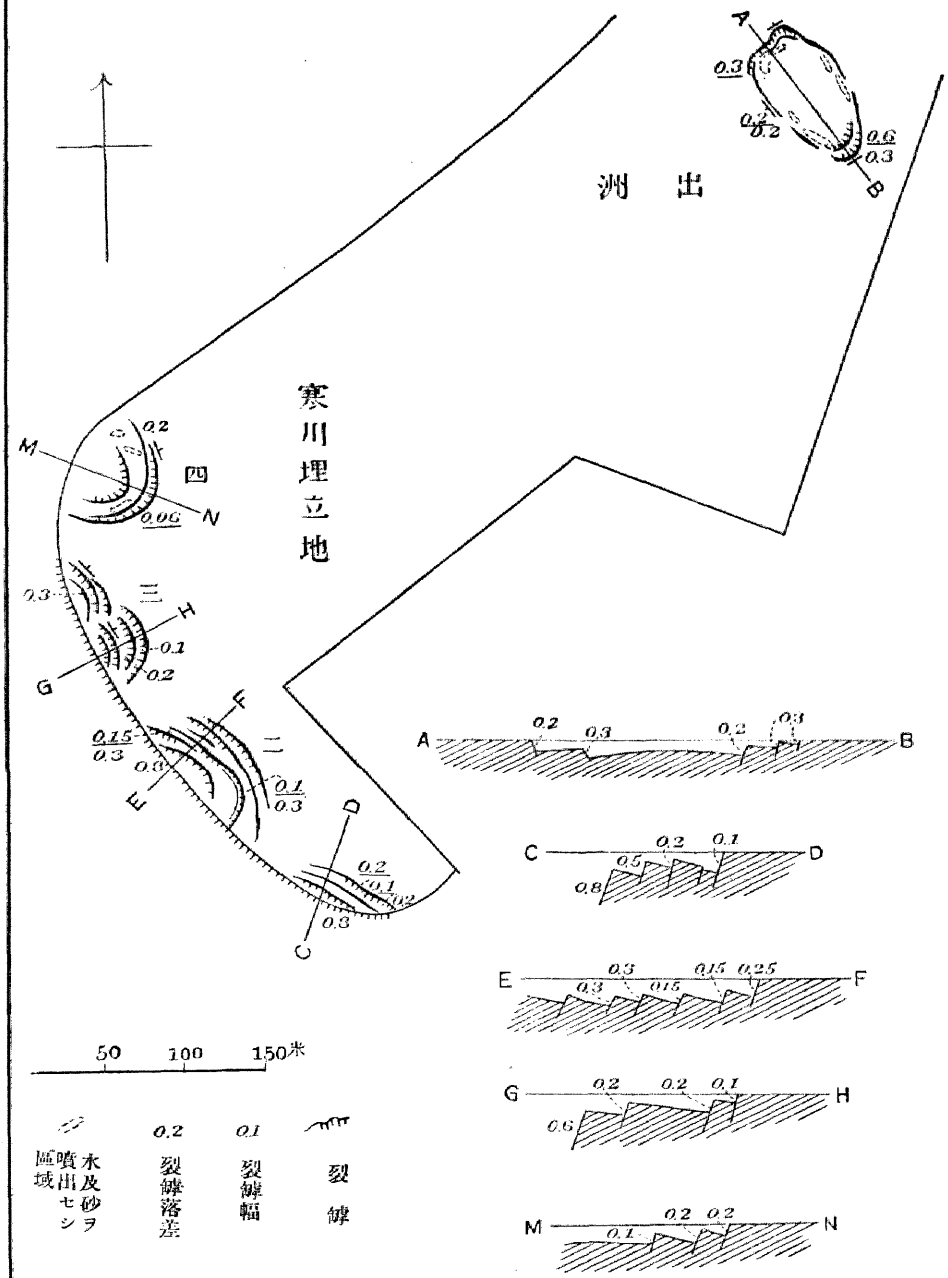
寒川埋立地ニ於テハ外海ニ向ヒ馬蹄形ノ四裂罅アリテ各數條竝走ス、(一)ハ延長二十米、幅七米ニシテ五條ノ裂罅竝走シ內側ノ二ハ落差各〇・八米、外側ノ三ハ落差各〇・一米ニシテ裂罅間ノ部分ハ外方ニ五六度傾斜セリ、(二)ハ延長三十七米、幅三米ニシテ五六條ノ裂罅竝走シ落差ハ〇・三米乃至〇・八米ニシテ裂罅間ノ部分ハ外方ニ緩斜ス、(三)ハ延長三十三米、幅十五米ニシテ四條ノ裂罅竝走シ落差ハ〇・一米乃至〇・二米ニシテ裂罅間ノ部分ハ外方ニ緩斜ス、(四)ハ延長二十一米、幅七米ニシテ三條ノ裂罅竝走シ落差〇・一米乃至〇・二米ニシテ水ト共ニ砂ヲ噴出セシ處アリ(第七圖)

(四)鐵道線路　總武鐵道線路ハ千葉驛ノ北東方ニ於テ北五十度東ニ走リ小川ヲ挾ミ延長三十九米及八米ノ二箇處、軌條ハ舊態ノマヽ土手低下シ前者ハ中央部ニ於テ約〇・六米低下シ漸次兩端ニ減少シ軌條ニ略竝行ニ土手ノ北側ニ一條、南側ニ三條ノ裂罅生シ三四十米連亙セリ、後者ハ約四十米ノ西方ニアリテ中央部ニ於テ約〇・三米低下シ漸次兩端ニ減少セリ、土手ノ兩側ハ水田ニ

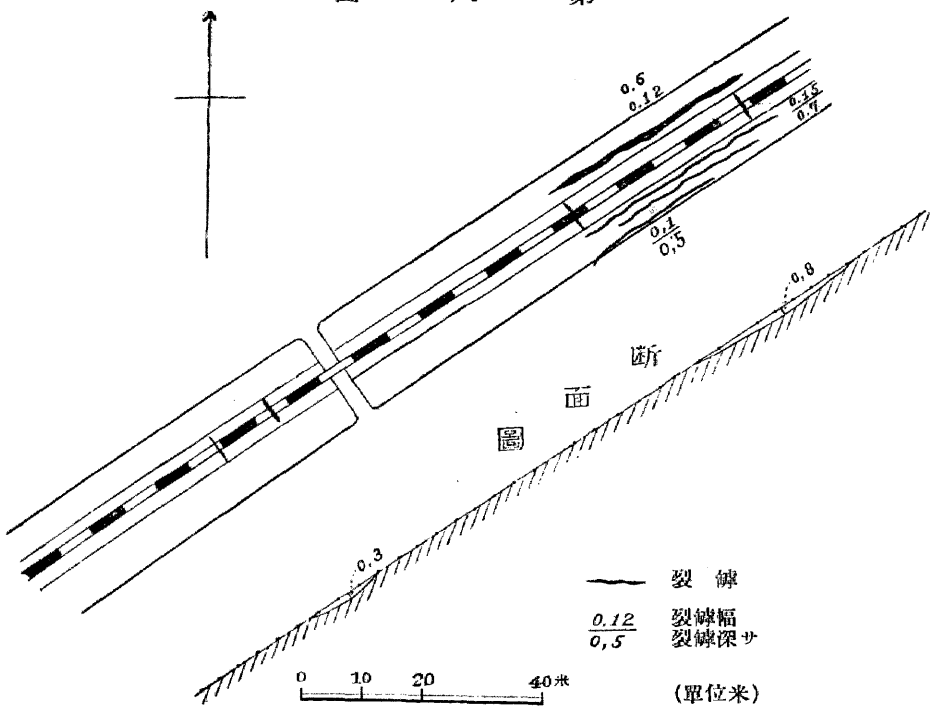
シテ土手ハ之ヨリ高キコト約八米ナリ、其敷設ニ際シ工事困難ナリシト云フ(第八圖)

千葉驛ノ西方八百米ナル登戸ニ於テ總武鐵道線路土手延長四十八米、十五米、二十米ノ三區域ノ

第七圖



第八圖



道路中延長四十米ノ區域低下シ中央部ニ於テ〇・五米ニシテ漸次兩端ニ減少ス、中央部ニ北三十低下シタルコト既述ノ如シ

(五)東金縣道　矢作、和田、邊田前ノ三箇處ニ於テ縣道ノ一部ニ裂罅生シ路面ハ〇・一五米乃至〇・三米低下シタリ、是等ノ區域ハ孰レモ水田ヲ埋立テ改修シタルモノナリ

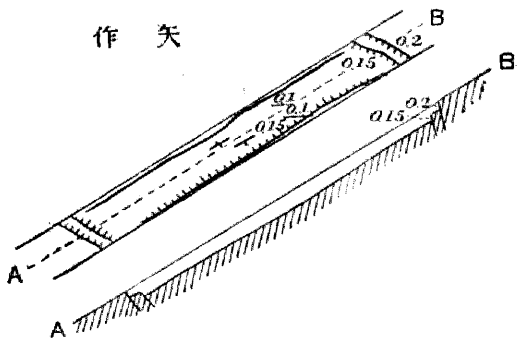
(第九圖)

矢作ニ於テハ道路ノ水田ヲ横斷セル部分ノ延長ハ約六百米ニシテ北六十度東ニ走リ其略中央ニ小川アリ、小川ノ北東方臺地トノ中間延長五十五米ノ部分低下シ中央部ニ於テ最モ多ク〇・六米アリ、其兩端ニハ北四十五度西ニ走ル裂罅生シ孰レモ内方ニ落差〇・二米ナリ、道路ノ兩側ニ各一條ノ裂罅生シ内方ニ〇・一五米低下セリ、裂罅ハ幅〇・一米ノ延長五十五米ナリ

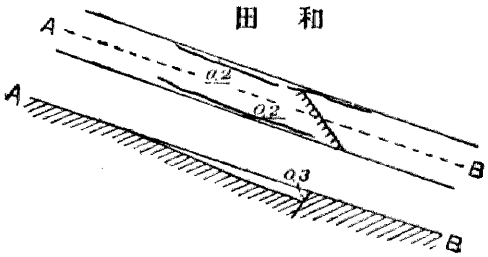
和田ニ於テハ矢作地災地ノ東方六百米、和田部落ノ西方百米ニ北八十度西ニ走レル

第九圖

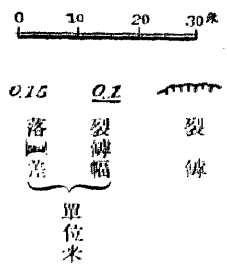
矢作



和田



前田辺



度西ニ走ル裂罅生シ落差西方ニ〇・三米ナリ、道路ノ兩側ニ之ト竝行ニ各一條ノ裂罅生シ幅〇・二米アリ

邊田前ニ於テハ和田地災地ノ東方約百七十米、邊田前部落ノ東方百米ニ北八十度東ニ走レル縣道中延長六十米ノ區域低下シ其東端ニ北五十度西ニ走ル裂罅生シ落差西方ニ〇・三米ナリ、道路ノ兩側ニ之ト竝行ニ各一條ノ裂罅アリ、幅〇・三米乃至〇・五米ニシテ內方ニ落差〇・一五米ナリ

(六)建築物　山丸繭乾燥場ハ千葉驛ノ南方二百米ニ水田盛土地上ニ建チ北十度西ニ長サ三十八米、幅五・五米ノ木造建ニシテ中ニ長サ二十九米、幅四・五米、高サ三・六米ノ煉瓦造乾燥器ヲ据附タリ、乾燥器ノ壁ハ幅〇・一二米長サ〇・二四米ノ煉瓦ヲ横ニ二列ニ竝ヘタルモノニシテ厚サ〇・二五米アリ、該乾燥器ハ地震ニヨリ東ニ倒壞シ外廓ノ木造建物ハ之ニ伴ハレテ亦東ニ倒壞シタリ巡回當時ハ大部分取片附ヲ了セリ

第一小學校舍ハ北六十五度東ニ長キ木造建ニシテ南館ハ平家建、北館ハ平家建ノ上ニ二階ヲ繼足シタルモノナリ、南館ハ南東ニ三四度傾斜シ北東及南西兩側ノ壁ハ大部分剝落シタリ、北館ハ一階ハ南東方ニ、二階ハ北西方ニ、傾斜シタリト云ヒ、一階ハ南館ト同樣ノ被害アルモ二階ハ大破損ナシ

其他ノ倒壞又ハ半壞家屋ハ取崩シ或ハ修繕セラレタルヲ以テ當時ノ狀況明カナラス

(七)都川沿岸　知事官舍附近ハ都川ニ沿ヘル埋立地ニシテ同官邸內ニ外塀ニ竝行シ北三十度西ニ延長七十三米、幅九米ノ裂罅生シ落差ハ中央約〇・二四米ニシテ兩端ニ減少ス、裂罅ヨリハ湧水ト共ニ處々ニ砂ヲ噴出シタリ

之ヨリ北東方都川沿岸ニハ處々ニ石垣ノ崩壞セル處アリ

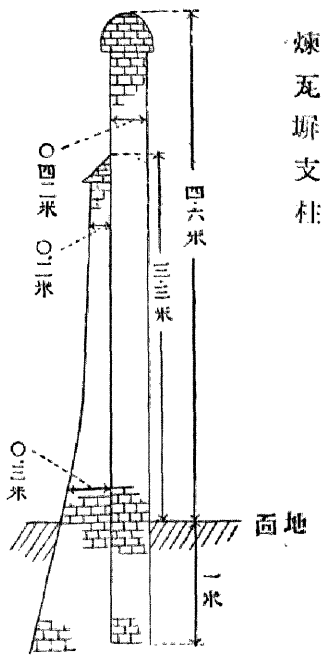
(八)千葉刑務所ノ震災　千葉刑務所ハ千葉市街ノ北東方約二粁ニ位シ平地ヨリ高サ約十五米內外ナル平夷ナル洪積臺地ニ建チ其北部ハ急傾斜ヲナシテ平地ニ臨ミ南部ニハ洪積臺地連亙ス洪積層ハ上部厚サ一二米ハ砂質壚堆、其下ハ細粒粗鬆ナル砂ヨリ成リ、冲積層ハ主トシテ砂ヨリ成ル

震災ハ刑務所ノ外壁ヲ成ス煉瓦塀ニ於ケルモノヽ外屋根瓦ニ小破損アリ、煉瓦塀ハ北七十五度東ノ方向ニ長サ二百九十一米、幅百七十四米、高サ約四・六米(十五尺)ニシテ約一米地下ニ沒セリ、其厚サハ四十二糎ニシテ其外部ニ約二・七米每ニ之ニ接シテ支柱アリ、支柱ハ煉瓦積ニシテ高サ三・三米、幅〇・四米、厚サハ上部ニ於テ〇・二米、下部ニ於テ〇・三米ナリ

煉瓦塀ノ斷面ヲ示セハ第十圖ニ示スカ如シ

第十圖

煉瓦塀支柱



震災ハ煉瓦塀ノ北邊ニ最モ著シク南邊之ニ亞キ東西兩邊ニ僅少ナリ

北邊ニ於ケルモノハ其東部ニ長サ百四十四米ノ間、上部ノ高サ約〇・〇五米乃至三・六米崩壞シ其部分ノ煉瓦外部ニ多量ニ、内部ニ少量ニ落下セリ

尚地面ヨリ高サ一米乃至二米ノ部分ニ略水平ニ龜裂生シ其上ノ部分ハ北方ニ〇・〇二米乃至〇・一米辷動シ龜裂ニ接セル支柱ハ多クハ其龜裂ノ部ヨリ下方ニ剝落セリ、南邊ニ於テハ正門ノ西方ニ地面ヨリ高サ一米ニ長サ二十四米ノ間略水平ニ龜裂生シ之ニ沿ヒ其上部南方ニ〇・〇一米辷動シ之ニ接セル支柱ノ剝落セル箇處アリ、西邊ニ於テハ其中央ニ一箇處ニ地面ヨリ高サ一米ニ長サ一米ノ龜裂略水平ニ生シ之ニ接セル支柱ハ剝落セリ、東邊ニ於テハ殆ト異狀ヲ認メス

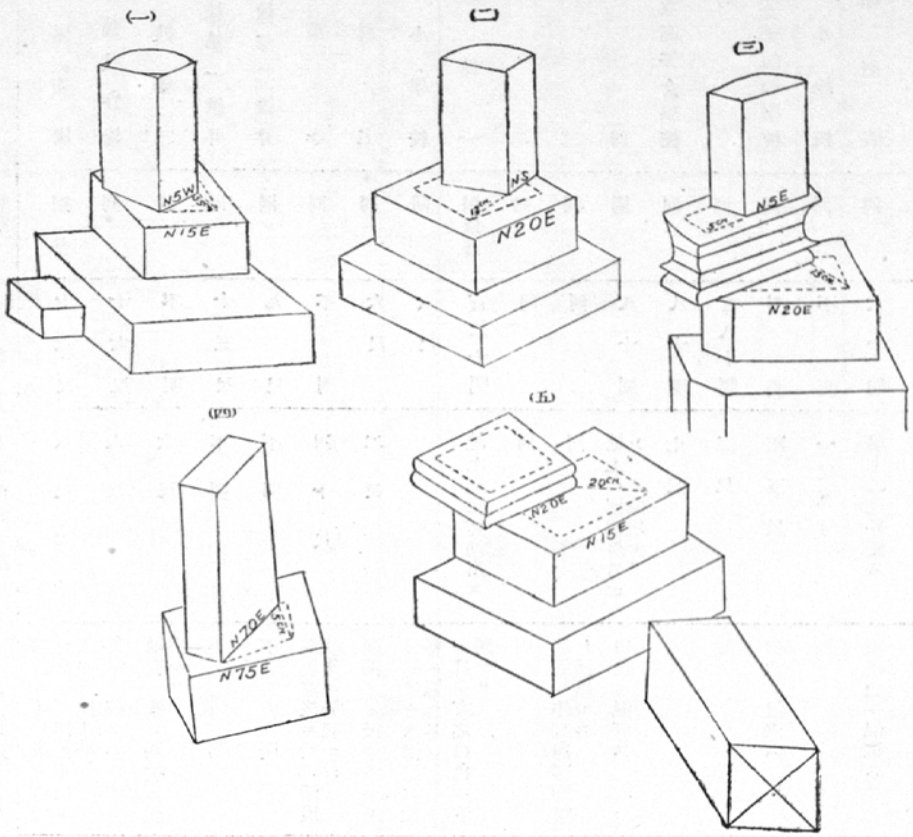
之ヲ要スルニ震災ハ煉瓦塀ノ北邊及南邊ニ甚シク東邊及西邊ニ甚シカラサルニ徵スルニ地震ノ振動ノ方向ハ略南北ナルモノヽ如クニシテ北邊ニ震災ノ殊ニ著シキハ急傾斜地ニ近キ臺地ニ建テルカ故ナラン

(九)井水ノ異狀　本地域ノ井水ハ掘井及掘拔井ノ二種アリテ多クハ各戸ニ之ヲ掘鑿シテ飲料ニ供セリ、本地域ノ地下水準面ハ井水ニ就キ之ヲ檢スルニ地下略六尺内外、掘拔井ニ於テハ地下一尺五寸乃至七尺ニシテ稀ニ地上三尺ノ高サニ湧流スルモノアリ

本地域内ノ主ナル井水ニ就キ其震災ニ依ル異狀ヲ檢セルニ左ノ如シ

所在地	水井ノ種類	水井ノ深サ	地震以前地表ヨリ水面迄ノ深サ	地震當時湧出ノ狀態	混濁及其經過時間	地震後湧出量ノ增減
登戸居喜場	掘井	十六尺	八尺五寸	地震ニ伴ヒ鐵管破裂シポンプ押上不能トナリ其狀不明	不明	不明
千葉園藝試作場	同	十六尺	六尺	異狀ヲ認メス	異狀ヲ認メス	增減ナシ
登戸渡德三	同	不明	六尺	地震ニ伴ヒ崩壞シ湧出セス	混濁セス	水面一尺低下ス
第四分校第一號井	同	十五尺	不明	不明	異狀ヲ認メス	增減ナシ
第四分校第二號井	同	九尺	不明	不明	地震ニ伴ヒ崩壞シ內部砂ヲ以テ充タサル	
千葉寺	同	不明	四十尺	震災前後ニ於テ湧出狀態ニ異狀ナシ		
中村宅	同	六尺	二尺	混濁セルモ後清澄セリ	不明	清水續イテ湧出シ飲料ニ適ス
第三小學校	同	六尺		臭氣アル水湧出シ飲料ニ適セス	震後午後三時頃ヨリ白色ニ混濁シ四日朝ニハ清澄ス	不明
梅松館一	掘拔井	百二十間	地上三尺迄湧出ス	一日夕方迄白色ニ混濁セリ		不明
二	同	同	同	同		
三	同	同	同	地震ニ伴ヒ內部崩壞シ湧出セス		
四	同	八十間	地上ニ流出セスポンプヲ使用セリ	白色ニ混濁ス		增加セルカ如シ
千葉縣立高等女學校	同	八十間	七尺			變化ナシ
同	同	百八十間	三尺			變化ナシ
千葉縣立女子師範學校	同	不明	四五尺	白色ニ混濁ス		
第二小學校	同	不明	一尺五寸	同		多少減少ス
字澤酒店	同	六十間	地上二尺昇騰ス	淡褐色ニ混濁ス		不明
同	掘井	九尺	六尺	同		不明

第十一圖



(一〇)墓碑　地震ノ振動ニ伴ヒテ倒落セル墓碑、燈籠ニ就キ其振動ノ方向ヲ檢セシニ千葉神社境内ニ於ケル石燈籠ハ四基ノ内二基ハ南二十度東ニ、一基ハ北二十度西ニ、一基ハ北ヨリ南ニ倒落セリ

墓石ニ就キテハ千葉寺、來迎寺及本圓寺ニ於テ之ヲ檢セシニ上圖ノ如シ(第十一圖)

寺名	墓石ノ原位置ノ方向	墓石ノ變位ノ方向	變位ノ角度	變位距離
一、千葉寺	北十五度東	北五度西	二十度	西方ニ五・五糎
二、同	北二十度東	南部中北	二十度	北方ニ一二糎
三、同	北二十度東	北部上五度東	十五度	西方ニ一五糎
四、來迎寺	北十五度東	北二十度東	五度	南西方ニ二〇糎
五、本圓寺	北七十五度西	北七十度東	三十五度	北方ニ五糎

大正十四年七月二十八日印刷
大正十四年七月三十一日發行

著作權所有

商工省

定價金四圓七拾錢

印刷者　東京市日本橋區兜町二番地　神谷岩次郎

印刷所　東京市日本橋區兜町二番地　東京印刷株式會社

發賣所　東京市日本橋區兜町二番地　東京印刷株式會社
振替口座東京七九六三番

發賣所　東京市日本橋區通三丁目　丸善株式會社
振替口座東京五番

IMPERIAL GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

NOBUYASU KANEHARA, Director

SPECIAL REPORT

No. 2

REPORTS

ON THE

KWANTO EARTHQUAKE

SEPTEMBER 1923

PART II

BY

M. KADOKURA, T. OGURA AND N. KIYONO.

TOKYO 1925